マザー

かんぜんこうりゃく

完全攻略マニュアル

決定版!!

小田　清
藤原和喜・共著

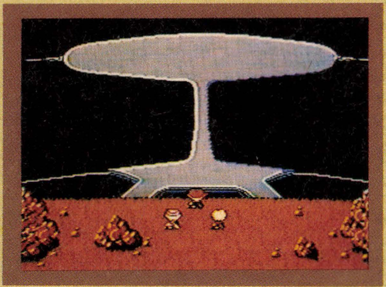
ぼくたちは
出来るかぎりの
勇気をだして
ぼうけんの旅にでた。

MOTHER



袋とじ
㊙データつき!

冬樹社



MOTHER

マザー
かんぜんこうりゃく
完全攻略マニュアル

小田　清
藤原和喜
・共著

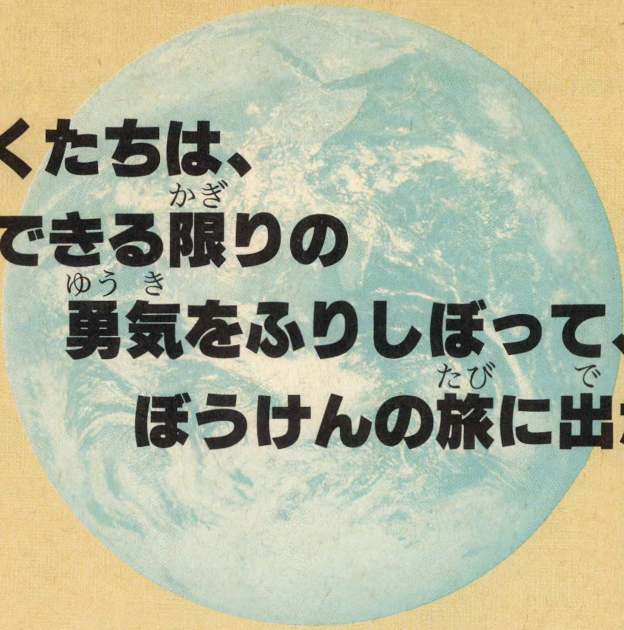


冬樹社

MOTHER

マザー

もくじ



ぼくたちは、できる限り(かぎ)の勇気(ゆうき)をふりしぼって、ぼうけんの旅(たび)に出(で)た。

マップ

おもな登場人物

なかまたち



マイク（ぼく・主人公）

12歳の少年。マザーズデイの町で
暮らしていたが、もちまえの勇気を
ふりしぼって、冒険の旅に出る。超
能力のもちぬし。



ロイド

工作の名人。彼にしか使えない武
器もたくさんある。マイクの友情
で、たくましく生きる勇気をもった



アナ

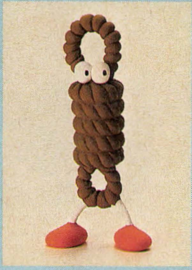
ほかのだれもが及ばない、とてつ
もない超能力をもっている女のこ。
本当にこんな彼女がいたらどうす
る？



テディ

見た目は不良っぽいけれど、実は
とてもやさしい頼りがいのある仲間
いざというときにこんな友ちがほし
いよネ！

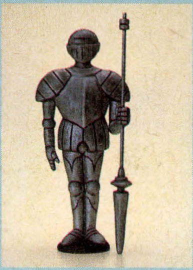
敵キャラクター



ロープ



マッドトラック



かっちゅう



おにいさん



ブラブラ団



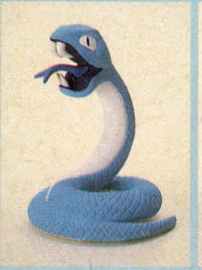
おじさん



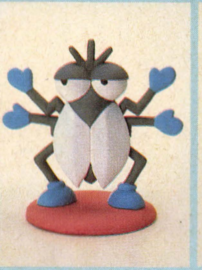
だっそうはん



おばさん



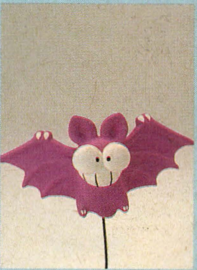
スネーク



フライ



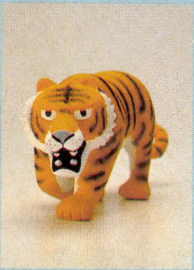
ワニ



こうもりさん



ゴリラ



タイガー



スカンク



くま

THER™


きょぞう


やまねこ


イーグル


バイソン

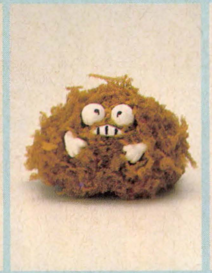

スパイダー


とうぞくカモメ


ギャングゾンビ

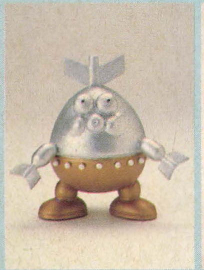

ゴースト

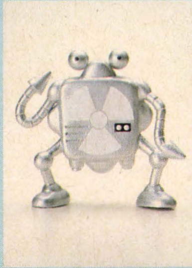

バーボット

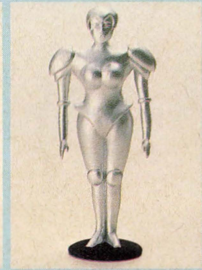

ダストゴースト


血みどろゾンビ


オールドロボ


ボマー


エナジーロボ


ジェーン

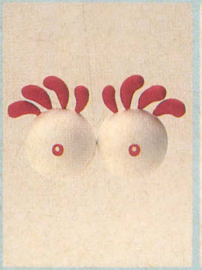

メガボーグ


パパビューン


ベアル

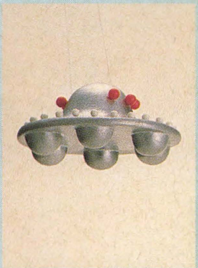

ウッドー


おまけビューン


ビュビー


マジカルスネイル


だいウッドー


リトルソーサー


ファイアボール

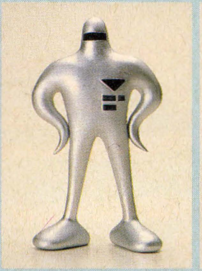

地下大河の主


ビッグフット


ガビラン


タイタニー


ブノインガ


スターマン


ガーゴイラ

僕が体験した、とても不思議な冒険のことを、みんなは信じてくれるだろうか。「まさか、ホラだろ」って10万回は言い返されそうな気がする。でも、これはほんとのお話なんだ。トム・ソーヤーやハックルベリ・フィンの冒険より、ずっとすごい、「スタンド・バイ・ミー」なんかメじゃないくらいの、スリル満点の旅だった。そして、クサいかもしれないけど、愛とか勇気とか友達ってものが、前よりハッキリ見えるようになったと思う。だから聞いてくれるかな、そんな僕の大冒険を。



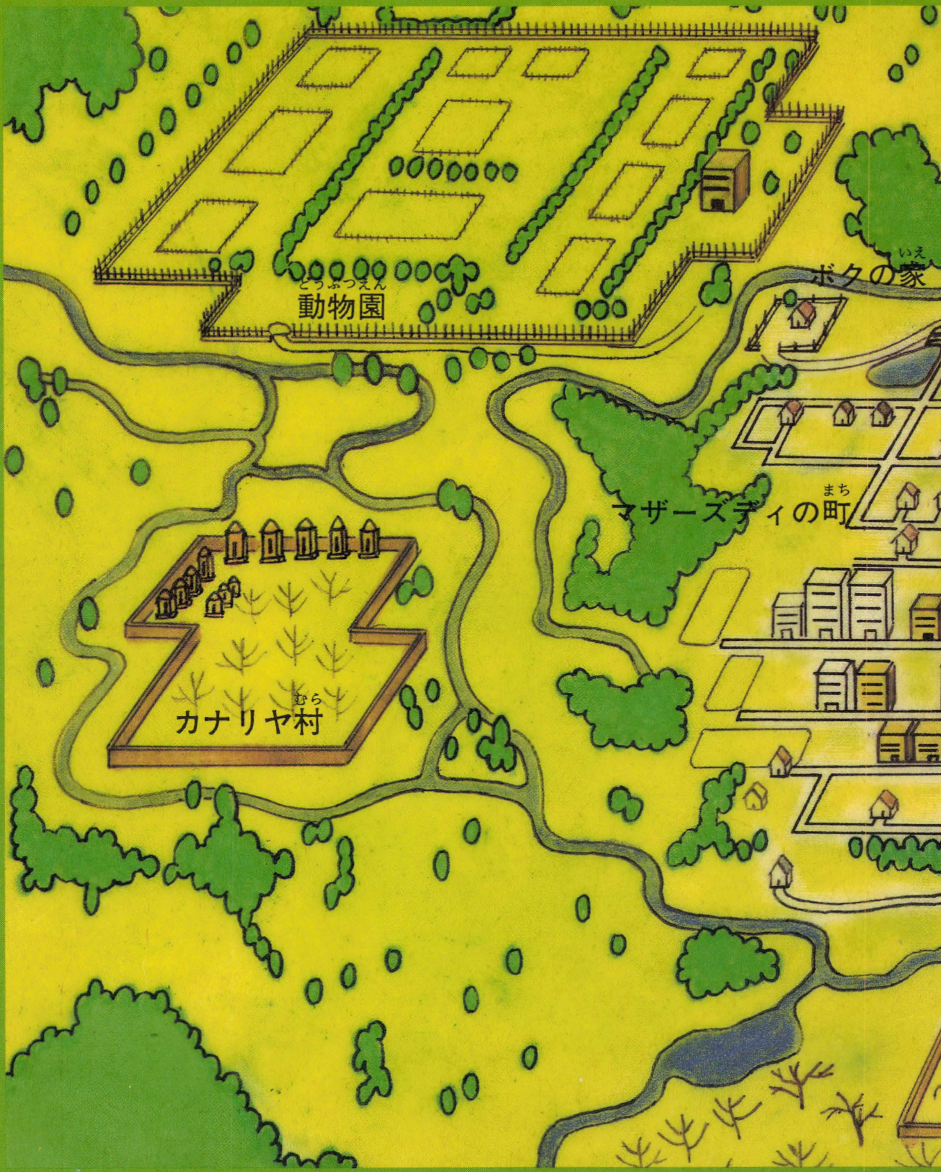
プロローグ

1900ねんだいの　はじめ
アメリカのいなかまちに　くろくものようなかげがおち
ひとくみの　ふうふが
ゆくえふめいに　なりました。
おっとのなは　ジョージ。つまのなは　マリア。
2ねんほどして　ジョージは　いえにもどりましたが
どこにいっていたのか　なにをしていたのかについて
だれに　はなすこともなく
ふしぎなけんきゅうにぼっとうするようになりました。
つまの　マリアのほうは
とうとう　かえっては　きませんでした。

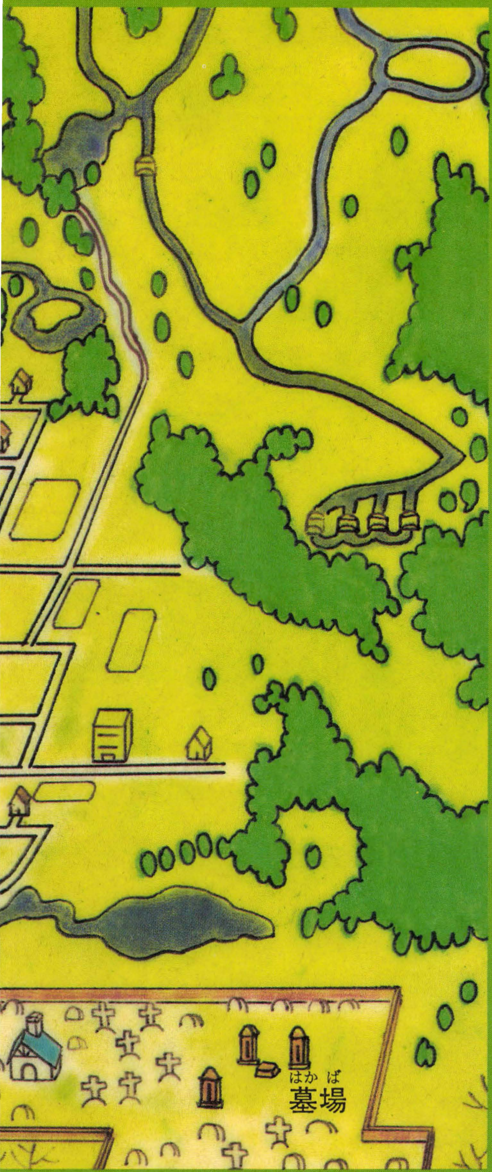
旅立ちの時

MOTHER™

MAP. 1



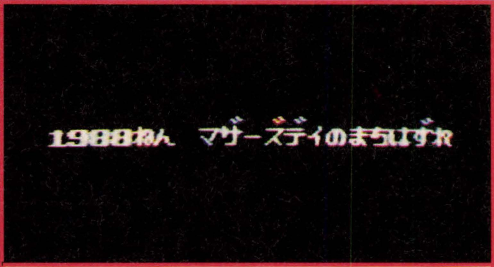
マザーズデイの町の周辺



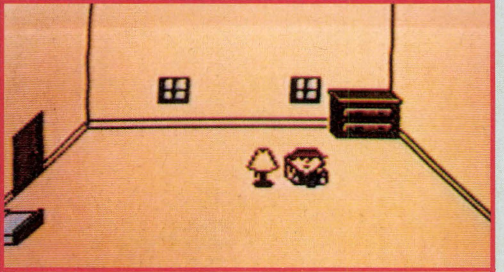
旅立ちの時

ぼくの家はこのマザーズデイの町はずれにある。ぼくの家族は全部で四人と一匹。ぼくと、ママのキャロルと双子の妹ミニーとミミー。それに愛犬のミックだ。パパはどこか遠いところにいるみたい。家に帰ればママがぼくの大好きな食べ物を作ってくれるし、大事な荷物は妹が預かってくれるんだ。

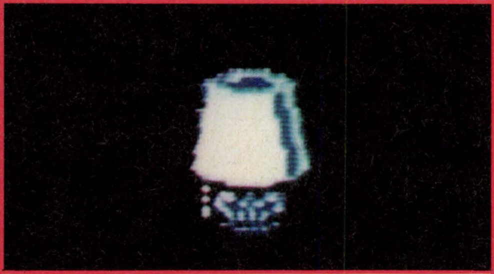
プロローグ——旅立ちの時



90年の時を越えて再びジョージとマリアの子孫の近辺で同じ様な異変が起こりつつあった……。



これがぼくの部屋だ。家具は少ないけど広々として、飛んだり跳ねたりしても大丈夫



これがぼくが事件に巻き込まれて最初の敵、いつも使い慣れたスタンドなのに……。

それは、よく晴れた秋の日のことだった。マザーズデイの町はずれにある僕のうちは、いつもと変わらない静けさに包まれ、ポーチの長椅子に横になった僕は、「今日の午後は、ミック（これは愛犬の名前）と森で遊ぼうかな」なんて考えながら、うとうととしていた。つまり、その日もまるで変わりばえのしない、のどかな一日になるところだったんだ。ところがその時、家の中から「キャアー!!」という悲鳴。思えばそれが、すべての始まりだった。

僕は驚いて、悲鳴が聞こえた妹のミニーの部屋へ駆け込んだ。そこで見たのは、信じられないような光景だった。電機スタンドが、部屋中をとび回ってあば



妹の声だ！ どうやら妹の部屋で大変なことが起こったようだ。

れているんだ！　「お兄ちゃん、怖い！」と泣くミニーを避難させて、僕も大暴れでスタンドと取っ組み合いをし、ようやく抑え込んだ。動かなくなったスタンド。どう見ても、前からこの部屋にあったのと全く同じものだ。なぜこんな？　と思う間もなく、今度は奥の部屋から、ミミーの悲鳴が！　あわてて飛び込む。すると、何てことだ。ミニーの双子の妹、ミミーめがけて、人形が襲いかかってるじゃないか！　「あっ！　助けてお兄ちゃん！」ミミーが僕にしがみつく。「大丈夫、ママの部屋へ行っといて」となだめ、今度は人形と格闘だ。妹たちがかわいがってたキューピーが、すごい勢いでぶつかってくる。「チャイルド・プレイ」じゃあるまいし、どうなってるんだ、全く！　僕と人形はからまり合いながら、床をごろごろ転がり、部屋をめちゃくちゃにしたあげくに、やっと結着がついた。今はおとなしくなった人形。よく見ると、背中に扉がついてる。何かしかけでもあったのかしら、そう思って開けてみると、中は機械だ。でも、それはオルゴールだった。ああ、何だかとても心のなごむメロディーだ。一度聞いたら忘れられないような。おっと、でもこんなとこでぼんやりオルゴールを回している場合じゃあない。ミニーたちは大丈夫かな。

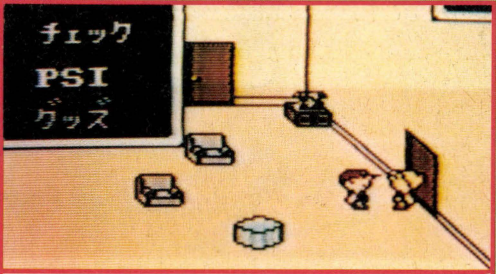
ママの部屋では、妹たちがママに抱か



妹が寝るときも一緒だったキューピーが……？



キューピーから聞こえてくる心和むメロディーが僕の心に何か訴えてくる。



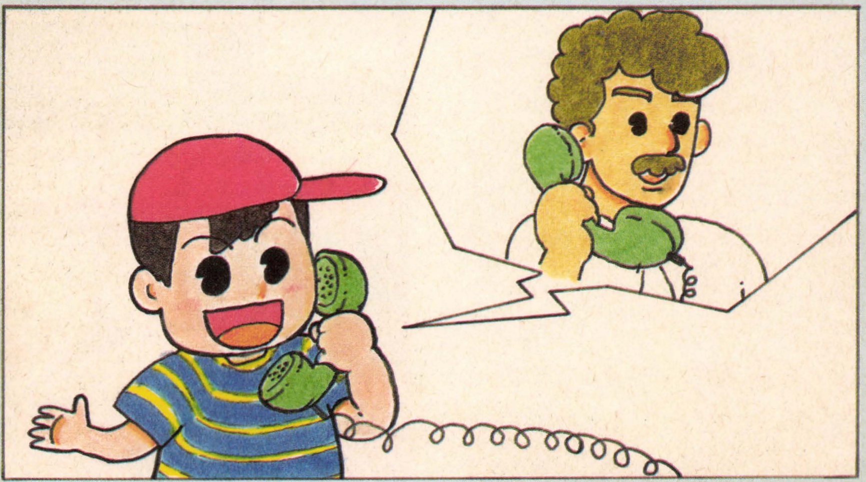
一階では入口の所でママがじっと立っている。まるで金縛りに会ったように……。

れて震えていた。僕が入っていくと、ママが「マイク(これは僕の名前)！　大丈夫なの？　けがはない？」と叫ぶ。「もう平気だ。静かになったよ」と安心させる。

「いったい、どうしてこんなことが起きたのかしら」しっかり者のママも、今日ばかりはオロオロ。もっとも、僕だって全然わけがわからない。一同ぼう然としたところへ、電話のベル。僕が出ると、

「やあ、マイク。元気かい？」受話器から響いてきたのはパパの声だった。パパはちょっとわけがあって、今は遠くにいるんだ。時々こうして電話をくれる。僕は手短に、たった今起こったことをパパに報告した。さすがは頭のいいパパ。初めは驚いてたけど、ちょっと考えてから

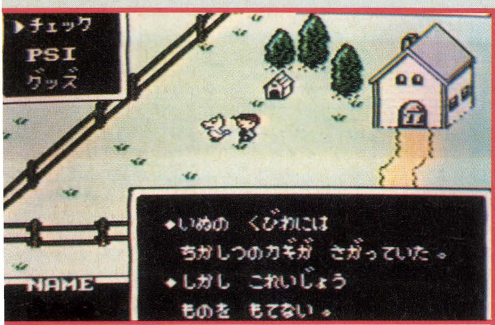
「うーん、それはラップ現象じゃないかな。専門家じゃないからよくわからないが、ひいおじいさんがＰＳＩ（超能力）の研究をしていたはずだ。地下室を探せば、何か手がかりがあると思うよ。パパが家にいればいいんだが、どうしてもそっちへもどれなくてね。マイク、何とか突き止めることを考えろ」「まかせてよ、パパ。僕は男の子だよ。ママたちをちゃんと守ってみせるから、安心して」と答えると、「ありがとう、頼もしいよ。たぶん、その事件は家の中に限らない、大がかりなものになっていくような気がするんだ。君の探検にも思わぬお金が必要になるかもしれない。銀行の口座にお金を振込んでおくからね。それからなるべく電話で連絡しておくれ。気をつけてな。」と言ってくれた。僕は頼りにされて



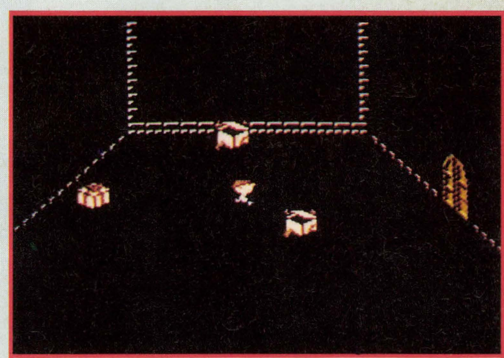
旅立ちの時

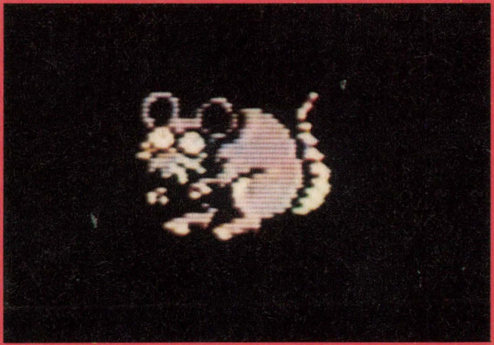
るんだ。今のとこは、たとえ12歳とはいえ、この家でたったひとりの男だもんな。いつか町の映画館で観た「ポルターガイスト」では、ずいぶん頼もしい両 親が必死で子供を守ってたけど、まあ、それぞれ家庭の事情ってもんがあるからね。僕のうちは、今はパパがいない。だから、僕がママとチビたちを守らなくちゃ。

さて、手始めは地下室だ。パパったら、地下室のカギの隠し場所を忘れてたもんで、探し出すのにちょっと手間どっちゃったよ。でもちゃんと見つけて、地下室に入ることができた。ガラクタがいっぱいだ。でもその中から、ひいおじいちゃんの日記と、この地方一帯の地図がみつかった。ひいおじいちゃんのジョージは、昔、奥さん、つまりひいおばあちゃんのマリアと共に、しばらく全くの行方不明になって、ある日ひとりでもどってきたんだって。そしてその理由を、ひとことも、誰にも話さず、ＰＳＩの研 究に没頭したんだって。でも日記では、あまりそんなことには触れていない。今のところ、それほど役に立ちそうじゃないな。地図もあることだし、やっぱり探検に乗り出すしかないかな。ついでに発見したポロバットも何かの足しに身につけて、と。ああ、胸がわくわくするぞ。平和でのんびりした日々もいいけど、退屈な日 常ってやつとバイバイするかと



外に出て犬と話し始めて自分の超 能 力を知った僕、そして犬の首輪には鍵がぶら下がっていた。


地下室には、旅に役立つものがいっぱいあった。


地下室は、すっかりネズミの巣になっていた。

思うと血が騒ぐ。だけどママの心配そうな顔を見ると、ちょっとキュンとなった。

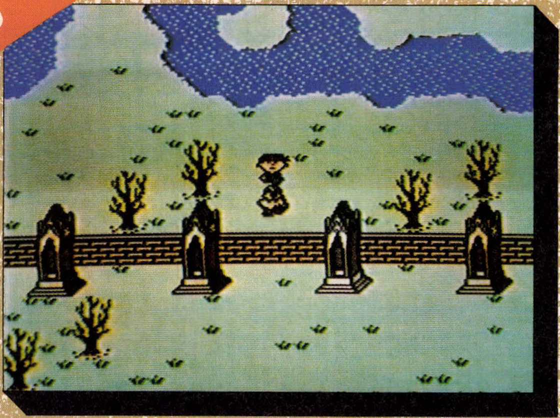
「マイク、あなたを危いめに会わせるかもしれないと思うと、どうしたらいいのか。でも、止めても行ってしまうんでしょうね。せめて、あなたの大好物のアップルパイをいつも焼いて待ってるわ。食べたくなったら、いつでも帰って来るのよ」

「お兄ちゃん、ミニーたちも、持ちきれない荷物があったら預かってあげるからがんばってね」ママや妹たちとキスを交わし、ついに僕は、あの長い長い旅へと第一歩を踏み出したのだった。



ママや妹達に励まされて旅立つ時がやってきた。

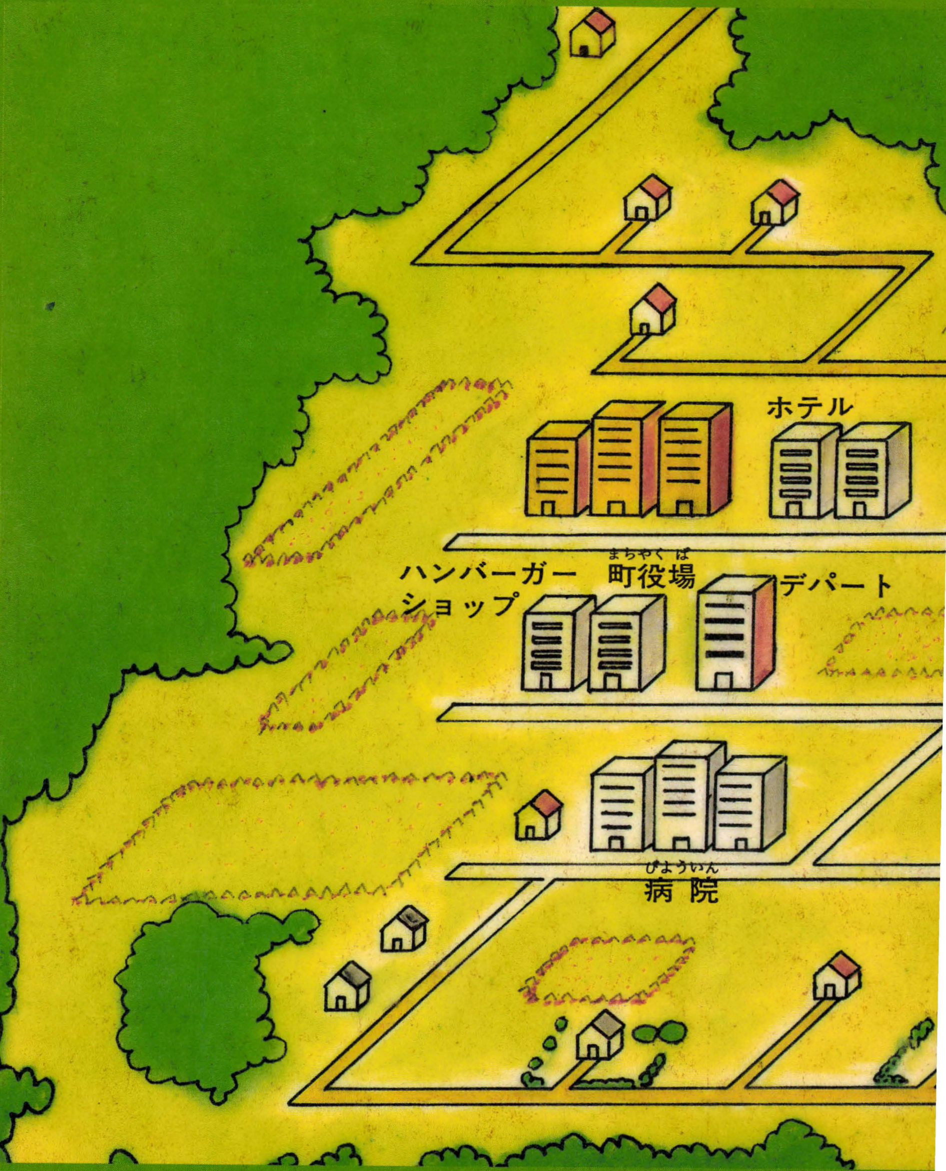
第1章



マザーズデイ

MOTHER™

MAP. 2



マザーズデイの町

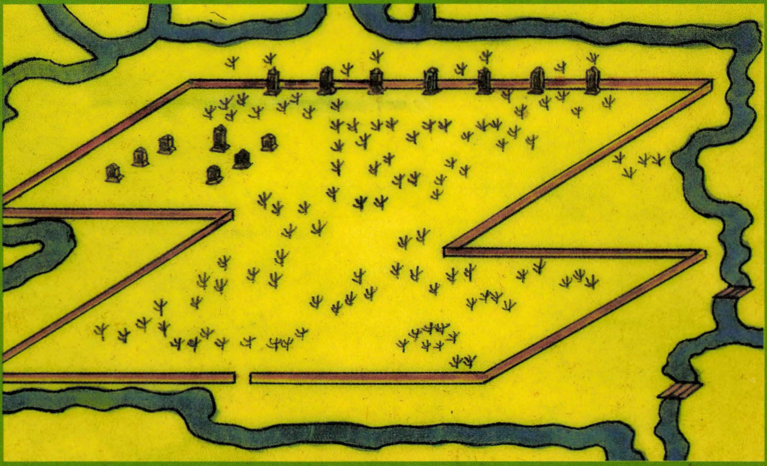


マザーズデイ

この町は小さいけど、大きなデパートもあるんだ。中にはパン屋さんや薬局なんかが揃っている。他にも病院やホテル、ハンバーガーショップなんかもあるんだよ。だけど、ぼくはこの町の町長さんはあまり好きじゃないんだ。なんか、腹黒そうなんだよね。

ここではたくさんのカナリヤたちが美しい歌を歌ってくれるんだ。でも、最近カナリヤたちが元気がないんだって、おじいさんが言っていた。ここに住んでる世話役のおじいさんは、カナリヤと話ができるんだ。入園料もタダなのが魅力的だね。

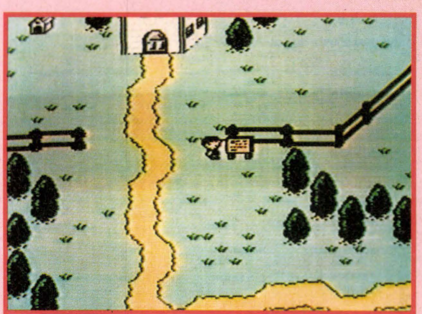
MAP. 3 カナリヤ村



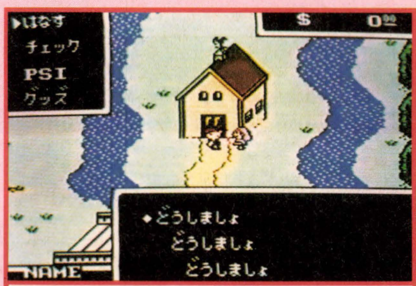
第１章———マザーズデイ

マイホームを後にして、マザーズデイの町中に向かう。小川の小さな橋を渡ると、ピッピという小さな女の子のいる家がある。ちょっと遠いけど、お隣さんてわけだ。ミニーとミミーはピッピと仲良しなので、しょっちゅう行き来しているし、僕もよくお昼なんかごちそうになったりする。だから、ちょっとお別れのあいさつをしていくか。戸をノックしようとした時だ。ピッピのお母さんが庭のほうから走り出て来て、「ああ、マイク、うちのピッピを見かけなかった？　町の方に行ったきり、帰ってこないのよ。迷子になちゃったのかもしれないわ」気の毒に　気も狂わんばかり。僕も町に行くから、町長さんに会って話してみる、と約束しておばさんを慰めて別れた。

さて、また町へ向かって歩き出す。すると、林の中から野良犬がとび出して、僕に向かってきた！　すごく狂暴なヤツ。でも変だな。この辺の野良犬なんて、いつもはとても大人しいのに。わっ！　とがった歯でかみついて来る。しょうがない。ボロバットを振回す。しめた、ひ



これがマイホームの表札なんだ。



町に行く途中にある仲良しのピッピの家の前では、ピッピのママが大騒ぎしている。

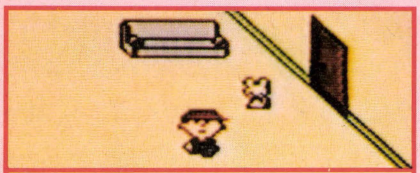


家を出たぼくを待っていたのは、野良犬や蛇や近所のおじさんだった。

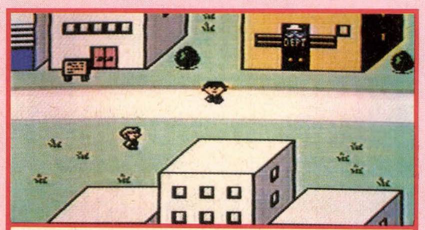




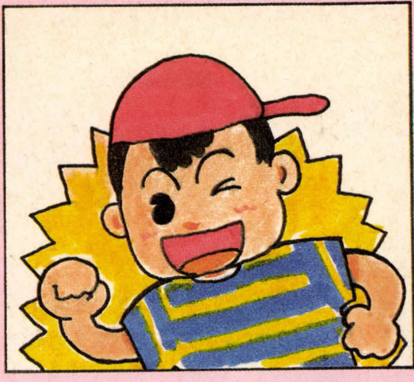
体力回復のために妹からもらったジュースをひったくってしまうカラス、本当に頭にきちゃう



町に入った所に住む白ネズミは、入れる建物と入れない建物の見分け方を教えてくれる。さすがにネズミだけ。いつも行ったり来たりしているのだろう。



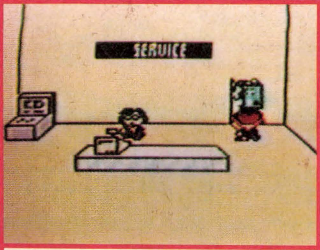
町にはホテルやデパートなど高層ビルが立ち並んでいる。ここでぼくは旅に役立つ道具や食料、情報を集めるのだ。病気やケガをしたら病院だってあるし、疲れたらホテルでリッチに休息しよう。



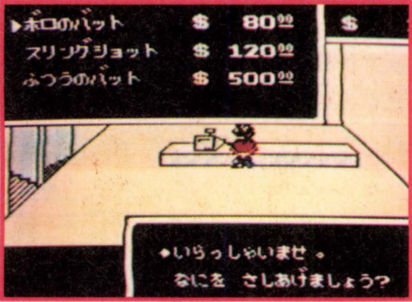
るんだぞ。大きくふりあげて、たたきつけろ。「クーン！」と一声、高くうなって、犬は動かなくなった。やれやれ、でも悲しい。僕はいつだって野良犬たちと仲が良かったのに。これからは、好きだった者たちと戦わなくちゃいけなくなるんだろうか。だけど、ゆっくり悲しんでる暇もなく、今度はカラス達が襲ってきた！　必死で僕は追い散らす。動物達が狂暴化しているようだ。何があったのだろう。この分じゃ、町でも問題が起こっていそうだな。急がなくちゃ。

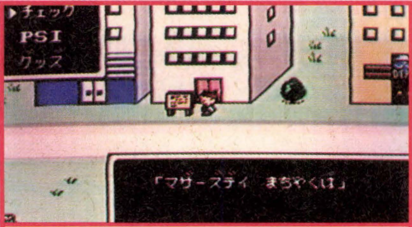
マザーズデイの町は、とても小さい。だけどきれいな通りにデパートやホテルもあって緑に囲まれた小じんまりとした町だ。スピルバーグのセットみたいだぞって、僕はひそかに気に入ってるんだ。でも、今日は、いつもと様子が違う。町の人達は、不安そうな顔で行き交い、ひそひそと言葉を交わしている。僕も仲間に入り、いろんな話を聞いたけど、驚くことだらけだ。町の南にある墓場では死

第1章

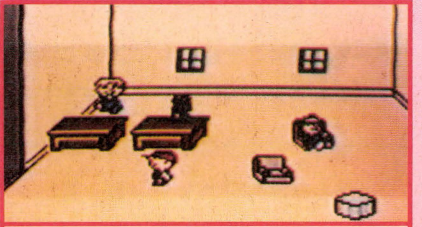


デパートの1階では商品の返品やお金をおろす自動支払い機がある。パパとも連絡できるように公衆電話もある。





ここが町役場だ。ピッピのママに頼まれたことを町長さんに話さなくては……。



部屋の中央でふんぞりかえっているのが町長さんだ。

人がよみがえり、ゾンビとなってさまよっているというし、動物園では動物達が暴れだしたので閉鎖されてしまったらしい。思ってた以上に深刻な事態だぞ。とにかく、まずはお金を手に入れなきゃ。デパートの一階にキャッシュ・コーナーができたというので、さっそくそこでパパが入れてくれたお金を引き出した。次は腹ごしらえだ。オレンジジュースとパンを買う。オレンジジュースは僕の元気の素なんだ。これを飲むと、ぐんと力がアップした気がする。よし、これで勇気がわいてきたぞ。そうだ、ピッピのお母さんと約束したんだった。町長さんに会わなきゃ。

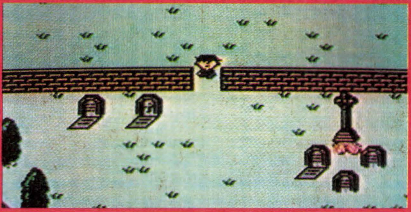
町役場の受け付けのお姉さんは、町でも評判の美人。僕を町長さんに会わせてくれた。町長さんは、今度の事件で、パニック状態になっちゃってる。僕がピッピのことを話すと、「おお、きっとその子のことだ！　いやね、子供が墓場へ迷い込んでしまったらしい、という情報が入っててね。だが、墓場にはゾンビがうろついてるというので、手がつけられなくて困ってたんだ。町長選も近いというのに全どうしたらいいのか。そうだ、君、どうかその子を救け出して来てくれないかね？」ちょっと怖いけど、ピッピのためだ、僕はＯＫした。「ありがとう、頼んだぞ！」と励まされ、墓場へ向かう。

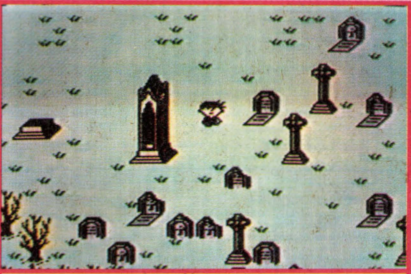
町の人たちは、やめた方がいい、と止めた。実際、近づくごとに、墓場からは不気味な気配が漂ってくる。さて、入口はどこかな。あそこを歩いてる人に尋ねてみよう。「あのう、この墓地の入口は、キャー!!」僕が尋ねた相手はゾンビだったのだ！　「脳みそをくれ〜」と追いかけてくる！　助けてくれえ！　わあっ、こっちからもゾンビが！　こうなったら、戦うしかない。幸、さっきパワーアップしたところだ。いくぞ！　僕は勇気をふりしぼってゾンビに立ち向かった。先制攻撃！　パンチ、パンチ！　だけどゾンビは手強い。やられてもやられても立ち上がる。負けそうだ！　ええい、とび蹴りだ！　やったぞ、ゾンビが倒れ伏した。とどめだ！　ふうっ、やっと大人しくなった。さあ、早く墓地の中に入らなくちゃ。

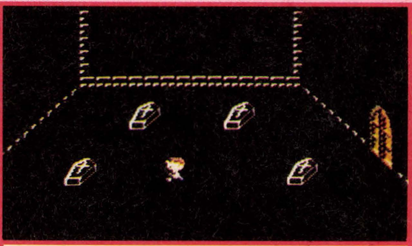
入口を見つけて中に入ると、今度は墓場コウモリが襲ってきた。ちょっとびびったけど、ゾンビとの闘いで、僕はますます強くなったみたい。わりとかんたんに追い払うことができた。「ピッピ、どこにいるんだい？」お墓の間を大声で呼びながら探すけど、返事はない。もしかしたら、地下室にいるのかも。地下室にはたくさんの棺桶が収められているんだ。中は真暗、わっ、またコウモリの群が！　ええい、蹴散らしてやる！　ほっ、静か



立て看板はとっても便利。目的地の方角がすぐにわかるョ。


ここが墓場の入口だ。音楽もなんとなくぶきみになってきた。角に見える青屋根の建物が教会だ。ここでピッピのことを聞いたら何かわかるかな？


あれ？　ひとつ上の塔がなくなっている所があるぞ、のぞいてみよう！

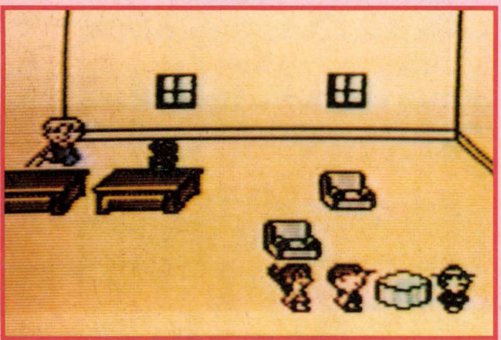

地下室には４つの棺桶。ドラキュラでも眠っているのか？　フタを取るのは恐いけど調べないわけにはいかないね！

第1章

になった。すると、棺桶のひとつからピッピがとび出してきた。「ああ、マイク！私、迷子になっちゃって、怖くてここに隠れてたの」僕に抱きついて泣きじゃくる。見つかってよかった！

僕はピッピをおんぶして、町まで連れて帰った。町長さんは大喜び。僕の勇気をほめたたえて、お礼にと100ドルをくれた。でも、ピッピには「町長さんが救けてくれたって、ママに言うんだよ」なんて教てる。調子いいんだから、全く。しかも「ところでマイク、君の力を見込んで頼みたいんだが、動物園の件も、何とかしてくれないだろうか？」だって。だけど乗りかかった船だ。僕は引き受けた。それに、動物やゾンビとの闘いを通して、僕は自分の力がぐんとアップしたのを感じてるんだ。実は僕には前からちょっとしたＰＳＩが備わってた。テレパシーとかね。でも今は、それが広がって、回復力とか、攻撃力や防御力のアップなんかが自在にできるようになったみたいなんだ。この能力を使って町の平和を取り戻さなきゃ。

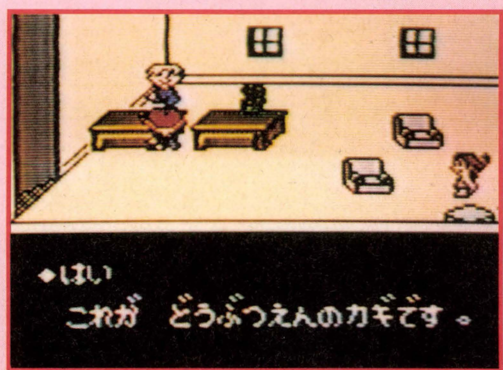
動物園は町の北はずれにある。門のカギをもらって、僕は出発した。あ、でも一度家に帰ってママのアップルパイを食べて休もう。ピッピが「あとで私の家に



今か今かと待っていたように喜ぶ町長さん。ちょっとずるいところもあるけれど、100ドルの報酬をくれたのでしかたないか。



町長からまたも仕事を押し付けられた。しかたない、町のみんなのためにもここはひとつガンバッテみよう

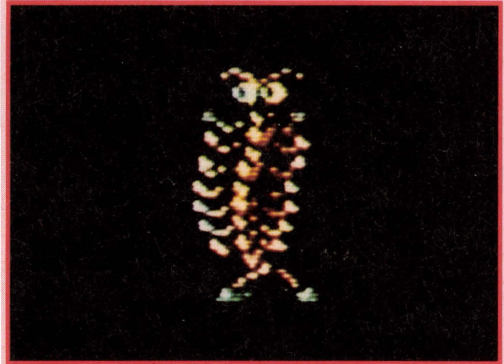


ピッピと別れるのはつらいが、動物園の鍵をもらって出発だ

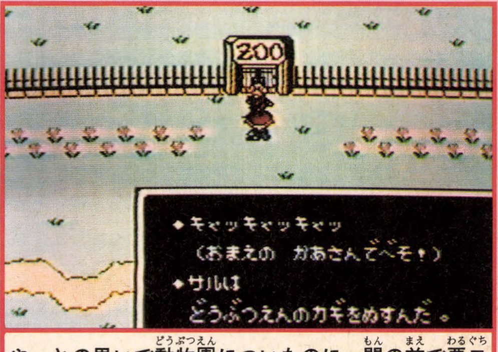
寄ってね」と言ってたし。立ち寄ってみると、ピッピはもうすっかり元気になってた。「マイクのおかげよ、お礼にこのフランクリン・バッチをあげる。僕は胸にバッチをつけて我家に戻った。ママもミミーたちも、大喜びで迎えてくれる。僕の活躍の噂は家まで届いていて、ママは僕を誇らしく思う、と言ってくれた。「でも、こんなに傷ついて、可哀想に。さあ、これを食べて元気を出してね」うーん、ママのアップルパイはやっぱり最高だ。ゆっくり身体も休めたし。さあ、出発だ。

動物園までの道のりは遠い。途中でムカデやスネークに悩まされたけど、何とか切り抜けた。困ったのは、ふだんは優しいはずの農家のおじさんが、くわをふりかざして襲いかかったり、メガホンを持ったお兄さんが、変な演説を浴びせてきたりしたことだ。戦いたくはないんだけど、仕方ない。そして、僕の攻撃に負けると、どちらも我に返るんだ。どうなってるんだろうね。そんなわけで、僕は始終ライフアップして力を回復させながら、やっとのことで動物園にたどり着いた。



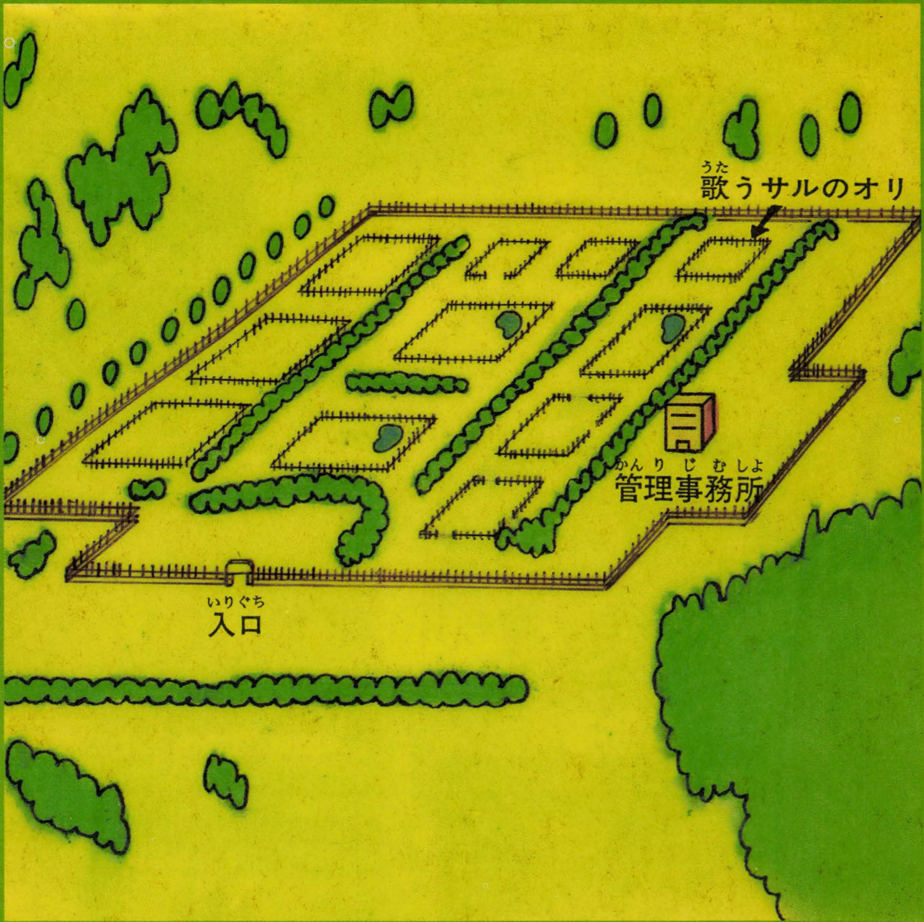


動物園に行く途中もムカデやうっとうしいハエが攻めて来る。



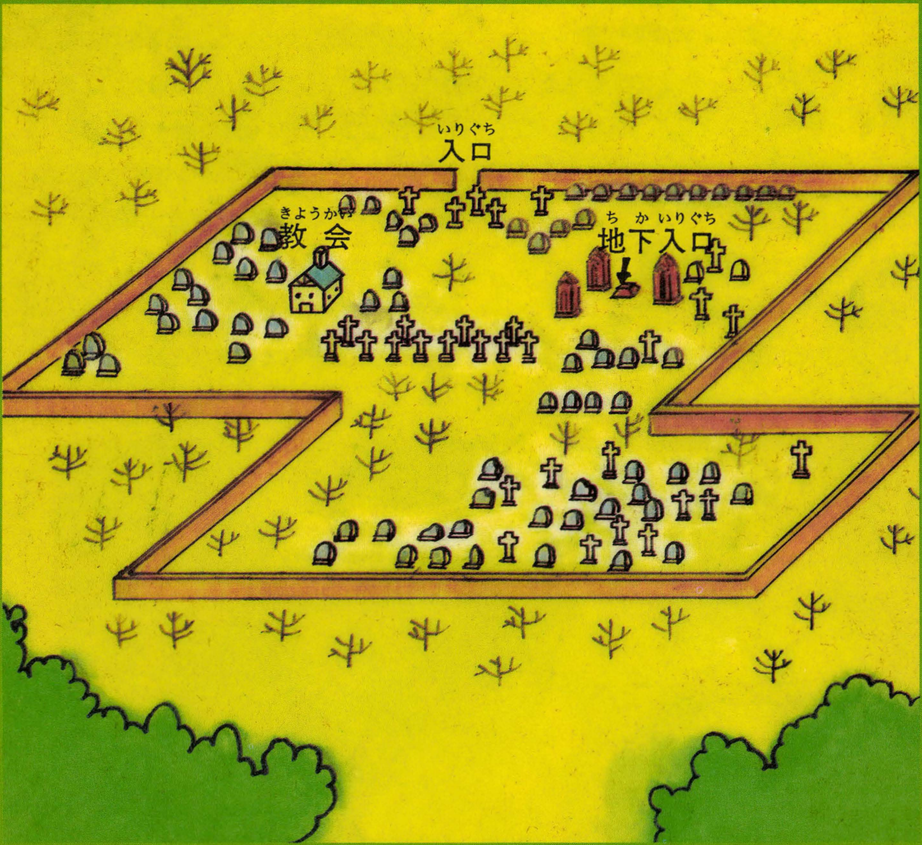
やっとの思いで動物園についたのに、門の前で悪口をいうサルにカギを奪われてしまった。が、よく見るとカギはこわれていたのだ。

MAP. 4 シュークリーム動物園



マザーズデイの町はずれにある動物園は、休日になるとたくさんの人がやってくる。ここにはいろんな種類の動物達がいるんだ。ぼくもよくここへ遊びにいったっけ。だけど、今度の事件で動物達が暴れだしてここは閉鎖されてしまったんだ。

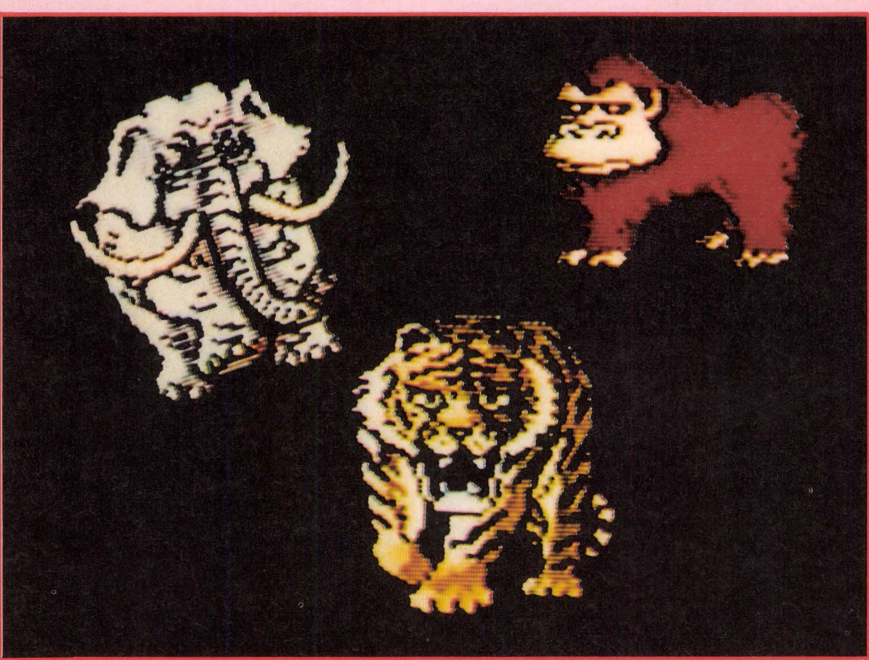
MAP. 5 墓場



マザーズデイの町から南へちょっと行った所にこの墓場があるんだ。はっきりいってぼくはここがキライ！　ただでさえ恐い場所なのに、今度の事件で死者たちが動きだしたなんて……。でもそんなことも言ってられない。隣に住んでいるピッピちゃんがこの墓場の近くで行方不明になってしまったんだ。勇気をだして、ピッピちゃんを捜さなきゃ……。

第一章

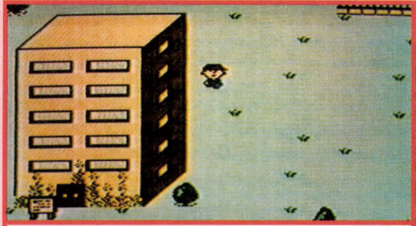
閉鎖された動物園。以前はよく家族で遊に来たんだけど、今は人の姿はない。おりの間を歩いていく。あっ！　物かげからハイエナがとび出してきた。何頭も出てくる。僕を食べる気か？　食べられてたまるもんか！　やっつけてやる！　一人で相手するのは大変だったけど、何とか全部倒すことができた。でも、ほっとしたのもつかの間、今度は巨象が鼻を揺らして向かってきた！　僕はとっさに、心の中で「眠れ！」と念じた。するとどうだ！　象の巨体はとたんにくず折れ、地面に横たわって眠り込んでしまったのだ。知らないうちに、僕は催眠術まで身につけていたらしい。これは便利だ。戦わなくてすむもの。…と思ったけど、甘かったようだ。そのあとに出てきたワニやタイガーにはきかなかったのだ。この催眠術はいつも利くとは限らないらしい。結局僕は全力で戦うしかなかった。そして、本当に死闘の末、僕は勝った。　動物たちをなぎ倒しながら、僕は変な音の出所を探し歩いた。それはどうやら、管理事務所の建物から聞こえてく



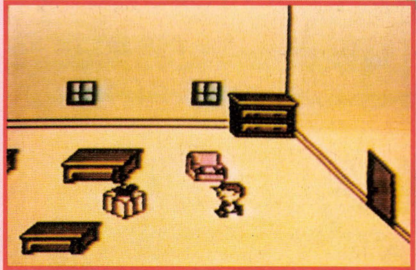
動物園のなかでは三大強敵の一つとなるゴリラの攻撃だ。タイガーはすばやく鋭いツメで二重攻撃。出たー!!　動物園最強の巨ゾウ踏みつぶされたらたいへんだ。

るようだ。無人の建物に一歩、足を踏み入れる。やっぱりそうだ。この奥から響いている。僕は、部屋という部屋を調べて回った。毒消しや傷薬、マジックハーブ（これを食べると戦闘力が回復する不思議な薬草だ）などをみつけたが、肝心の音の正体はつかめない。だけどついに、最後の部屋で僕は見た！　大きな卵型のカプセルが宙に浮いているのを！これだ、と思った瞬間、カプセルから、全身が銀色に光る人間？　いや宇宙人のようなヤツがとび出した！　こいつは強い。あっ！　PKビームだ、やられた！…あれ？　まだ生きてる。そうか、胸のバッチがビームをはね返したんだ。ありがとう、ピッピ。さあ、もうこわくないぞ。かかって来い！　僕はいままでに得た力を集中させて立ち向かい、危ないところで、そいつを倒すことができた。すると、今まで聞こえていた変な音がきえた。外に出てみると、動物たちは大人しくなっていて、僕のために道をあけてくれた。どうやら、あの宇宙人のようなヤツが、動物たちを狂わせる音を発生させていたようだ。ともかく、これで動物園は安全になったぞ。

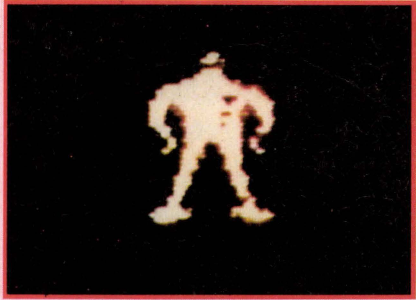
僕は来る時に道にまいてきたパンくずをたどって、町へ戻った。またも町長さんは大喜びだ。「ありがとう、これでマザーズデイに平和が戻ってきた」でも、



動物園の管理事務所にたどりついたぞ。食料をとって体力を回復して突入だ。



部屋の中には嬉しいプレゼントの箱があちらこちらに、助かるなー。





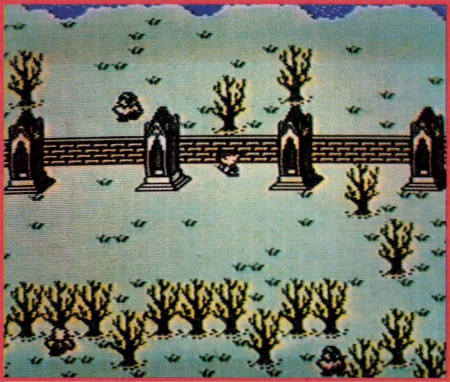
動物園のことを町長に報告にきたのになんていいぐさだ。

第1章

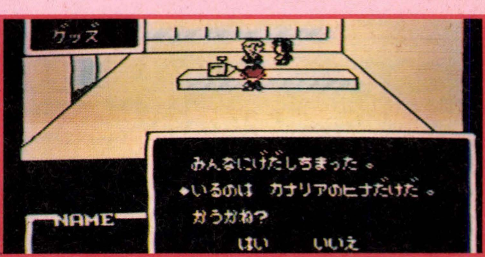
ラップ現象の謎はまだ解決されてない。この町でわからなかったら、もっと遠くへいくしかない。僕は、隣町のサンクスギビングへ行ってみよう、と心に決めた。役場を出る時、受け付けのお姉さんが、「不思議な少女の噂をきいたことある？　きっと、その子があなたの旅を助けてくれるわよ」と教えてくれた。ＰＳＩを持っているのかな、その女の子。どこにいるんだろう。早く会ってみたい。



受付のお姉さんから、話が聞けたぞ。でも、不思議な少女ってだれだろう。

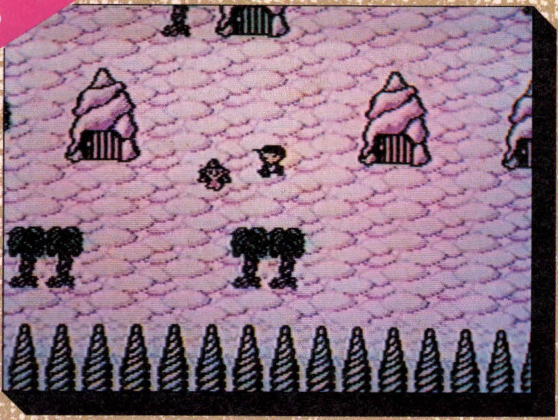

一匹だけ塀の外にいるカナリアがいるぞ。ここはあいている塀を通り抜けてと。

さて、マザーズデイでの冒険は終った。墓場や動物園での体験は怖かったけど、その合間に、カナリアのひなをカナリア村の歌姫ローラに届けてあげて、きれいなメロディをきかせてもらったり、デパートで持ち物を売ったり買ったり、ハンバーガー・ショップでおなか一杯食べたり、ホテルに一人で泊まったりと楽しいこともたくさんあった。町の人たちも親切にいろんなことを教えてくれたしね。こんな経験を、これからの旅にもいかしていかなくちゃ。おっと、ここでパパに電話しておこう。僕はパパに、この町での活躍を報告した。パパは「それは頼もしいな、マイク。だけど疲れただろう。休んじゃどうだい？」と優しく言ってくれた。でも、休んでなんかいられない。早くこの謎を解き明かしたいんだ。「そうか。お前もママに似てがんばり屋だからな。それじゃ、がんばってくれよ。またお金を振り込んでおくからね」とパパ。ようし、サンクスギビングへゴー!!



ペットショップに残っているのは、カナリアのヒナだけ。ここでうまいことやると、ただでカナリアのヒナが手にはいるのだ。

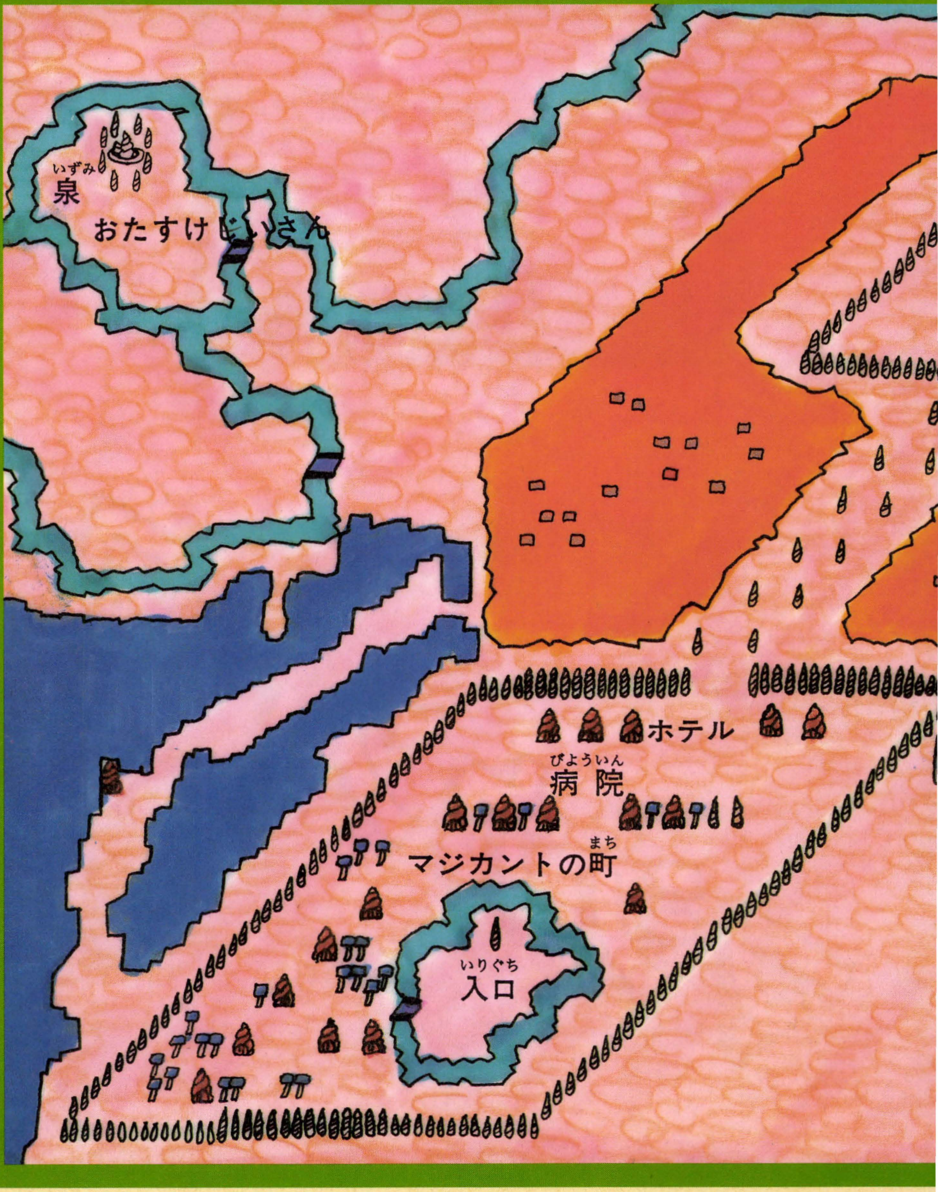
第II章



マジカント国

MOTHER™

MAP. 6



マジカント国



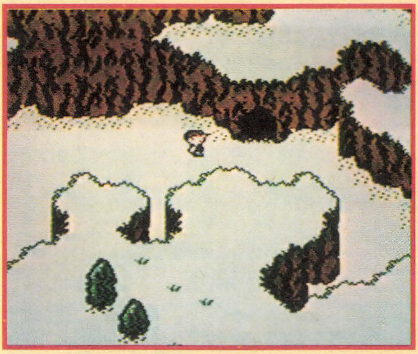
マジカントは異次元の世界なんだよ。だから任天堂のゲームに付いているマップにも載っていないんだ。この国の人々は善意にあふれているんだ。この世界では治療や回復はすべて無料！それに貴重なアイテムも売っている。ゲームのカギを握る重要な世界なんだよ。

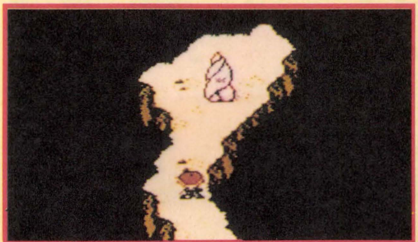
第Ⅱ章 ——— マジカント国

いったい、ここはどこなんだろう？僕はさっきから途方にくれている。サンクスギビングへ行くつもりが、とんでもないところへ来てしまったらしい。ふだんは、サンクスギビングへ行くには、マザーズデイの東にある橋をわたればいいんだけど、町長さんの命令で戒厳令がしかれ、兵士が通せんぼしてるんで、ずっと北回りをしなくちゃいけなくなったんだ。で、動物園の東にある橋をわたったら、岩だらけで、どっちへ行ったものかわかりゃしない。迷ってると、岩の中腹にトンネルのような穴があった。そこに入ると、中は細長いほら穴になっていて、つき当りに、ソフトクリームのような形のピンクの塔が立ってた。その塔から何物かが僕の心の中に問いかけてくるのを感じたんだ。そこで僕はテレパシーを使ってその声を聞きとった。それは、「神のしっぽはどこにある？」という言葉だった。僕は、ひいおじいちゃんの日記にその続きが記されていたのを思い出し、それを読み上げた。「天かける船の忘れ物！」すると、そのとたん、僕の身体



下の橋の兵士は通してくれなかったが、この橋の兵士は通してくれそうだ。

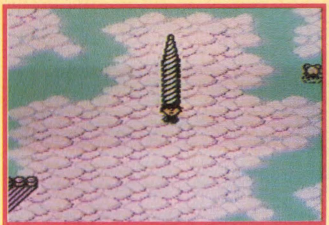




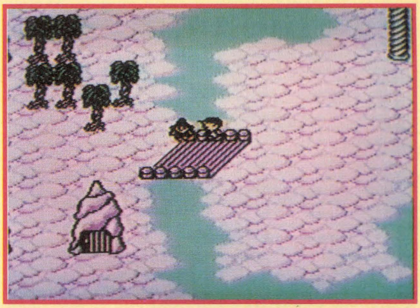
洞窟の中はひんやりした感じで、突き当りにピンクのソフトクリームらしきものが何かを語りかけてくる。

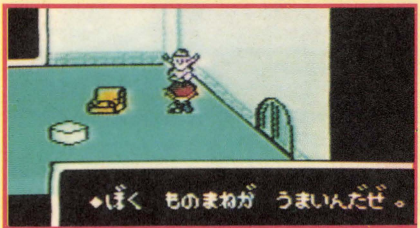
マジカント国

はふわっと浮かび、気がつくとここにいたってわけだ。ここってどこかって？それが問題なんだよね。雲のよううにふわふわした地面。さっきの塔みたいな屋根をもった小さな家々。淡いピンクの世界。まるで天国みたいなところだ。住んでいる人たちは、白雪姫に出てくる小人みたいなかっこしてるし。とにかく、僕らの世界とはまるで別の世界。それは間違いないと思う。こんなとこに迷い込んじゃって、元の世界に戻れるのかしら。でもここでボーッとしてても、どうにもならない。みんな人なつっこそうだから、いろいろと話を聞いてみることにしよう。僕は、いろんな家を訪ねてこの国についての情報を仕入れた。この国はマジカント国といい、北の方にクイーン・マリーの住むお城があること。城の近くにあるクイーン・マリーの泉は、その水にふれ



なんと不思議な所へ出てしまった。マジカントの世界。ここが第一歩と言うわけだ。ピンクのソフトクリームのような家がたくさんある。

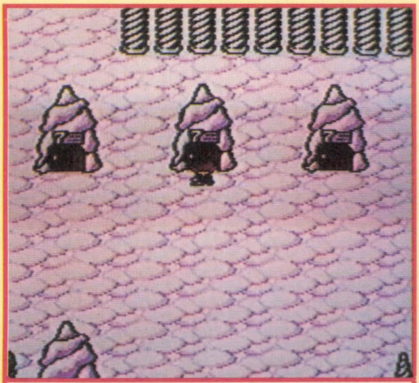




電話がないこのマジカントでは、ものまねがうまい人が重宝だ。



マジカントに生えている赤い草がマジックハーブの元だったんだ。



マジカントで唯一お金で商品を買うお店。また、防具もここでしか買えない。マジカントに来る前にお金はおろしてきたかな？



希望のオカリナを手にいれた。これで、いままでに憶えたメロディーを聞くことができるよ。



ワー……ネコが泳いでいる。



マジカントの一番イヤなヤツ。ベアルは、早いとこ倒さないと背後霊のようなホワイトベアルを呼んでしまうぞ。こいつの最後の一撃は避けたい。



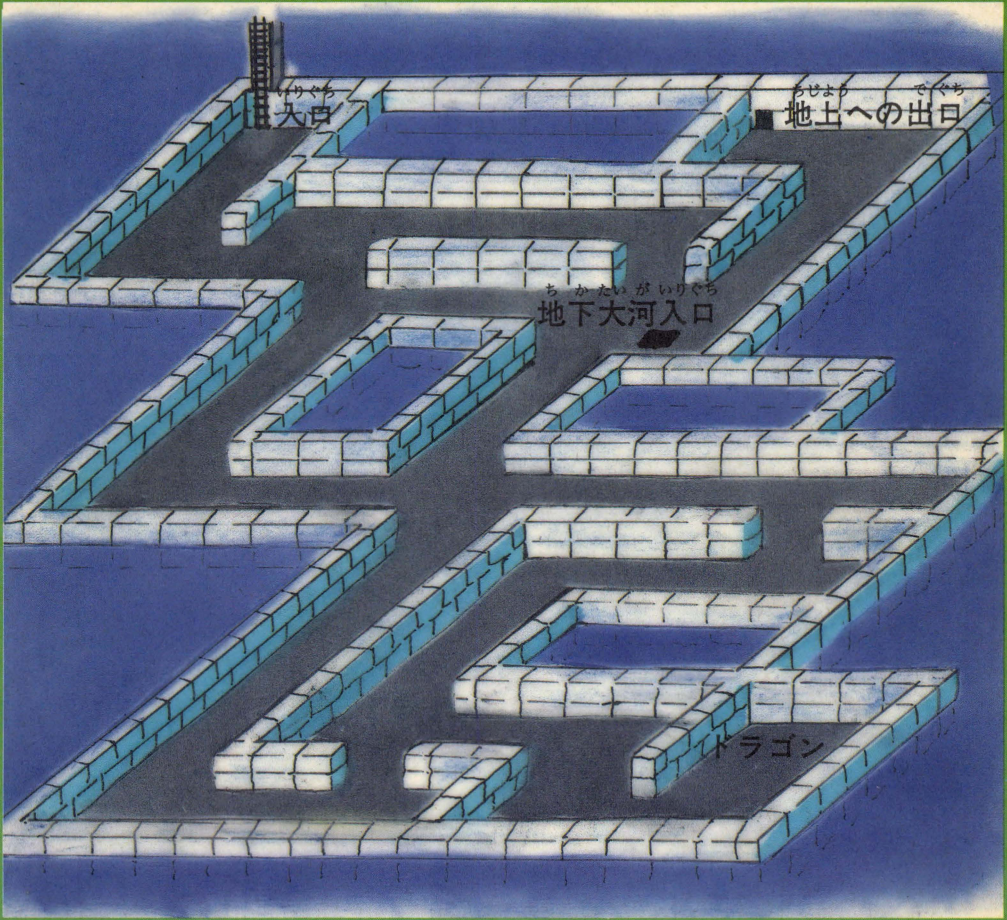
めずらしい地面を泳ぐネコ。でも、パーティーに女の子が加わわってからこよう。

ると元気になるという不思議な力を持っていること、城の囲りの赤い草をその水につけるとマジックハーブになるってことなど。僕のこと、よそ者だとか変な服着てるとか言う人もいたけど、だいたいみんな親切だった。ある人などは、自分で作った希望のオカリナを僕にくれた。知ってるメロディが流てくるので、何だか勇気づけられる。それから、小さな男の子が曲てしまったスプーンを元に戻してあげたんで、すっかり感謝されて、家に泊めてもらったんだ。とてもあたたかいもてなしを受けて、僕は元気がみなぎってくるのを感じた。翌朝、男の子と別れた僕はとりあえずお城へ行って、クイーン・マリーに会ってみることにした。謎について何か知ってるかもしれないし、ここではみんなの憧れのまとなんだもの、それに、僕にとても似てるんだって。一度見てみたいじゃない。

お城へ行く途中の森でも、いろんなことに出くわしたよ。目玉だけのおばけ、ビューンや熊のような怪物ベアルに襲われて戦ったし、かわいい女の子が、「私のこと、忘れないでね」と、友 情の指輪をくれた。

地面を泳ぐネコというのには驚いたな。「オレの手の中にあるものを当ててごらん」と言われ、透視して「ふしぎな力のわくリボン」だって当ててみせたんだけ

MAP. 7　マジカント国の地下



マジカントの東に、穴がいっぱいあいた地域がある。そのどれかの穴から地下につながる道があるんだ。地下は迷路状になっていて、敵も多いから気をつけて！　この地下世界には重要な情報や、価値のある宝物がかくされている。ガンバッテ！

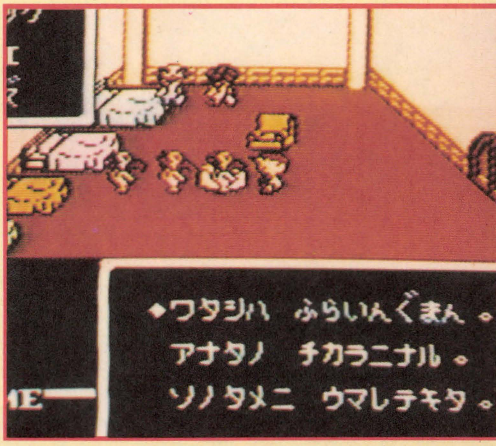
第II章

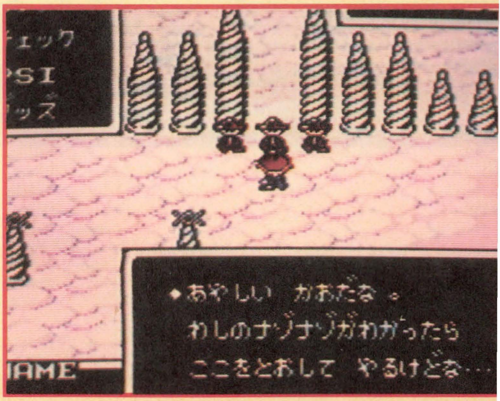
ど、女の子にしかくれないんだって。それから、町の噂通り、とってもハンサムなギター弾き、しかも哲学者で詩人だという男にも会った。彼は、「強くなったら、オレに会いに来い。」と謎のような言葉をくれたよ。その間にもウッドー（木のお化け）たちの攻撃をかわしながら、とうとうクイーン・マリーの泉にやってきた。その水にふれると、ほんとに元気が出てきたんだ。それに、泉で遊んでいる人たちから、町の方に穴がたくさんあって、その中のひとつから別の世界の音が聞こえてくる、という話を聞くこともできた。お城を出たら、そこへ行ってみよう。さて、お城の城門を探してたときだ。「フライング・マンの家」と表札のある家があり、面白そうなので入ってみると、中にはくちばしと翼を持った人間が何人もいた。僕を見るととても喜び、「私たちはあなたの力になるために生まれてきたのです。ぜひお伴させて下さい」と言う。不思議なこともあるものだ、と思いながら、彼ら兄弟の長男についてきてもらうことにした。彼は本当に力になってくれた。大ウッドーやビューンたちを倒しながら城門へたどり着けたのも、彼のおかげだ。

さて、ここはお城の門。門番が、「オレのなぞなぞにこたえられないと、入れるわけにはいかないよ」と言っている。で



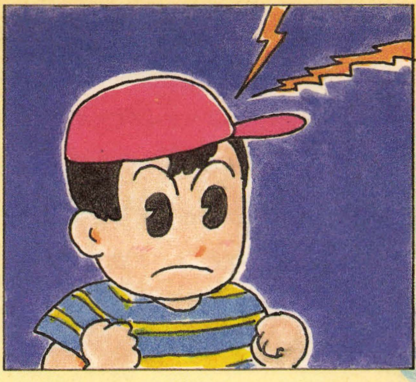
ここがマリーの泉だ。赤い草をつけるとマジックハーブになる。体力だって回復だ。



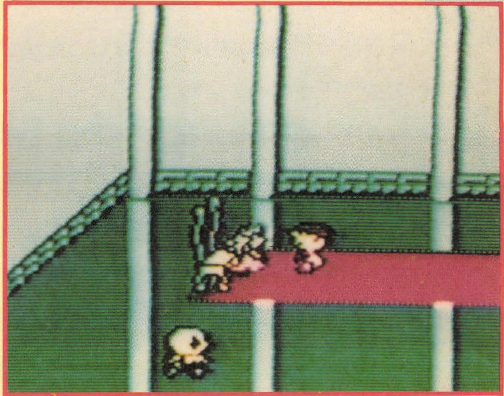


も、テレパシーを使えば軽いもんだ。僕は楽々と答え、城の中に入れてもらった。あちこちで召使いたちが噂しているのによると、クイーン・マリーは最近ちっとも唄わなくなってしまった。子供をあやしたり叱ったりしているような寝言を言うし、よほど悲しいめにあったのか、よくうなされて、こわいこわい、思い出せない、などと言っているとか。でも、何とか会わせてもらうことができそう。大広間の赤く長い敷物を進んでいくと、正面の王座に優雅に腰かけているのは、ああ、何てすてきな人、これがクイーン・マリーなのか。そういえば、僕に似ているみたい。何だか親しみをかんじてしまうなあ。しかも優しい声で「ようこそ、この国ではみんなが友だち、欲しい物は何でも得られます。苦しい時はいつでも帰ってくるのですよ。めのうのつり針さえあれば、ここへ戻れますからね。」と、言ってくれた。おせっかいかもしれないけど、忘れてしまった歌について尋ねてみる。「どうしても思い出せないの。いつかきっと思い出して唄えた時に、何かが起こると思うわ。」結局、謎については何もわからなかったけど、すてきなクイーン・マリーに会えて、僕はとても嬉しかった。さあ元の世界に戻れるかもしれない穴を探そう。

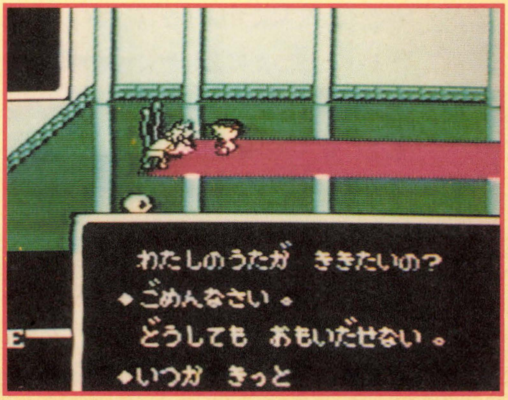
町の東にある穴へ行くまでにも、



マジカント国

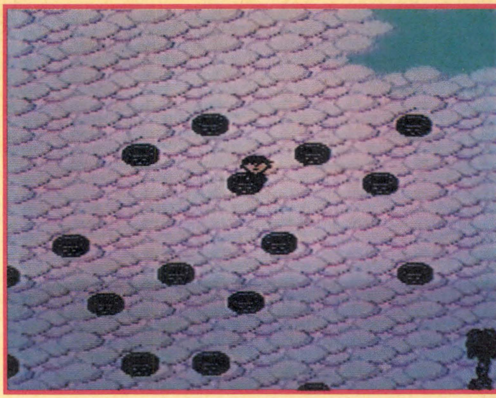


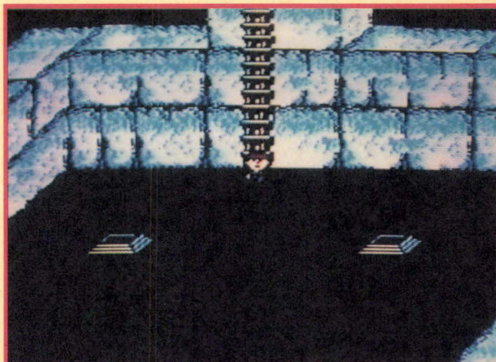
クィーンマリーとの出会いだ。どうも唄を思い出せないのは体の具合いが悪いのが原因のようだ。もしかしたら今までに聞いた心和むメロディーがクィーンマリーの記憶を取り戻すカギになるかも……その時いったい何がおこるのだー。



第II章

ビューンたちの攻撃に悩まされたが、フライング・マンがよく助けてくれた。でも、マジカスネイル（大かたつむり）に襲われた時に、とうとう力尽きて倒れてしまった。ありがとう、フライング・マン。決して忘れないよ。…僕は一人で穴へやって来た。たくさんある穴の中で、確かにひとつだけ、異質な音が聞こえてくるものがある。さっそく、はしごを使って中へ下りていく。わっ、早くもビューンが！　かわしながら、下へ下へ。いちばん底は、とても広い迷路になっている。途中でマジックハーブを見つけたので、食べて元気回復だ。マシュマロマンのようなミラコが現れ、PKサンダーを発してきたけど、負けるもんか。どうやら、僕はサイコロシールドも覚えたようだ。ミラコを倒し、ビューンをやっつける。でも、この迷路はどうなってるんだろう。どこが元の世界に通じているのか、さっぱりわからない。迷路の片隅で眠ってるドラゴンを起こせば手がかりがつかめるかも、と思ったけど起きてくれない。また歩き出す。と、地面に穴が。のぞき込むと、地下大河の王、巨大魚がとび出してきた。こいつは強そうだ。僕はライフアップをくり返してから、魚と戦った。ずいぶん苦戦したけど、とうとう勝った！　魚の消えた穴を下りると、そこには箱がたったひとつ。中には、めのうの



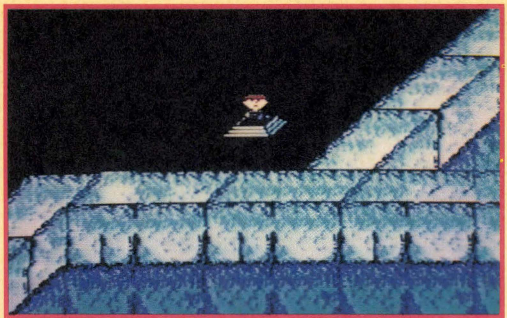


地下は迷路のように入り組んでいる。そして、ところどころの部屋にプレゼント箱が。

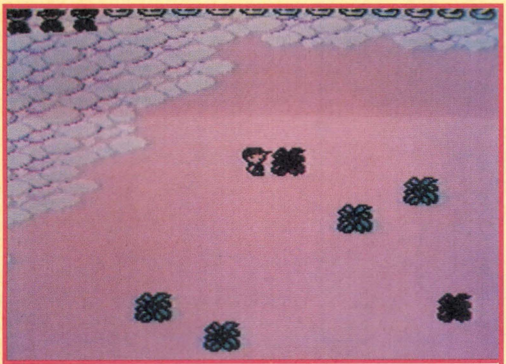


今はひっそりと眠るドラゴン。目覚めの時はいつ。

マジカント国



この下の部屋にはとても重要な「めのうのつりばり」があるのだ。



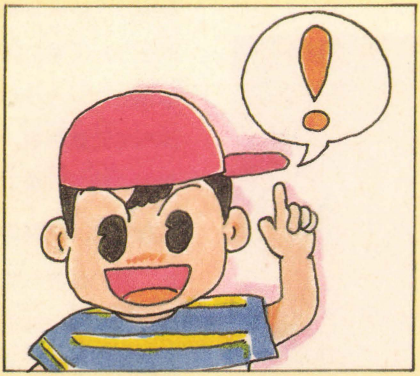
宮殿には草がたくさん。この、赤い草をマリーの泉に持って行くとマジックハーブに早変わり。



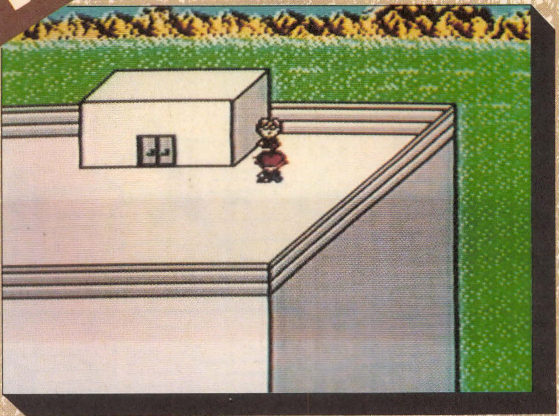
ここでは、病気もけがもすべてただでなおしてくれる。

つり針が。これで城へ戻れるという針だ。僕は考えた。このまま迷路にいても、お先まっ暗だ。いったん戻って出直そう！　つり針を持って念じると、僕はたちまちお城の中にいる自分を発見した。お城の中には、至る所にプレゼントの箱が転がっている。クイーン・マリーは、欲しいものは何でも得られると言っていた。僕は、その中から闇のライトと毒消しをもらって、城をあとにした。囲りの赤い草をつんで泉に持っていき、水に浸すと本当にマジックハーブになった。それを食べて元気回復。さあ、また迷路に挑戦だ！　再び穴を下りる。今度はなぜかすんなりと、迷路の端まで行くことができた。外の世界への出口と思われる穴がある。穴の前には男の人がひとり、ぽつんと座っていた。それがとても淋しそうなので、僕はつい声をかけてしまったんだ。「どうかしたんですか？」そしたら、男は答えた。「おれは忘れられた男なんだ、いないも同然さ。生まれた時からひとりぼっち。なぜ俺を無視してくれない？」ああ、これが町で噂してた、〝出会いがなきゃ別れもないっていう考えの男〞なのか。「でも無視するなんて、そんなこと僕には…」「いいから、お前を待ってる女の子のとこに帰れ！」男が叫んだとたん、僕はマジカントの森の中に戻ってしまった。「私を忘れないで」と言った女の子の

ところへ。僕はまた女の子と話をし、別れて、町に泊まって身体を休めた。もう一度迷路へ戻った僕には、今度はどうすればいいのか、はっきりわかっていたんだ。再び現れた僕に、男が言った。「俺を無視しろ。」僕はそうした。すると、男を通り抜けて出口から出ることができた。外はピンクの塔が立つほら穴の中だったのだ！　「やったあ！　元の世界に戻れたぞ！」思わず歓声をあげながら、僕はほら穴を出た。それにしても、あの国は何だったんだろう。まるで夢でも見ていたような気がする。だけど、きっといつかまたあの国へ帰り、クイーン・マリーの苦しみをとりのぞいてあげたい。僕はそう思いながら、サンクスギビングの町を探して歩き始めた。



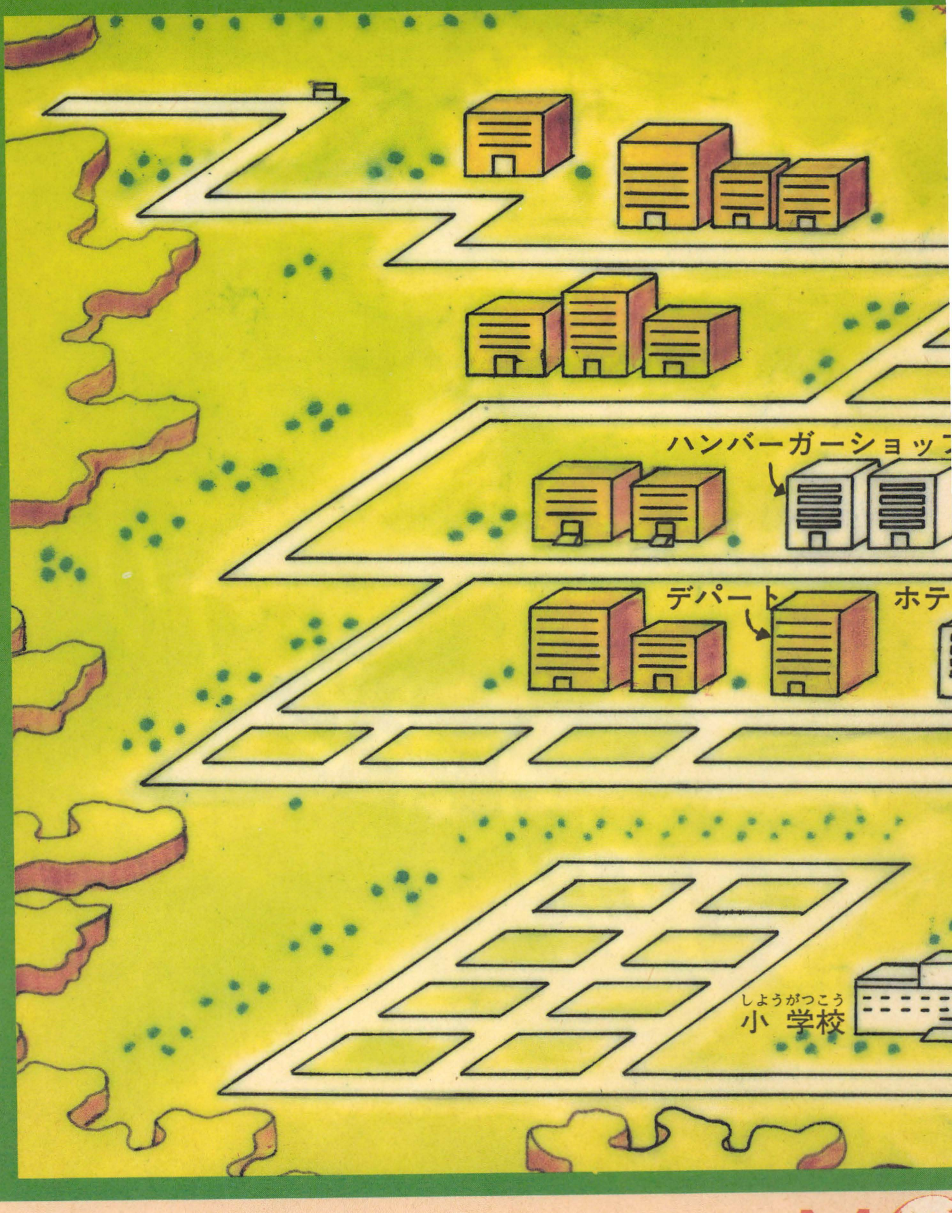
第III章（だい しょう）



サンクスギビング

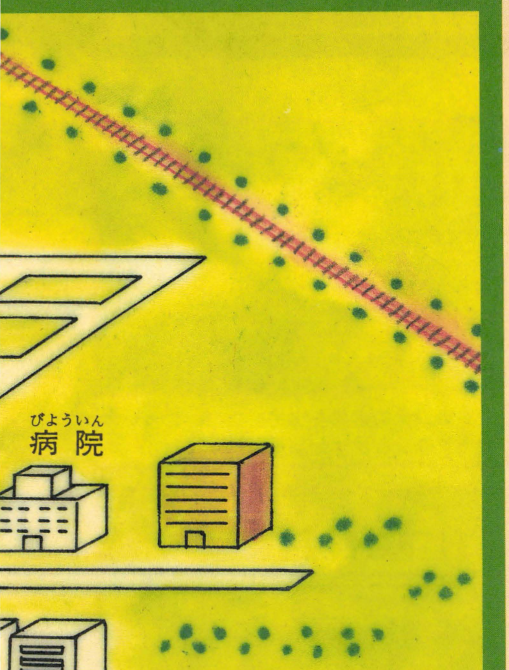
MOTHER™

MAP. 8





サンクスギビングの町



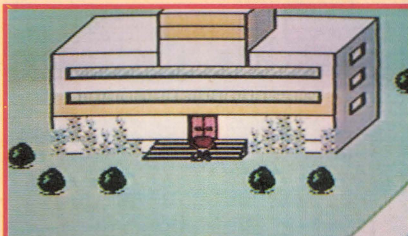
この町には大きな小学校がある。この小学校にはいろんな生徒がいて、なかには変った子（?）もいる。そして、町にはポリスマンが「学校をさぼっているバッドボーイはいないか」といつもパトロールしているんだ。この町のビッグベンケーシーという医者はあまり評判がよくないんだ。町はずれにはダンカン大工場やサンタクロース駅がある。でも最近、崖崩れがあって、駅へ行く道がふさがれてしまったんだ。

第III章——サンクスギビング

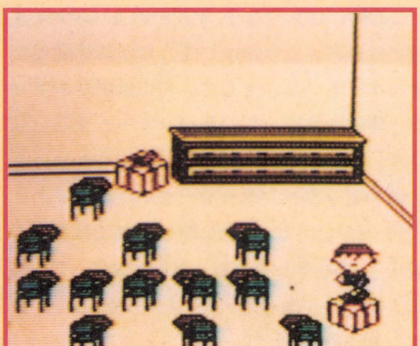
岩また岩の中を、町を探してさまよう間に、熊やリトルソーサー（小さな円盤）に追いかけられたりもしたけど、歩きに歩いたあげく、やっとサンクスギビングの町が見えてきた。あの大きな建物は学校かしら。ちょっと入ってみようか。ああ、僕と同じ年くらいの生徒たちがたくさんいる。やっぱり、話しがしやすいや。いろいろとおしゃべりをしちゃった。かけざんの九九がむずかしいと言う子や、自分のことをすっごく美人だと思ってる女の子（よくいるよね）もいたし、理科の先生が変人だってことや、屋上のカギは用務員さんが持ってるってことも聞いた。その中で気になったのは、ロイドっていう子が、理科室から爆薬を持ち出したらしいってこと。いじめられっ子なんで、屋上に隠れてるんじゃないかって。爆薬が好きだなんて、面白そうな子だな。友だちになってみたい。どこに隠れてるんだろう。僕は、学校中を探して回った。「廊下をはしっちゃいけません！」と女の先生に叱られたり、「見かけない子だな。この学校の子かい？」って疑われてゴ



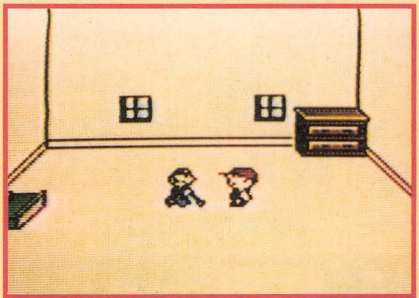
マジカントの世界を出て、山沿いに歩いて行くとサンクスギビングの町だ。



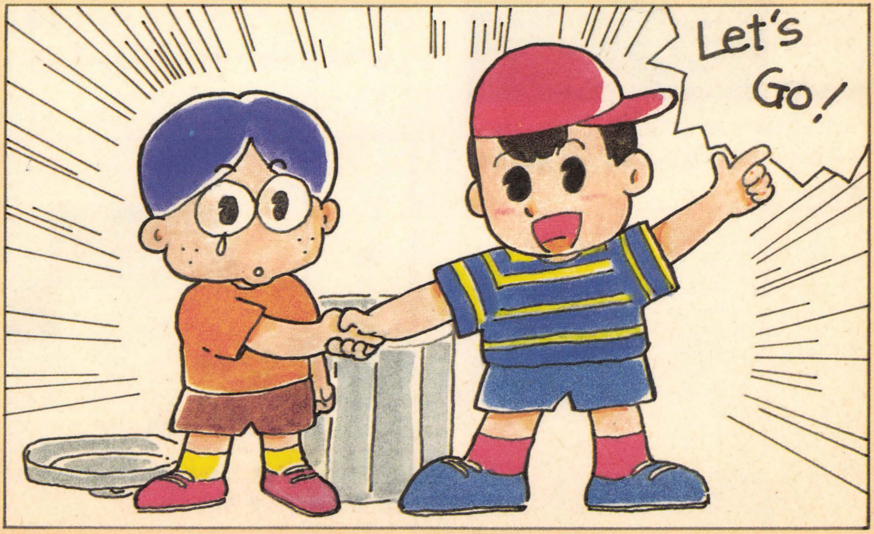
最初に見えてきたのは学校で、中にはぼくと同じくらいの子供がたくさん。そして、プレゼント箱のある部屋も。



マかしたりしながらね。理科室では、例の変な先生に出くわしたよ。一生けんめいに、何か実験してるんだって。最終兵器とか、ねばねばマシンとか。「わしの研究を買ってくれ」と言われたので、これからの戦いに役立つかな、と思って、最終兵器を選んだ。でも、先生が使い方を教えようとしたとたんに、大暴発。全く、未完成のもの売ったりしちゃダメだよね。とんだところで時間をくっちゃったじゃないか。それにしても、ロイド君は見つからないなあ。あとは屋上しかないよ。用務員さんに頼んでみるか。用務員のおじさんは、とっても気さくなひとで、家族の話なんか始めちゃって、これが長いんだけど、楽しかったよ。おじさんからカギを借りて、屋上へ。うわあ、すごくいいながめ。でも、誰もいないみたいだけど。おや、隅にあるゴミ箱が、かすかに揺れてるぞ。もしかしてあの中に？やっぱりいた。メガネをかけた気の弱そうな男の子。いじめに来たのかと思って、おびえたような顔で、僕を見上げている。安心させてあげよう。「やあ、君、ロイド君だろ。僕はマイク。君、理科室から爆薬を持ち出したんだって。スゴイなあ。」



屋上はカギがかかっているので、用務員さんにたのもう。



ロイド君はちょっと嬉しそうに、でもおずおずと「いや、そんなー。どっちみち、ペンシルロケットがなきゃ、役に立たないんだ」と答えたきり、またひざをかかえて、うつむいてしまった。これは、かんたんには友だちになれそうにもないな。

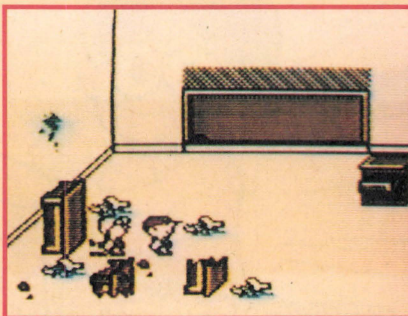
「ペンシルロケットって、どこにあるの？」と尋ねると、町の南の方にある、スイートリトル工場という所で、昔作ってたらしいと言う。「わかった。僕、取ってくるから、ここで待っててよ。」

「う、うん、」半信半疑のロイド君を屋上に残して、僕は学校を出た。スイートリトル工場は、今はもうさびれた古い工場だった。わりと小さいんだけど、中はけっこう複雑だ。ペンシルロケットを捜してると、迷子になりそう。それに、しょっちゅうネズミが襲ってくる。まあ、たいして強くはないけどね。でも、バーボット（針金みたいに細いロボット）が現れたときには、ちょっと苦戦だったかな。だけど、何とか切り抜けながら、僕は進んだ。そうして、ついに見つけた！ ゴミ箱の中に捨てられているペンシルロケット。ロイド君喜んでくれるだろうなあ！ 僕は勇んで学校へ戻り、屋上でまってる彼のところへ急いだ。「お待たせ！ これだろ？ 君の欲しかったもの！」僕は、ペンシルロケットを彼に手渡した。すると彼の顔がパッと輝いて、

「ああ、いちど飛ばしてみたかったんだよ。くれるの？ ほんとに？ ありがとう！」そうして、さっそくとばす実験をしようと言って、理科室へ僕を誘った。

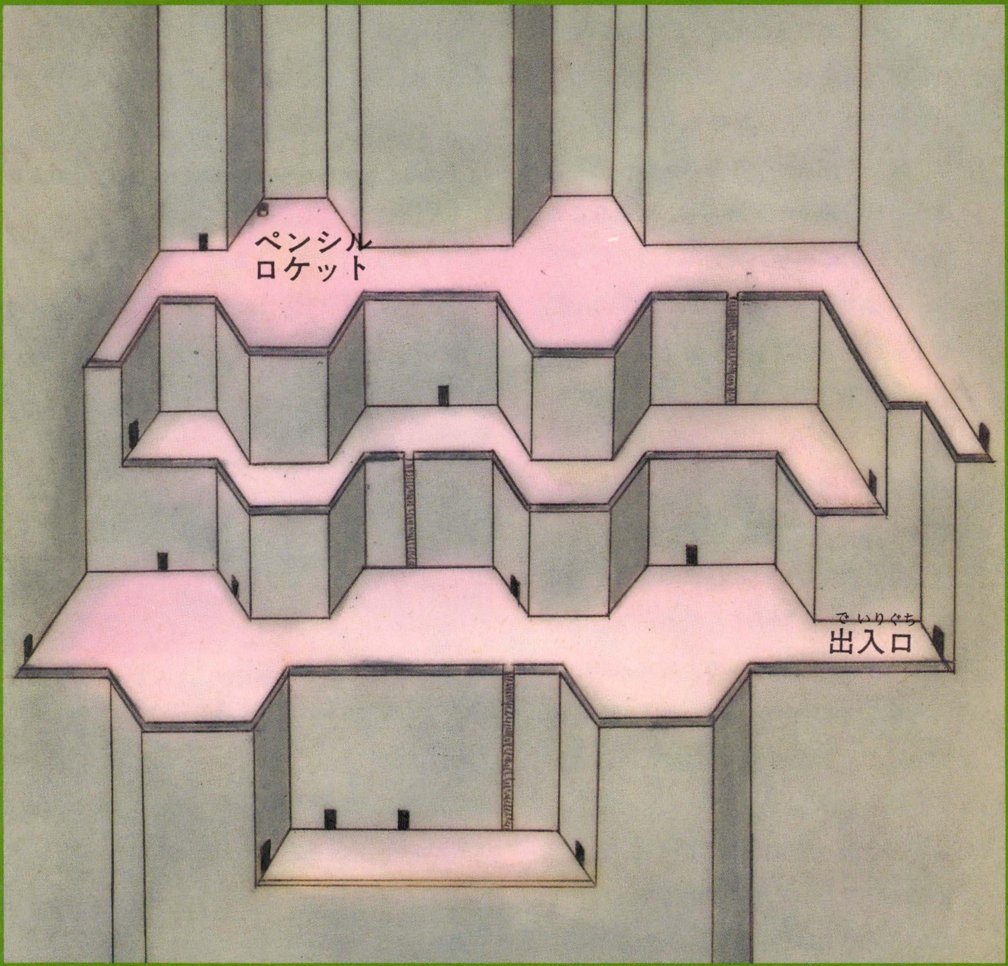


ついに見つけた新しい仲間。しかし、ペンシルロケットを手にいれないと友達にはなれない。



ロイド君の実験につきあったのはいいけれど、もうめちゃくちゃ。

MAP. 9 スイートリトル工場



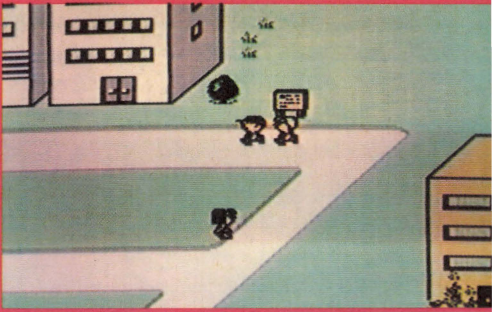
この工場は地下1階、地上3階建て。構造は単純、敵も弱い。楽勝だね！ここではペンシルロケットを捜すんだよ。

第Ⅲ章

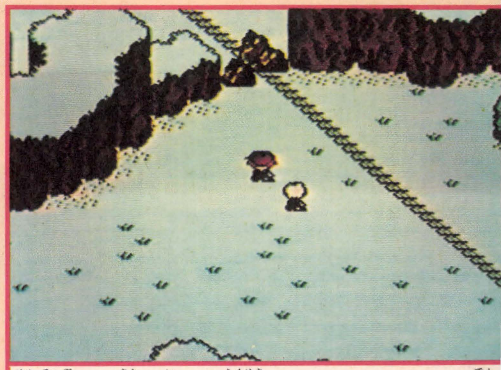
ホッ、あの先生はいなくなってる。ロイドは、生き生きとして、「いいかい？　このロケットに僕の持ってるこの燃料を入れて、と、すごいだろ、ほら」と言ったとたん、また大暴発！　理科室の中はさんざんなことになってしまった。しょげるロイド。「…これだもんね。やっぱり、僕って何をやってもダメなんだ」僕はきっぱり言った。「絶対に、そんなことはないよ。こんな実験を考えつくだけでも、君は他の子よりずっとスゴいんだぜ！」ロイドはびっくりした顔で「そんなふうに言ってくれたの、君が初めてだ。何だか、自信が持てそうな気がするよ」

実験は大失敗だったわけだけど、こうして僕たちは友だちになれたんだ。ロイドって、大人しいけど、気の合うヤツにはとっても心を開いてくれるんだ。僕たちは、ずっと以前からの大親友みたいにいろんな打ち明け話をしたよ。僕がこの冒険のことを話すと、彼はすごく感激して、自分もいっしょに行きたいと言う。

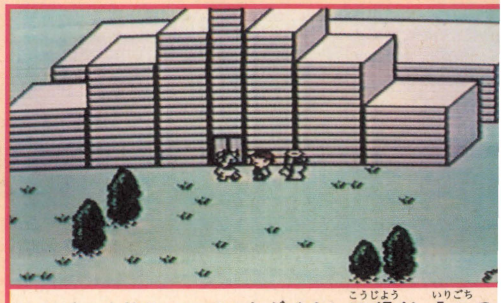
「そりゃあ、僕はおく病だけど、このままじゃいけない、とも思ってるんだ。それに、僕は力は弱いけど、メカには強いから。役に立つかもしれないよ」って、熱心に言うんだ。もちろん、大歓迎さ。ふたりだと心強いし、何といっても、楽しいもの。さっそく、ふたりでこれからの計画をたてよう！



ここの町でも風邪をうつされないように、注意しなければ。



線路沿いに北へ行くと落石が。なんとかしないと電車もうごかないし、先にも進めないぞ。

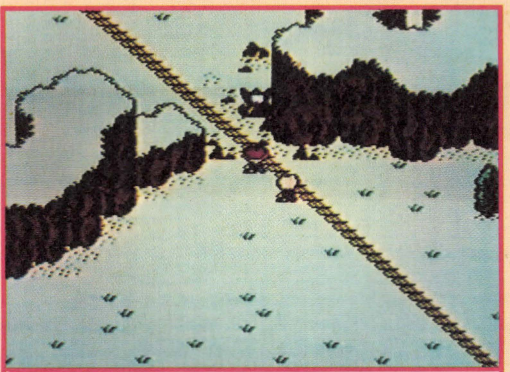


ここがロイドのいっていたダイカン工場だ。入口の前に見張りがいるぞ。さっき拾った通行許可証を見せよう。

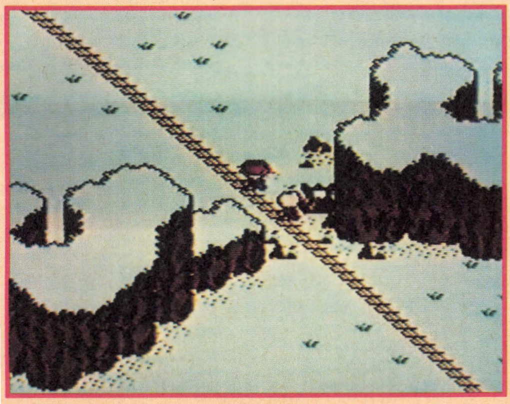
サンクスギビング



ロケット発見。あ！　ロイド君さわるんじゃない。ワー！　発射してしまった。



ロイド君のとばしたロケットが、落石を粉砕。これが本当の怪我の巧妙。



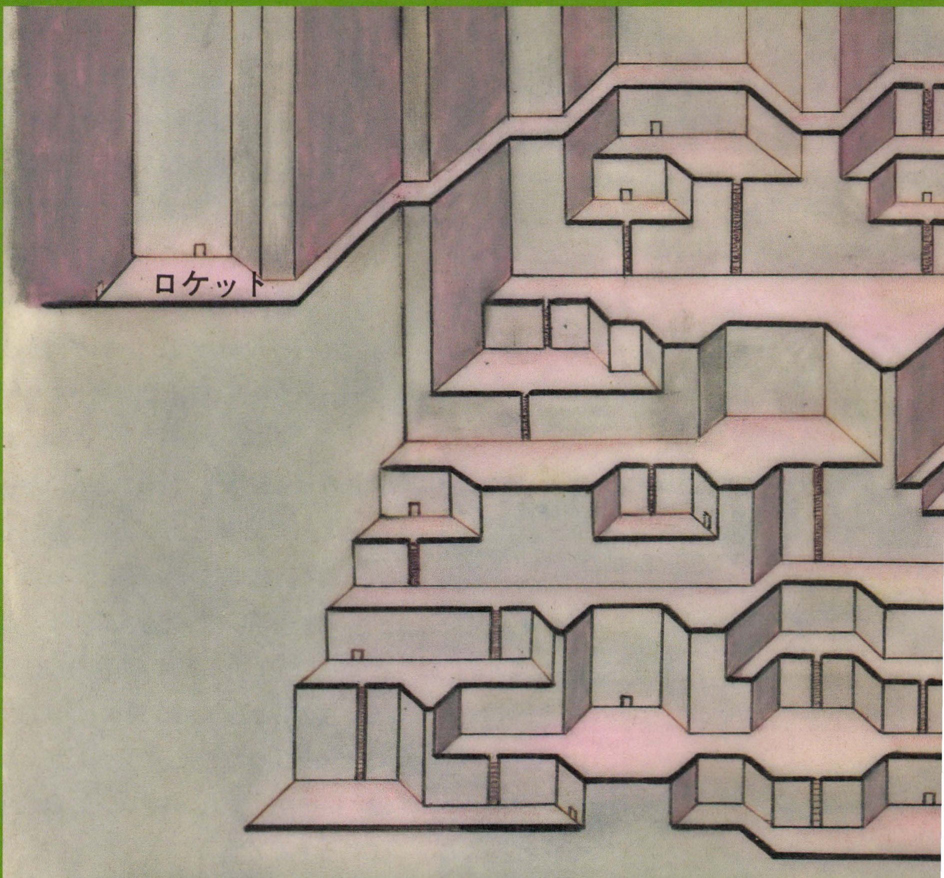
ロイドによると、このサンクスギビングの町では、特に変わったことは起きてないらしい。だから、サンタクロース駅から汽車に乗って隣のレインディアに行ってみることにする。でもその前に、ロイドが、どうしても町の北にあるダンカンの大工場に行きたいって。ロケットの発射台を見てみたいんだってほんとに変わったヤツ。でも面白そう、行ってみよう！　おっと待った。悪いけどロイドはＰＳＩも使えないし、今のままじゃ弱すぎるんじゃないかな。町のデパートでブーメランを買って、武装させてあげよう。ついでにパンも買って、パンくずをまきながら行こう。けっこう遠いからね。

ところで工場へ向う途中でわかったんだけど、線路に大岩が落っこちて、駅への道が不通になってるんだって。「どうする、ロイド？」と相談を持ちかけたけど、彼の心はもう大工場へととんでて、ほとんどうわの空だ。しょうがないな。ま、いいか。とりあえずは、工場へ行ってから考えよう。

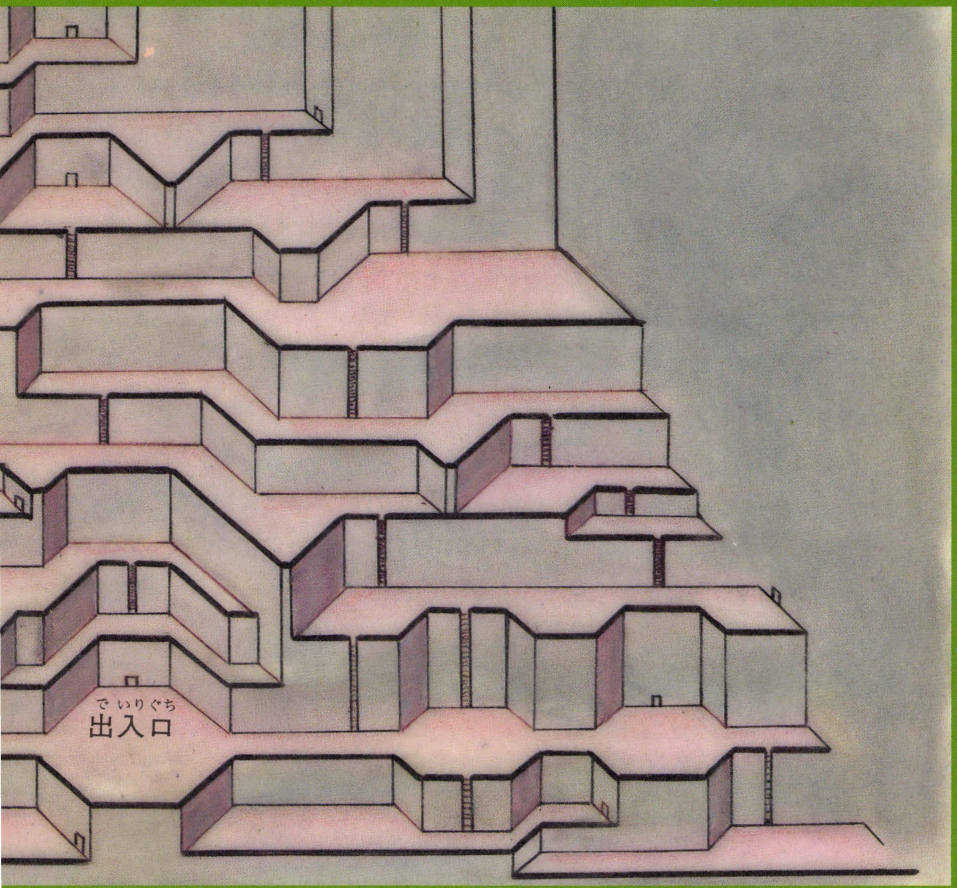
ダンカン大工場は、とても広い。忍び込んだものの、どこにロケットがあるんだか、見当もつかないや。とにかく足で探すしか…あっ！　変な男が出てきたぞ。昔のＴＶ映画に出てくる科学者みたいなかっこうで、顔がひどくゆがんでる。攻撃してきた！　後ろからは、これまた懐

THER™

MAP. 10



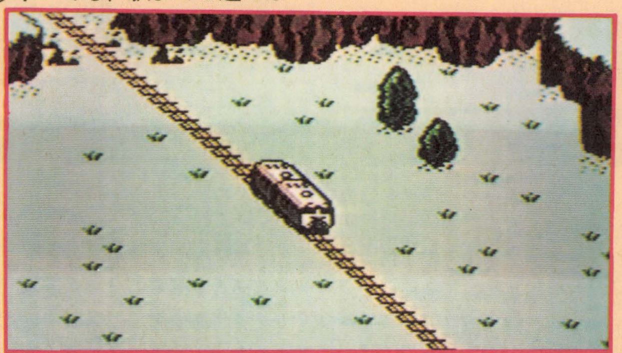
ダンカン大工場



大工場というだけあってスイートリトル工場とは大違い！　内部も複雑だからこのマップをよく頭にたたき込んで出かけてね。ロケットを発射させることが目的だけれど、カプセルなど、おなじみのグッズにまじって「サイパワーストーン」なんていう超強力アイテムもあるんだ。ロケットを探しながらこれらをすべて集めちゃおう！

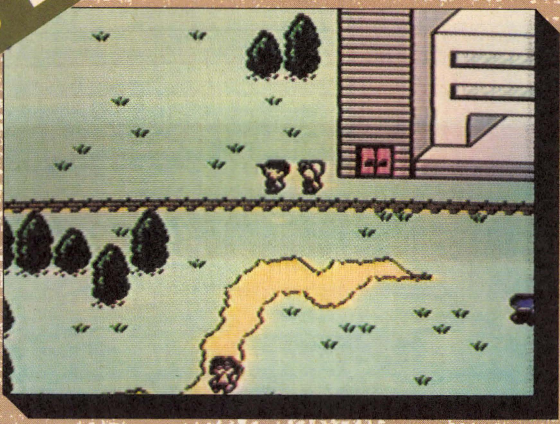
かしいかんじのオールドロボがＰＫビームを発してくる！　僕たちは必死で戦った。弱いながらロイドもよくがんばったよ。ファイアーボールに追っかけられながらもやっつけたし。もう、いろんな敵をけちらしながら、やっとロケットの発射台にたどり着いた。「わあっ、すごい！興奮するなあ」ロイドは大はしゃぎだ。それはいいんだけど、はしゃぎすぎて発射のスイッチを押しちゃった！　おいおい、まさか町に向かってるんじゃないだろうな。あわてて工場を出て町へ急ぐ。でも、線路のとこまで着た時、僕たちは安心した。なぜって、ロケットはあの大岩に命中し、岩は砕けて、道が通れるようになってたんだ。「こういうの、怪我の功名っていうんだよね、うん」とロイド。ちゃっかりしてるんだから。だけど、おかげで駅まで行くことができる。さあ、旅を続けよう！　でも、駅までの道ではマッドトラックやマッドカーの排気ガス攻撃に悩まされたよ。ぜんそくスプレーがあったから助かったけど。理由もなく、狂ったトラックに追いかけられるなんて、まるで「激突！」の世界だね。

　さてサンタクロース駅では駅長さんが、「あちこちの町でパニック状態になってるようだが、この駅だけは私が守るぞ！」ってはりきってる。僕たちは、隣のレインディアへのチケットを買ってパラダイス・エキスプレスへ乗り込んだ。汽車の旅って、何だかとてもわくわくするなあ。でも、途中から長いトンネルにはいっちゃったんで、あんまり景色は楽しめなかったけどね。とにかく、こうして僕たちはレインディアに着いたってわけ。



これがスーパーエクスプレスだ。早い早い。トンネルもあっというま、この距離を歩くとたいへんなんだよな。

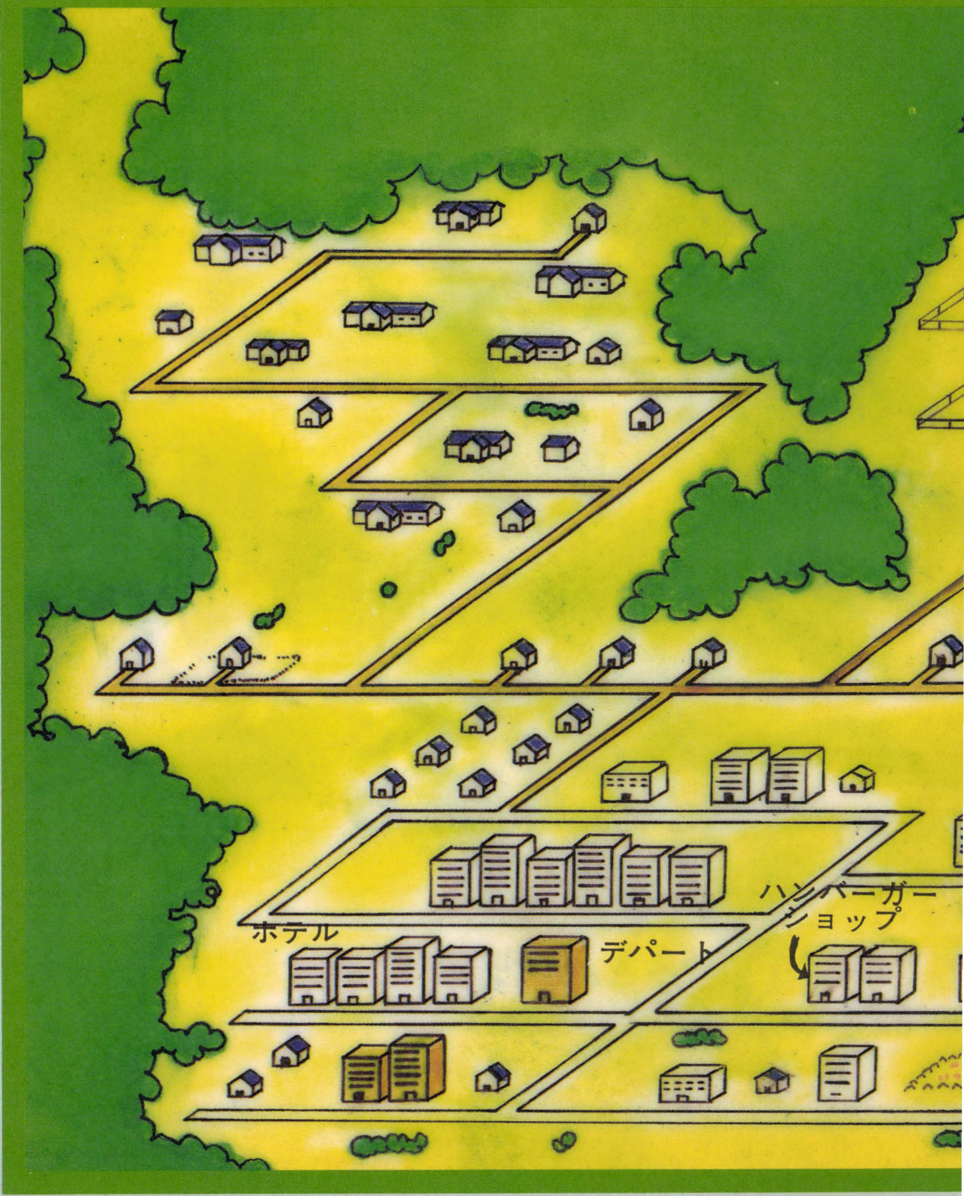
第(だい)IV章(しょう)



レインディア

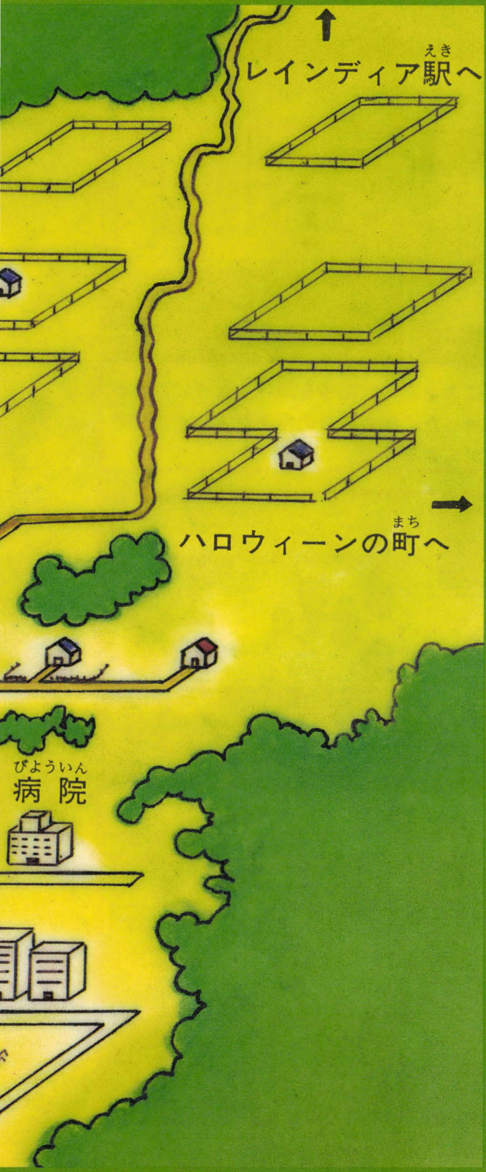
MOTHER™

MAP. 11





レインディアの町



サンタクロース駅から列車で長い長いトンネルを抜けると、この町に着くんだ。山のふもとにあるこの町は、まだ大きな事件には巻き込まれていないらしい。でも他の町で起こっている恐しい事件のことを考えると、この町の平和がいつまで続くか心配なんだよね。

第Ⅳ章 ――― レインディア

駅の改札を抜けた僕たちに、お婆さんが声をかけてきた。「あなたたち、スノーマンの町へ行く予定ある？　あそこの女の子の帽子を拾ったので、届けてほしいんだけど」…どうしよう。「いいじゃないか、マイク。いずれ、スノーマンへも行くことになるんじゃないかな」とロイドが言うので、僕たちはOKして帽子を受け取った。内側に「スノーマンのアナ」と名前が書いてある。それを見たとき、何だか奇妙な感覚が僕に訪れた。全然知らない子なんだけど、なぜかその子が遠くから僕のことを呼んでいるような気がするんだ。もしかしたら、この子との出会いはとっても大切なものになるかもしれない。そんな予感がするよ。

さて、レインディアの町だけど山のふもとにあるこの小さな町は、とても平和みたい。警官が走ってるのを見て、何事かと思ったけど、食い逃げの男を追いかけてるだけだったしね。町の人たちが話してるのも、「自転車があったら便利だろうなあ」とか、「今、風呂の研 究をしてるんだけどね」とか、のどかな話題ばかり



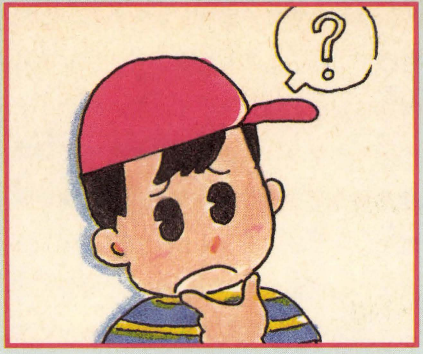
おばあさんに、帽子を届けるように頼まれちゃった。でも、この帽子がきっかけで友達ができるんだ。



タテカンバン見っけ。



この町では、おまわりさんがうろうろしているぞ。

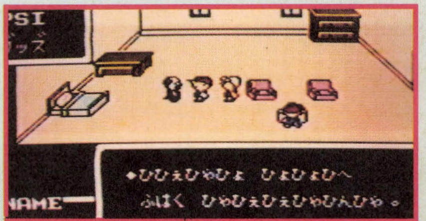


なんだよ。「ねえ、マイク。この町じゃ、あんまり収穫は期待できないんじゃないかな」とロイドも言うし、町を出ようか、なんて話してたんだ。すると、何だかとても寒気がしてきた。「どうしたの？顔が真っ赤だよ」とロイドに言われ、ひたいに手をやると、すごい熱だ。カッコ悪いことに、僕は風邪にやれれてしまったんだ。「平気だよ、これぐらい」と、先に行くことを主張したんだけど、心配症のロイドが、「ダメ！ 病院へ行くんだ」と、強引に僕を連れてった。内緒なんだけど僕は今でも注射がこわいんで、病院は大キライなんだ。でもおかげで、風邪はすっかり治ったけどね。

それで足止めをくって、今夜はここのホテルに一泊することになった。その間にまた町の人たちにいろいろ聞いたんだけど、ここの山の上に、風邪ひとつひかずに300年も生きてる予言者がいるんだって。そして、とても気前が良くていろんな物をくれるって。これを見すごす手はないよね。次の日、僕たちは山に登ってみた。あった、この小屋がそうかな。中には、すごく年寄りのおじいさんがいる。あれが、予言者か。それにしても、どうしてそんなに丈夫で長生きできるんだろう。ひけつを聞いてみたいもんだな。「こんにちは」と僕たちは声をかけた。「フガフガ」おじいさんは、何かしゃべろうとしてるんだけど、何て言ってるのか、全然わからない。そうしたら、横から弟子みたいな人が、「入れ歯を落としてしまいましてね。私にも聞き取れなくて困ってるんですよ」と言う。気の毒だな。僕たちが探してきてあげよう。僕らは小



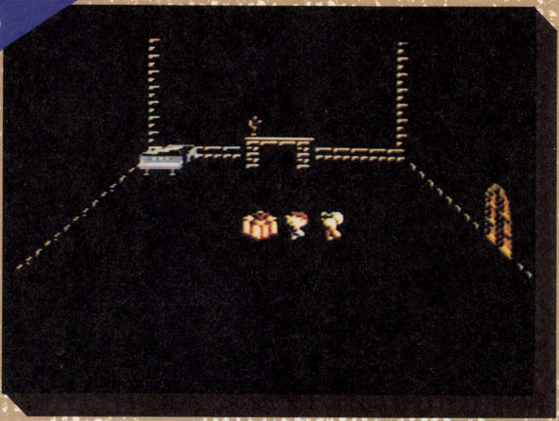
ここが予言者のおじいさんの家だ。アレ！
横に見える立てカンバンは、どこからいけるのかな。



老人の言葉は全然わかりません。まあ、助手でさえわからないのだからしかたないけど。入れ歯でも持って来ればいいものもらえるのにな。

屋を出て、周囲を探して回った。草が繁ってるから、かんたんには見つからない。でも、何のことはない、「落しもの注意」って書かれた正札の下に落ちてたんだ。あわて者だなあ。入れ歯を拾い、予言者に渡すと、とても喜んで口にいれたよ。「やれやれ、これでやっと話ができる。いや、ありがとう。ところで、わしに何の用かな？」予言者は、今度はしっかりした声でそう言った。そこで、あらためて、長生きのひけつを尋ねてみる。すると「それはな、健康を保つことじゃよ。風邪をひいたら、うがいをする。これが肝心。そうだ、君らにうがい薬をあげよう」だって。ほんとうに気前がいいんだね。僕たちはていねいにお礼を言って、予言者とお別れした。山を下りて、レインディアの駅へ向かう。この町に長居する必要はなさそうだからね。途中、イーグルや脱走犯、なぜか生きてるロープ（こいつはちょっと性質が悪いよ。自分の身体で僕らを縛ろうとするんだからね）などに襲われたけど、僕たちは勇敢に切り抜けた。さて、駅だ。とりあえず、次のハロウィーンまで行ってみるか。

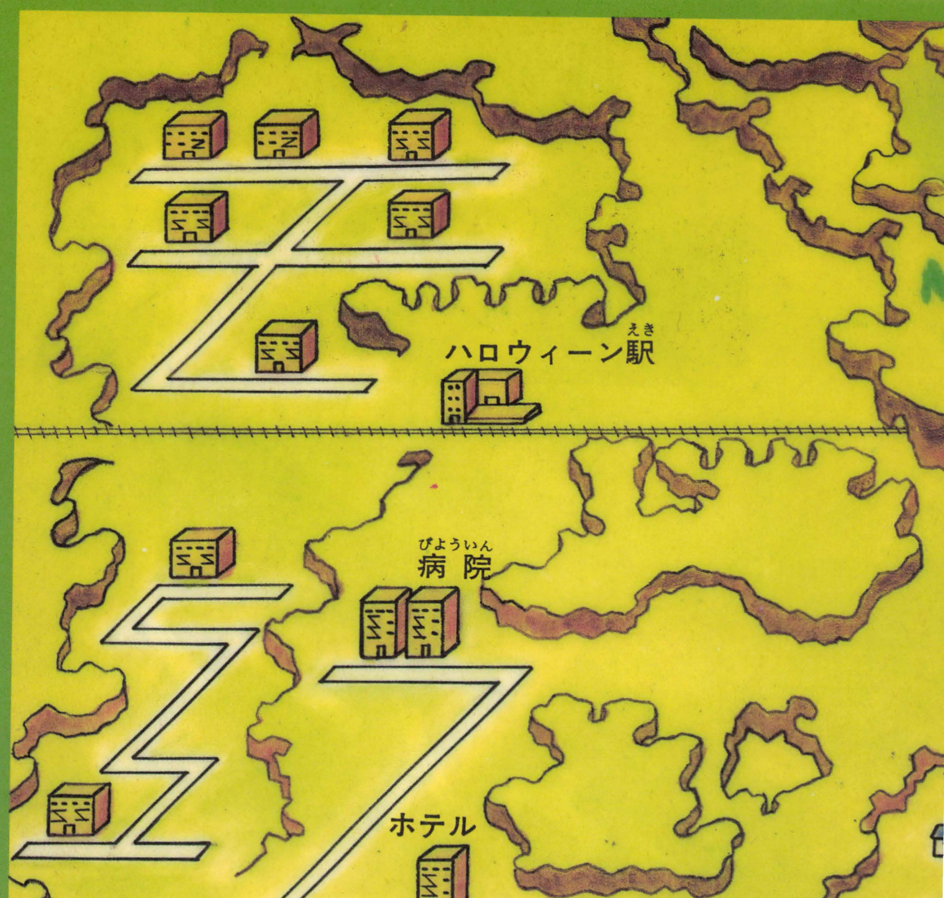
第Ｖ章（だいしょう）



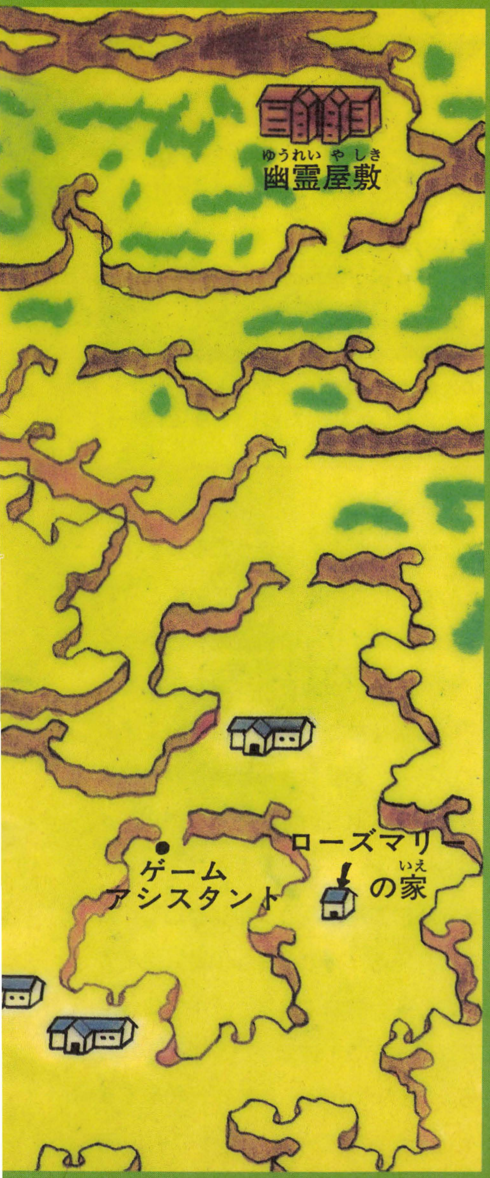
ハロウィーン

MOTHER™

MAP. 12



ハロウィーンの町



この町では大事件が起こって、町の人はみんな山奥へ避難しているんだ。町の北東にある幽霊屋敷までの道のりも険しい。安心できるのは町の東南の住宅地ぐらい。住宅地には幽霊屋敷の持ち主（屋敷のカギをくれる）と、ゲームのアシスタントがいるんだよ。で、この町でいったい何が起こったのかって？……それは君が教えてよ。

第Ⅴ章 ———— ハロウィーン

「…変だよね」「うん、絶対におかしいよ。ハロウィーンの町に降り立った僕たちは、顔を見合わせてささやき合った。とにかく、静かすぎるんだ。まるでこれじゃゴーストタウンだよ。町の人たちはどこに行ってしまったんだろう。もしかしたら、何か悲しいことが起こったんで、どこかに避難しているのかもしれない。とにかく、町の人たちを見つけて、話を聞いてみなくちゃ。「山の方に逃げ込んでるのかもね」とロイドが言うので、ふたりで山の方へ向かう。すると、ほんとに中腹あたりでちらほら人が見えてきた。「ねえ、どうして町には誰もいないんですか？」近寄って尋ねると、「ダウンタウンのビルのあたりに化け物がうようよ出るようになったので、みんなこっちに逃げてきたのさ」という。「だけど、山の奥の方にも、幽霊屋敷があるって噂なのよ。こわいわ」という人もいる。その屋敷に住みついた幽霊たちが、町に出てっては人をおどかしているのかな。僕たちの出番かも。その屋敷を探さなきゃ。もっとも、ロイドは「ぼ、ぼくは非科学的なものには弱いんだよ」と渋ってる。それをなだめすかしてさらに進んでいくと、「この先、ローズマリーの私有地」という立札。こんな広い土地を持ってるなんて、すごいお金持ちなんだろうなあって感心していると、郵便やさんが通りかかり、「おかしいなあ。ローズマリーさん、あの屋敷からどこへ引越したんだろう」と首をかしげてた。ん？　もしかして、あそこに見える、あの小さな小屋に住んでるのかしら。訪ねてみよう。小屋の外で、立派な様子をした紳士がパイプをふかしてる。「あのう…ローズマリーさんですか？　どうしてこんなところに？」「ああ、うちの屋敷が化け物どもの住みかに



この人がゲームのアシスタントだ。ヒントをたくさんくれるぞ。ただし、一度話し終ったら帰宅しちゃった。

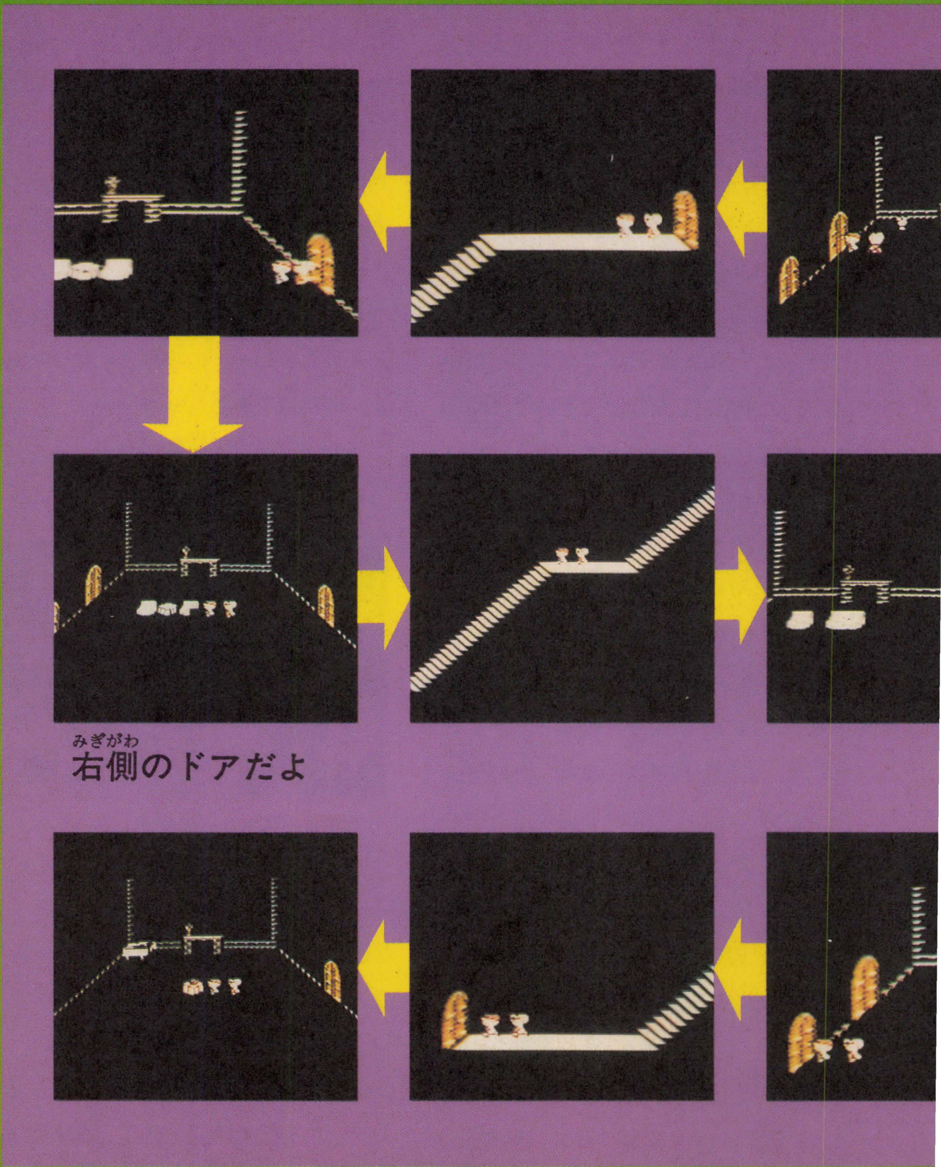
なってしまってね、仕方なく出てきたというわけだ」そこへ、小さな男の子を連れて奥さんもやって来た。奥さんは僕をじっと見ると、「何だか、あなたなら、化け物たちを退治して下さるような気がするわ。お願いできるかしら？」と言う。うーん、怖いけど、遊園地のお化け屋敷なら大好きだったし、本物が見られるなんて、ラッキーかもしれない。「やってみようよ、ロイド」でも、ロイドはもう今にも泣きそうな顔で、「イヤだよ！　ぼくの場合は、遊園地のだってダメなんだからね」と大反対。だけど、ここで逃げたら、すべてがパーになってしまうかもしれないじゃないか。さすがに僕も大声で言い返してしまった。「冗談じゃないよ！　いいかい、そりゃ僕らはリバー・フェニックスみたいにカッコよくはない。だけど、線路沿いに死体を探しに行くよかずっとスゴい戦いを、現にしてきてるんだぞ。自信を持てよ。また、あの弱虫でいじめられっ子のロイドに戻りたいのか？」ちょっと言いすぎたかな、とすぐに後悔した。こんな、相手の傷をえぐるようなやり方はフェアーじゃない。ロイドの顔は真青になり、うつむいてブルブル震えている。「ごめん」そう言おうとした時だ。ロイドが顔をあげ、きっぱりと言った。「忘れるとこだったよ。僕は強くなるために君について来たんだ。ありがとう、マイク、思い出させてくれて」…本気で言ったことが誤解されずに、気持ちがそのまんま相手に伝わるのってサイコーだね。僕たちは何も言わず、しっかりと相手の目を見て握手した。12歳のときの親友に勝る友はないっていう言葉を思い出しながら…。そうして、僕たちは屋敷のカギを受け取り、化け物の巣窟へと向かった。またもリトルソーサーやバーボットに攻撃され、一度なんかサイコロブロックで僕のPSIが封じられたりしたけど、ロイドの攻撃で助かったんだよ。やればできるじゃないか。

　うわあ、すごく大きな館だ。ここだな。うーん、何だか黒い霧に包まれたみたいに、おどろおどろしたふんいき。ロイドが震え声でポツリと言った。「ローズマリーのお化け屋敷なんて、できすぎだよね」…僕だって、内心はすごく怖い。でも、逃げるわけにはいかないんだ。行くぞ！　カギをあけて、中へ。真暗だけど、目がなれると、ネズミがうろちょろして

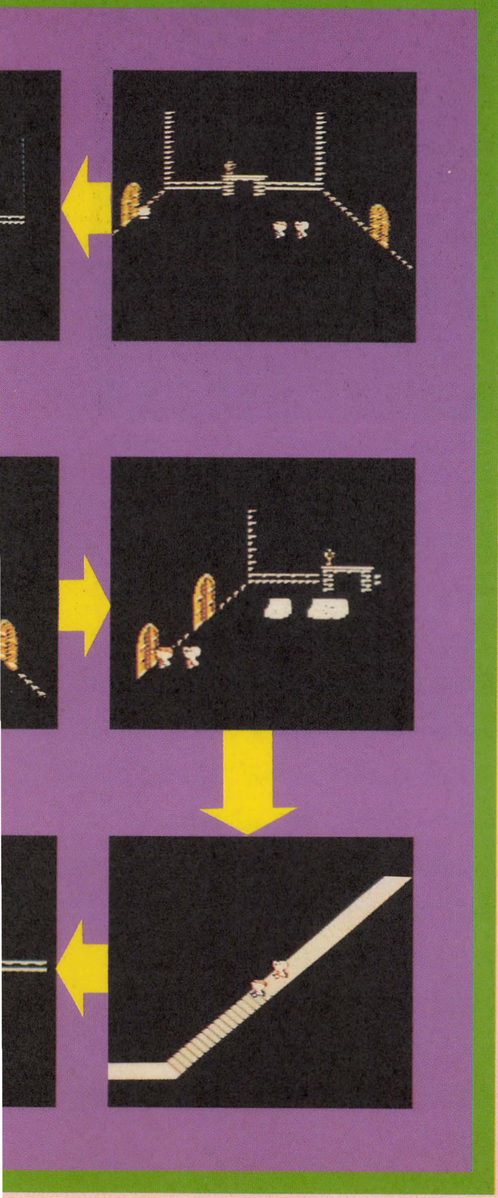


これがローズマリーの館だ。とっても大きい。中も広いんだろうな。

MAP. 13



幽霊屋敷の内部

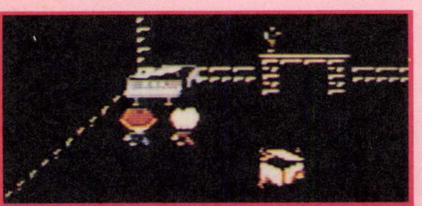


最短コース

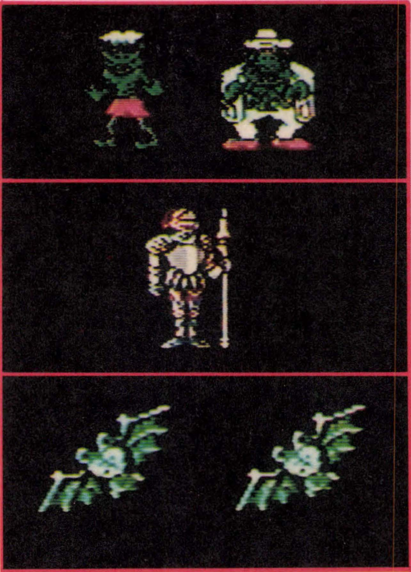
幽霊屋敷の内部は強敵だらけ！　しかも部屋数がとても多くて迷子になりそうなんだ。おまけに、枝分かれするタイプの迷路が、変な場所でつながっていたりして……。とにかく気をつけるのにこしたことはないと思うよ！

第V章

るのが見えた。つかまえて、話しかける。（僕は動物とも会話できるんだ）ネズミは「ピアノのある部屋。へっへっへ」とつぶやくと逃げてしまった。地下が怪しいとみた僕たちは、階段を降りて地下へ。と、「ひゃあー!!」とロイドの悲鳴。いきなり出たぞ！　血みどろゾンビだ！ゴーストにバイオこうもりも！　戦いの最中にロイドが石にされてしまった。ヒーリングγを使って元に戻す。ほっ、何とか切り抜けたぞ。おや、部屋の隅にプレゼントの箱が。傷薬と毒消しが入ってる。（それにしても、この冒険て、いろんなとこにプレゼントの箱があるなあ）部屋から部屋へ探検を続けるうちに、動くかっちゅうや、アラームゴーストなんかにも襲われて、ロイドはかなりダメージを受けてしまった。やっぱり、ひとつ頼りないかな。でも、どうやら、この長い階段を下りるとラストのようだ。どこからともなく、「か・え・れ」という声。ね、この先の部屋に何かあるって証拠だよ。ドアをあける。あ、ピアノがあるぞ。



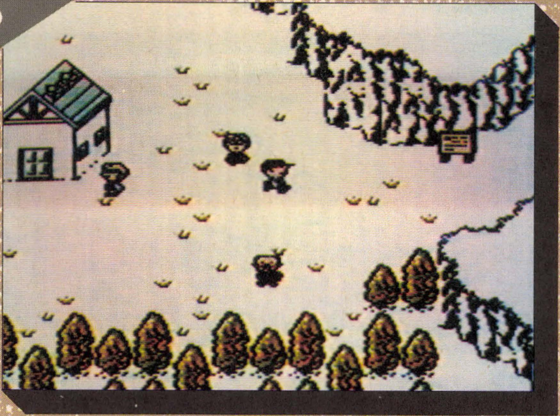
ピアノを見つけたぞ。さすがはおばけ屋敷。鍵盤がかってに動きだした。アレ！この心和むメロディーは。



この館のばけものの中で、バイオコウモリには要注意。石にされたらどうしようもないぞ。おまけにカッチュウのようにむちゃくちゃ強いばけものまで出て来る。

ひとりでに鍵盤が動き出した。僕たちはメロディをおぼえた。それからロイドの傷を薬で治してあげて、再び化け物たちを退治しながら、入口までたどり着いたんだ。ああ、怖かったけど、面白かった！小屋まで戻ると、奥さんが感激して「本当に勇気のある方ね。息子にあなたの名前をつけさせていただくわ」と言ってくれた。ちょっと照れちゃうね。これで、ハロウィーンの町がもと通りになるといいな。でも、事件の大もとは、まだつかめないんだよね。まだまだ、旅はこれからだ。

第VI章（だい しょう）

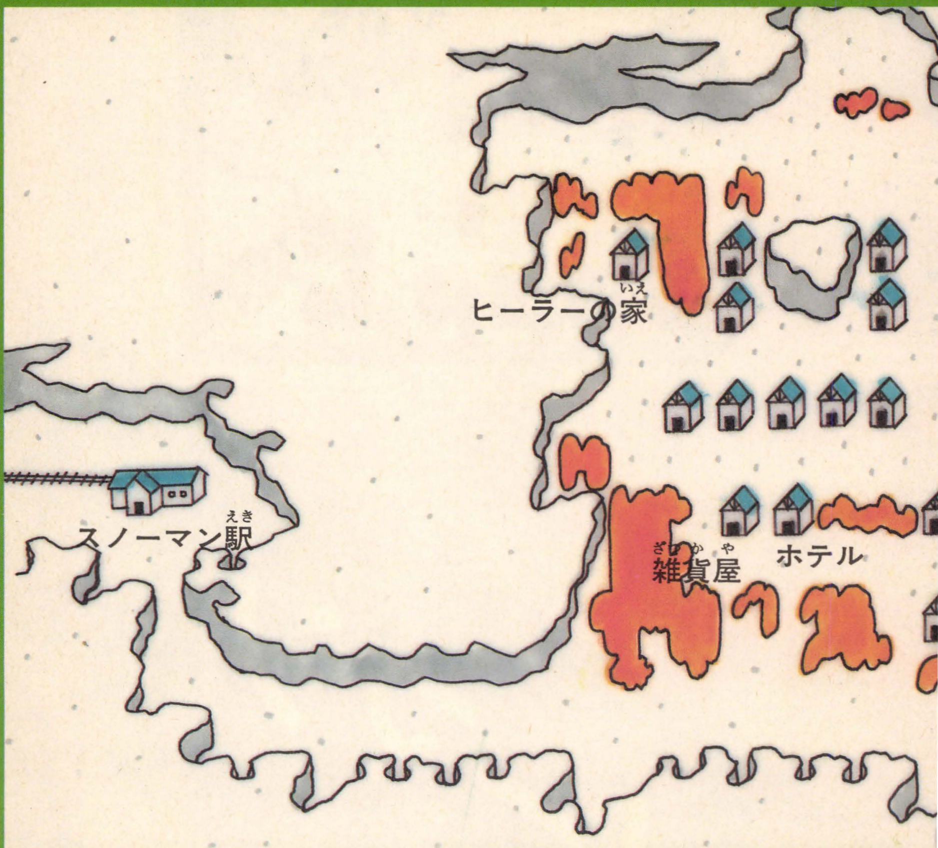


スノーマン

MOTHER™

第VI章

MAP. 14



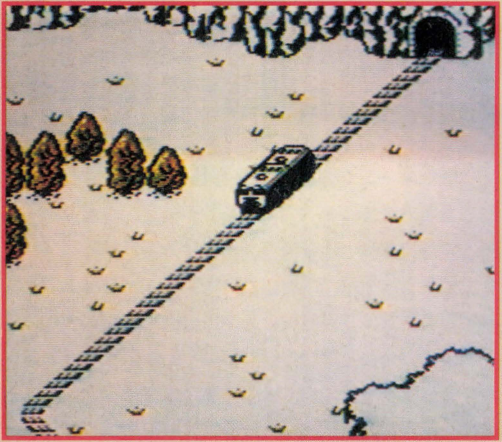
スノーマンの町



ハロウィーンからトンネルを抜けると、雪におおわれたスノーマンの町になる。ここは鉄道の片方の終着駅でもあるんだ。このあたりでは最近、悪質な風邪がはやっているんだって。また、この町でも、いままで人に危害を加えなかった動物たちが急に暴れ出したんだ。これはラジオで聞いた情報だけどね。いったいぜんたいどうなってんだろう？

第Ⅵ章 ———— スノーマン

僕たちは、スノーマン、ハローウィンの次にある、鉄道の南側の最終駅へ向かった。トンネルをぬけると、そこは雪国だった、なんてね。でも、ほんとに一面の銀世界。めったに雪なんか見たことのない僕たちは、思わず冒険中だってことも忘れて、スノーマンに着いたら雪合戦をやろう、なんてはしゃいでしまった。さあ、スノーマン駅だ。すっぽりと雪でおおわれた小さな町。きれいだけどほんとに寒いところ。風邪ひいてる人も多いみたい。レインディアで、予言者のおじいさんから、うがい薬をもらっておいてよかった！　ところで、さっそく変な噂を耳にしたぞ。「イースターの町では、住民が神かくしに会ってしまったらしい」というんだ。そういえば、駅の待合室でも、イースターへ行ったきり連絡のないママのことを心配してる女の子にあったっけ。そばにいるお父さんの話では、すぐにも探しに行きたいんだけど、サンクスギビングからイースターへの線路が不通になってるんで、途方にくれてるところだと言う。あの子のママも神かくしにあったのか。これって、ひいおじいちゃんのケースと似ているよね。気になるなあ。でも、とりあえずは、レインディアでお婆さんから預かった帽子を、アナという女の子に届なきゃ。それにスノーマンまで来たら、その子が僕をよんでるって感じが強くなってきた。あっそうだ、マザーズデイ役場のお姉さんが言ってた不思議な少女って、アナのことかもしれない。早く会ってみたいなあ。

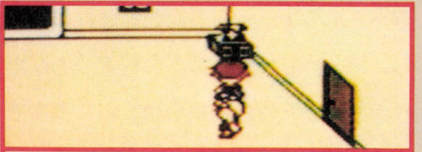


アナは、スノーマン教会の神父さんの娘らしい。教会は山の中にあるっていうんで、ふたりで山へ。教会までの道も大変だったんだよ。銀狼に何度も襲われて

さ。でも、やっとのことで、その小さな教会へやって来た。中には神父さんと女の子が。その子をみたとたん、僕にはわかったんだ。自分が、実はずっとこの子を探してたんだ、ということが。胸がいっぱいで口がきけない。でも、ふたりは僕をまるで待ってたようにあたたかく迎え入れてくれた。アナは、淡い金髪に、さわると溶けてしまいそうな雪のように白い肌、夢みるような大きな瞳の、とてもかわいい女の子だ。正直言うと、僕は内心ドキドキしてしまった。もっとも、ロイドが「すっごくかわいいなあ！」と耳元でささやいた時は、「バ、バカ、聞こえるぞ」なんて、たしなめたりしちゃったけどね。アナはくすっと笑い、それから真剣な顔で僕の目をまっすぐに見つめ、こう言った。「あなたにとてもよく似た人を、夢の中で見たわ。マイクね、そうでしょう？　私のママはイースターへ行ったきり、行方不明になってしまったの。探しに行くのに、あなたたちの助けが必要なの、待ってたわ」やっぱり、お互いによび合ってたんだね。神父さんがアナの肩に優しく手をおき、「この子はひ弱だが、優しい心と不思議な力を持っています。力を合わせれば、必ず勝てるはずです。私は町の人たちのために、ここに残るが、あなた方のためにいつも祈ってますよ。行ってらっしゃい」と言った。アナはお父さんに抱きつき、「パパ、心配しないで。ママといっしょに、きっと帰ってくるわ」とキスを。こうして、三人の新しい旅が始まったんだ。



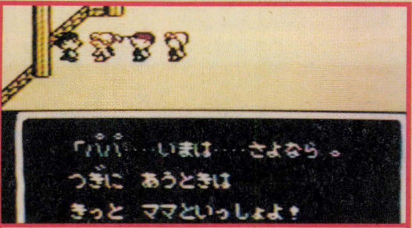
さすがに寒い町だ。あちらこちらに風邪をひいた人をみかける。うつされたらたいへん。でも、話は聞かなければ。



パパに電話を……エ！　プレイヤーに変わってって！　ここで初めてプレーヤーの名前を入力することになるのです。



やっとのおもいで教会に。ここで待っているのは、新しい仲間になるはずのアナが。



さあ、パーティーも三人。アナもパパに別れをつげて出発だ!!

第VI章

もちろん、次の目的地はイースターの町だ。この駅は、スノーマンとは反対側の終点だ。でも、さっき駅で聞いたように、サンクスギビングからイースターへは汽車では行けない。僕たちは、とりあえずサンクスギビングまで乗り、そこから砂漠を東に抜けて、イースターへ入ることにした。女の子が入ると、汽車の旅もいちだんと楽しい。ロイドとアナもすぐに気が合って、三人でにぎやかにおしゃべりしてるうちに、あっというまにサンクスギビングだ。駅を出ると、変なおばさんがいきなり攻撃してきたよ。大きな紙袋をさげた、ふつうのおばさんみたいなんだけどね、きっと何かにあやつられてるんだよ。僕たちにやられてわれに返ると、あわてて逃げて行っちゃった。後には、おばさんの落としたハンバーガーがいっぱい。ありがたい！　これって、とっても力がつくんだよね。

さて、砂漠へ向かって僕らは歩き始める。まずい、オメガソーサーの襲来だ！　きゃしゃなアナを守ってあげないと！。でも、遅かった。なれない戦いでアナは傷つき、意識不明の重体に…。僕たちはアナを病院へ運んだ。治療費はずいぶんかかるけど、助かる見込みはあるという。ああ、よかった！　パパは常に口座のお金を補充しといてくれてるから、たくさん引き出してきた。(言ってなかったと思うけど、しょっちゅう銀行には行ってるし、パパにも連絡してるんだよ。あんまり心配かけたくないからね。ところでアナの回復を待つ間に考えたんだけど、アナはか弱い女の子で、ＰＳＩもまだ開発されていない。いちどマジカント国へ行って、装備の品を揃えた方がいいんじゃないかな。もちろんロイドにもね。あそこには、身を守ペンダントや腕輪などを売ってるお店があるからね。そこで、



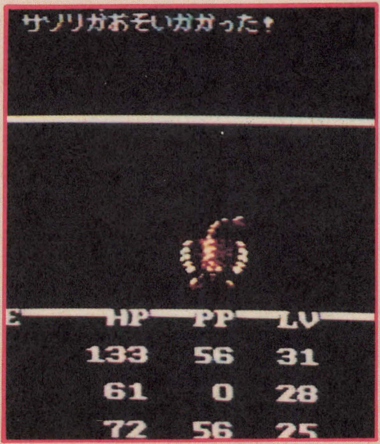
おばたりあんパワー爆発。両手にもっている買物袋をブンブン振り回す。勝てば何かを落として逃げるぞ。



アナが退院すると、僕たちはめのうのつり針を使ってマジカント国へ。「まあ、なんてすてきな国なの！」天国のような世界に、アナは歓声をあげる。そうだ、森へ連れていってあげよう。森へ入り地面を泳ぐネコに会う。アナは大喜びだ。ネコは、女の子にしかあげないと言っていた、不思議な力のわくリボンを、アナにくれた。金髪に赤いリボンがよく映えるよ。それから、例のお店で、ディフェンス能力ばつ群の女神の腕輪を買う。これで安心だね。さて、帰る前にクイーン・マリーに会っていこう。例の歌、思い出したかしら。お城の大広間に通された僕と仲間たちを見て、マリーはとても喜んで迎えてくれたけど、やっぱり、どこか淋しそう。まだ、歌を思い出せないんだって。僕が何とかしてあげれたらいいのに、「ありがとう、あなたのその優しい気持ちだけでも、とても慰められますよ。いつでもまた帰っていらっしゃいね」と、マリーは僕たちに優しい言葉をかけ、見送ってくれた。そうして僕たちは、あの穴から迷路へ。迷路の片隅には、またドラゴンが眠っていた。起きそうにないので端を抜け、今はあの〝忘れられた男〟のいなくなった出口から、元の世界へ戻ったんだ。

再び、砂漠へ出ると、レッドスネークやスパイダーが襲ってきた！　でも、今度はアナもロイドもパワーアップしてるからね。それほど苦戦はしなかった。いちど、アナが毒にやられてしびれちゃったけど、ヒーリングγですぐに回復したしね。それに、この戦いの中で、早くもアナのＰＳＩが装備されてきたみたいなんだ。PKビームとか、サイコロシールドとかね。やっぱりスゴい子だったんだなあ。

スノーマン





砂漠には毒を持った敵が多い。

THER™

第VI章

やっと砂漠だ。地図によると、ここを東へ突っ切ると、イースター。でも、ここではちょっと苦労したよ。何しろ、太陽はギラギラ照りつけ、日陰なんか全然ないんだ。僕やロイドは、まだガマンできるけど、寒い町から来たアナはかわいそうだよね。のどが乾いて仕方がない。どこかに水が。あっ、向こうにオアシスが見えてきた！

蜃気楼だったんだろうって？　残念でした、ほんものの泉だったんだよ。小っちゃいけどね。そして、泉のほとりには、ひとりの老人がキャンプしていた。水をごくごく飲んでから、僕らはおじいさんと話をした。おじいさんは、昔は軍人だったんだって。この砂漠にも地雷をいくつも埋めたことがあるって。戦後になって回収したけど、一個だけ、どうしてもみつからなかったのがあるから、気をつけるように、と忠告してくれた。こんなとこで何をしてるかというと、軍隊時代のキャリアを生かして、戦闘機や戦車に乗ってみたい人に乗せてあげる商売をしてるらしい。「もっとも砂漠じゃ、あまり人は来んがね、ハッハッハ！」だって。面白いおじいさんだね。「どうかね、飛行機に乗ってみるかい？」と言われ、僕たちはつい、誘惑に負けてしまった。でも、これはすごくコーフンする出来事だったよ。男の子だったら、だれだってそうだと思う。いや、アナだって負けずにカンゲキしてたけど、とにかく、あのぐんぐん上昇していく感覚って、たまらな



サンタクロース駅を、北回りに行くと、広大な砂漠が広がっていた。

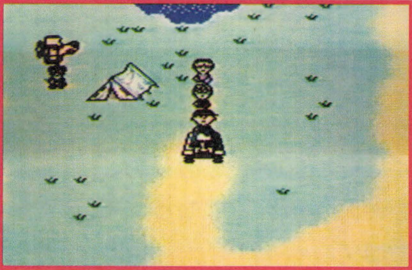


砂漠でも、情報は聞ける。道しるべのようにラクダの骨が。そして、ここでもやっぱり地雷の話が。

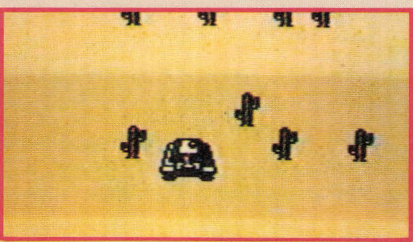


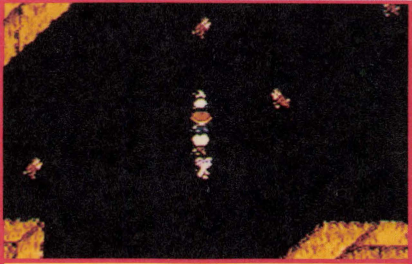
中央にオアシスがあり、おじさんが遊覧飛行をしてくれる。

い！　今度「トップ・ガン」を観たら前よりずっとワクワクしそうだ。それから、戦車にも乗せてもらった。これもなかなかの迫力だったよ。僕たちが苦労して歩いてきた砂漠を、もう何の苦もなくすっとばしちゃうんだもんね。ロイドは、すぐに運転がうまくなってガンガンとばすし、アナは「もっととばして！」とはしゃぐし（意外とおてんばなんだよね）、砂漠の中でアメリカン・グラフィティをやってるみたいなノリだ。もちろんここにも敵はいて、ガビランが粘液をロイドの眼鏡にふきかけたり、どでかいロボット（R7038）が通せんぼしたりしたけど、戦車砲で一撃だ！　…そうして砂漠を半ば突破したとき、僕たちは、遺跡のようなものを発見した。下りて、探検してみよう。古代の神殿か何かだろう、ギリシャの写真で見るような柱が何本も立ってる。これだけか、なーんだ、とおもったとき、「ねえ、見て！」ロイドの声。地下に通じる階段を見つけたんだ。地下には、何と迷路が広がっていた。それになぜか、サルがうろちょろしている。話かけてみよう。おや、「ここのサルはウソつきが多いから、気をつけろよ」と忠告してくれたのもいたし、「海の見える町では新しい仲間に出会うだろう」なんて、予言のようなことを言うサルもいて、なかなかためになったと思うよ。もっとも、ウソかもしれないけどね。途中でサイパワーストーン（ＰＩパワーを回復させる石）も拾ったし、収穫はまずまずかな、さあ、いいかげんに寄り道はやめて、イースターをめざそう！　僕たちは、おじいさんと別れ、さらに砂漠を歩き始めた。また長い長い道のり。でも、ようやく緑がちらほら見えてきた。イースターが近いようだ。



戦車に乗って砂漠の偵察だ。遺跡に行く前に砂漠を一回り。敵に会わないから最高。





遺跡の地下には、サルたちの群れが。ここのサルはどうもウソつきがおおいようだ。アレ！　タヌキにペンギンまで。

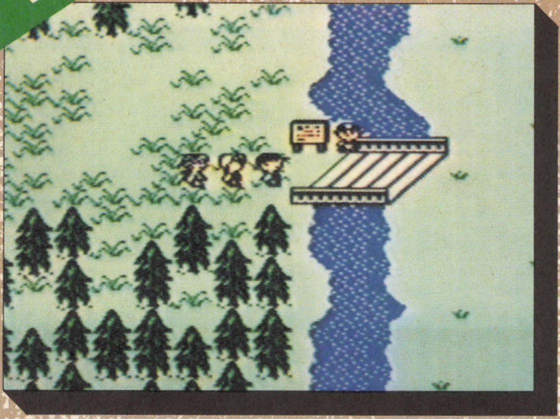
ぼく、ロイド。サンクスギビングの小学校で、ぼくはマイクに会った。それまでのぼくは、性格が暗く、誰にも心を開くことができなかったけど、マイクのおかげで新しい自分を発見できたんだ。失敗ばかりしていたぼくをはげまし続けてくれたマイク、ありがとう。

マイクとアナ、それにぼく、これまでの三人の冒険は、戦いの連続で苦しかった。もちろん楽しいこともたくさんあったけれどね。もうすこししたら、テディという新しい仲間も加わるんだよ。ゲームの最後になったら君にもわかってもらえると思うけれど、ぼくはこの冒険をとおして、ほんとうの「友情」というものを仲間から教えてもらったんだ。みんなも、友だちは大切にね！

さあ、めざすはローリー・ホーリー・マウンテンだ！



だい　しょう
第VII章



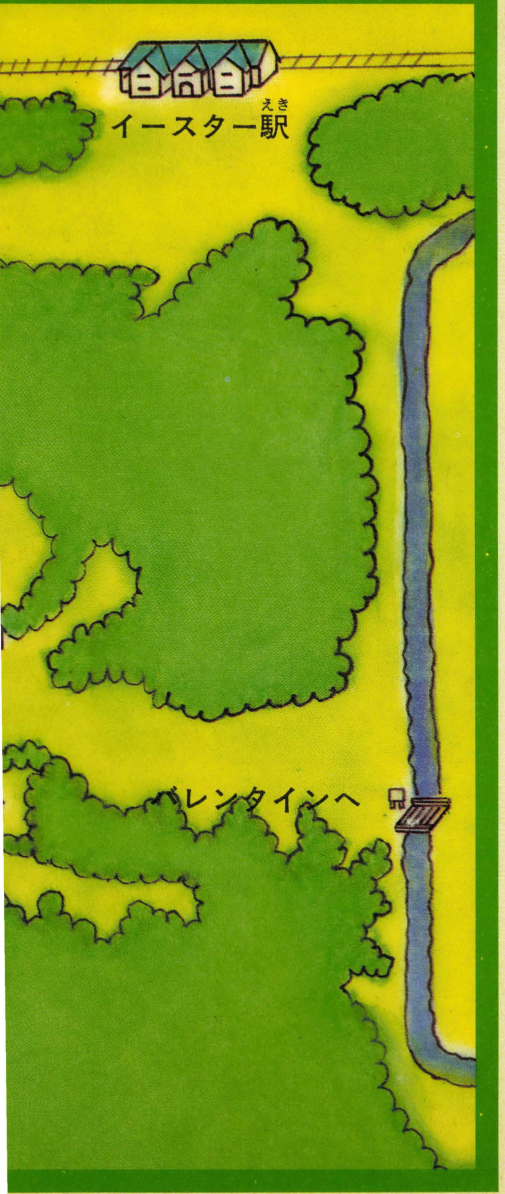
イースター

MOTHER™

MAP. 15



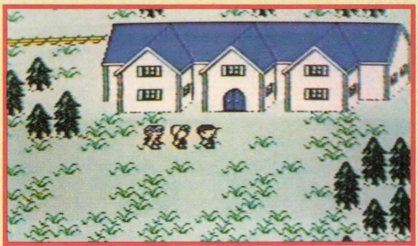
イースターの町



美しい針葉樹に囲まれた緑の町がこのイースターだよ。ここは列車の北の終着駅なんだ。
それはそれは美しい町なんだ。君も早く行ってみたいと思わないかい？　でも、ここまで行くのにどんな危険な事が起るか、想像もつかないね。

第Ⅶ章 ———— イースター

イースターは、針葉樹に囲まれた美しい町だ。だけど今、この町には大人の姿がない。家々の外では、子供たちが泣きながら空を見つめている。「君たち、お父さんやお母さんは、どうなってしまったの？」と呼びかけると、子供たちは口々に、僕らに訴えかけた。「大きな空飛ぶ船が、パパやママたちを連れて行っちゃったんだ！」「父ちゃんたちの声が、山の方で聞こえたような気がするよ」「でも、山はバレンタインの町のもっと向こうにある。遠すぎて僕たちには行けないんだ」「お兄ちゃんたち、お願い、パパやママを連れ戻して!!」…かわいそうに、どんなにか心細いだろう。「大丈夫よ。きっと連れて帰ってくるから」アナがやさしく、みんなをなだめている。自分のお母さんも行方不明になっているのに、不安を隠して子供たちを慰めるなんて、誰にでもできることじゃないよね。まるでマリア様みたいだ。…それにしても、空飛ぶ船だなんて、宇宙人のしわざなのかしら。「マイク、敵は思った以上に強大なようだね」ロイドもささやく。うーん、宇宙人に立ち向かうとしたら、僕たちにも、もっとすごい力が必要なんじゃないかな…。考え込んでるところへ、子供たちが耳よりな情報をくれた。この近くの、ガリクソンさんちの赤ん坊が、何だって不思議な力を持っているらしい。さっそく会ってみよう。



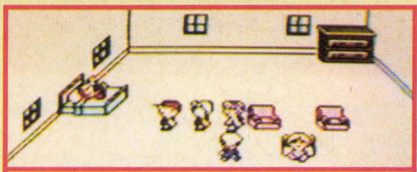
イースターの駅が見えてきた。駅はあるけど途中の橋が壊れていて、電車がこないのが残念。駅員さんもひまそう。



町の中は子供ばかり。親はどこかへ連れさられたらしい。店にはロイド君の得意な武器が。

ガリクソン家は、すぐに見つかった。ノックすると、女の子がドアをあけてくれた。「え？　うちのベビーに会いたい？　ああ、あの力に関係あるんでしょう。さあ、どうぞ」やっぱり噂は本当なんだ。僕たちは、奥のベッドに案内された。ベビーはすやすやと眠っている。でも、僕がテレパシーを使うと、ベビーの意識が僕の心に語りかけてきたんだ。「私も、あなたたちと同じエスパーです。テレポートの力を持っています。この力をあなたに分けてあげる。そうすれば、あなたの知っているところなら、どこへでも行けるんです。」僕たちは、ベビーの意識からテレポーテーションのＰＳＩをうけついだ。これは便利だ！　だって、この力を使えば、いつでも家に帰って、ママのアップルパイで元気をつけたり、ミニーに荷物を預けたりできるだろ？　それに、情報の聞き落しがあっても、いつでもどこへでも拾いに戻れるんだもの。そして、実際、これから僕たちは、しょっちゅうテレポートしていろんな場所へ出かけては、元気回復したり、情報を集めたりすることになるんだけれど、あまり細かいことは、退屈だろうから言わないことにするね。とにかく、今までの旅よりずっと行動半径が広くなったってことだ。だけど、うっかり障害物の前でこの力を使おうとすると、なぜか三人とも黒こげになっちゃって、治すのに大変だったりもするから、けっこう気を使わないとね。でも、マジカント国で魔封じのコインや大地のペンダント、炎のペンダント（雷や炎から守ってくれるんだ）などを買って、テレポートでイースターに戻ってきたときは、感激だったよ、ほんと。

さて、子供たちの話では、バレンタインの向こうの山から、大人たちの声が聞こえてきたということだ。それじゃ、まずはバレンタインの町へ行くべきだろうな。行ったことのない場所へはテレポートできないから、歩いていくしかない。イースターの東に広がる湿地帯をひたす



この赤ちゃんが僕とアナにすばらしいプレゼント、テレポテーションを教えてくれるぞ。ここからの移動は、いままでとはくらべものにならないぐらいはやく。



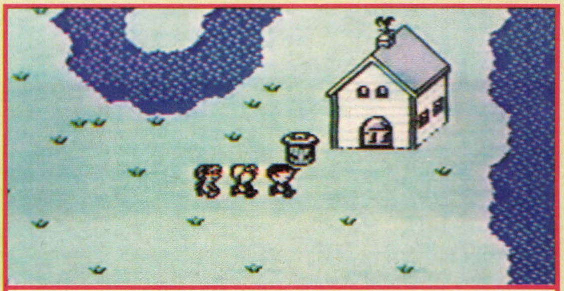
イースターの町からバレンタインの町に行くには、この橋を渡って湿地帯を通って行かなくてはならない。

THER™

ら北へ歩くと、道しるべがあるという。僕らは湿地帯へ入っていった。ところがこれが、すごく入り組んだ土地で、途中で方向が全然わかんなくなってしまった。そこへもってきて、バイソン（水牛）や女性ロボ（ジェーンというらしい）が攻撃してくるし。さすがの僕らもへとへと。バテかけたころに、一軒の家が。そして、戸口からとび出してきたのは、何とピッピじゃないか！「マイク！　また会えてよかった！　ここ、親せきの家なの。みんな疲れているみたいね。泊まってらっしゃいよ」助かった！　おかげで、僕たちは次の日には元気いっぱいになってた。ありがとう、ピッピ。再び湿地帯を歩き始める。でも、今度は大丈夫だ。ほうら、道しるべが見えてきたぞ。「南、湿地帯。西、バレンタイン」いよいよだ。

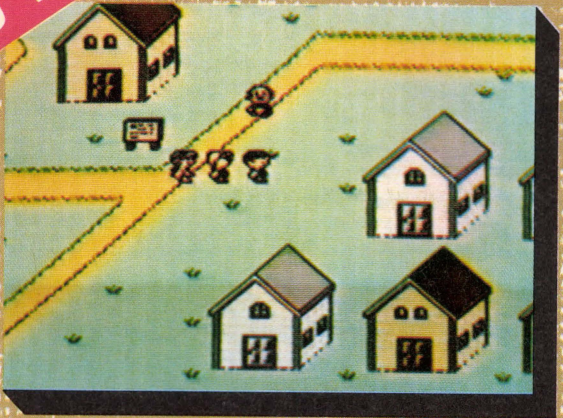


湿地帯はさらにレベルアップした敵が待ち受けている。ムークには注意。ＰＳＩを封じられてしまう。



家の前にあるゴミ箱が動いている。そうです、スノーマンの町で名前を入力しなかった人、間違えて入力した人のために。

第VIII章

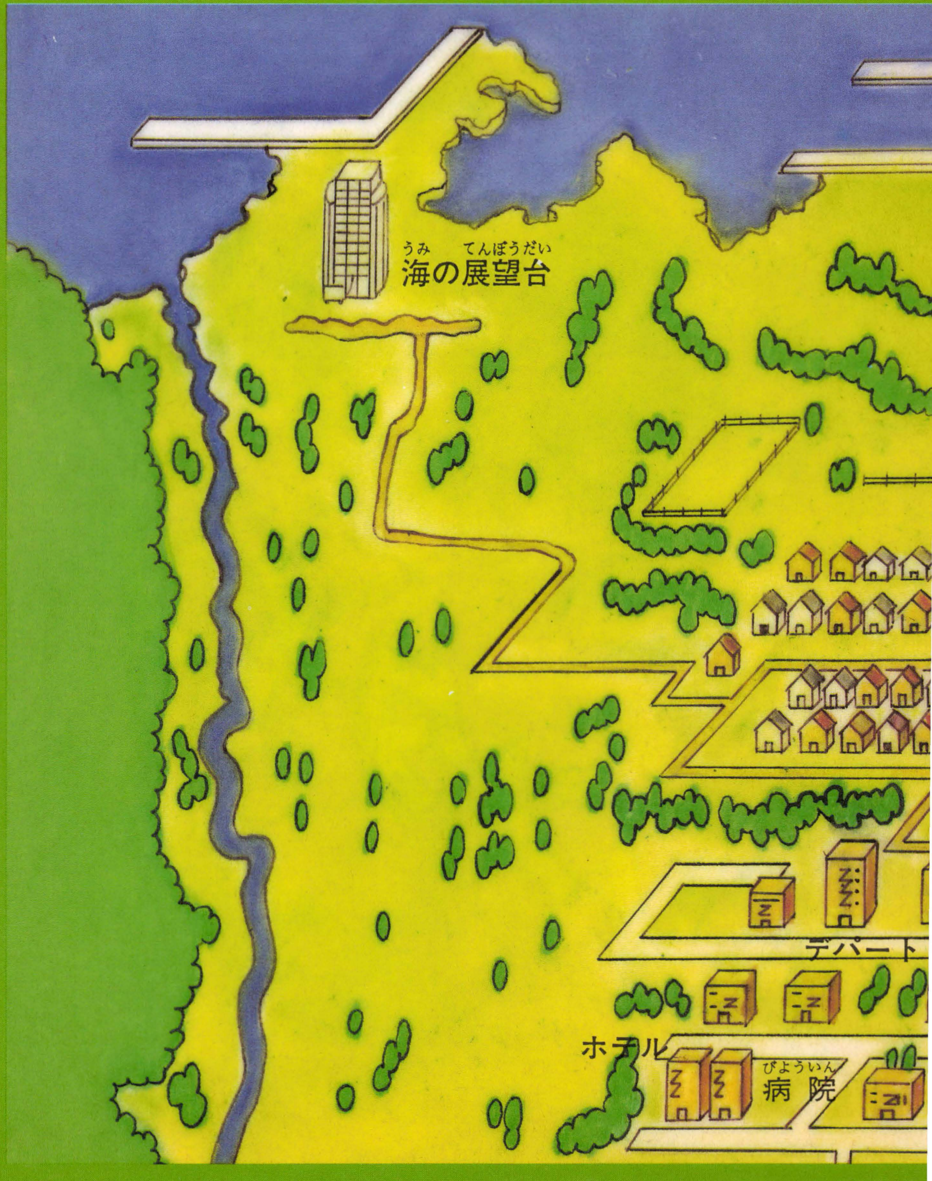


バレンタイン

MOTHER™

第VIII章

MAP. 16



バレンタインの町



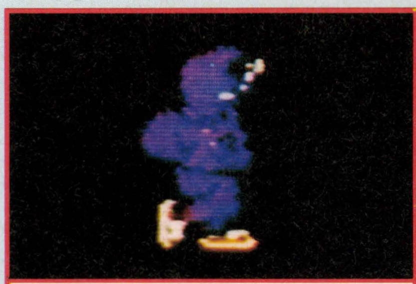
ここは不良の町。この町では普段から、しょっちゅう事件が起っているんだ。だからこの町の住人にとっては、今度の不思議な事件もあまり深刻な問題じゃないみたい。だけどこの町にも「とりえ」があるんだよ。というのは、この町には港と展望台があって、そこからの景色は絶品なんだってさ！

第Ⅷ章 ——— バレンタイン

ここは、潮の匂のする町、北側が海に面しているんだ。波止場町には不良っぽい人たちが多いっていうのは、本当なのかもしれない。だって、リーゼントのお兄さん達がそこらじゅうを、肩で風きって歩いてるよ。あっ、目が会っちゃった。わ、こっち来るう！　「おうおう、お前ら、かわいい女の子つれてるじゃねえか。オレをブラブラ団の一員と知ってて、ガンつけてんのか？」「い、いえー」「なにィ？　知らねえだと、ふざけやがって！」全くもう、どう答えたって怒るに決まってんだから。仕方ない、ケンカだ。僕たちは、ふつうの人間とは戦いたくないんだけどね。もちろん、僕たちの圧倒的 勝利。だって、お兄さん弱いんだもん。「くそっ！　テディの兄貴がいたら、お前たちなんか、小指でぽいだぞ」って捨てゼリフを吐いて、逃げて行っちゃった。まあ、いいけどね。遠まきに見てた町の人たちが寄ってきて、「全く、ブラブラ団のやつらときたら、しょうがないな。それにしても、あんたらは強いねえ」と口々に言う。ブラブラ団てのは、町の不良グ



やっとのおもいで、バレンタインの町までたどり着くことができた。


いかにも不良といった感じで、弱いくせにやたらいばっている。



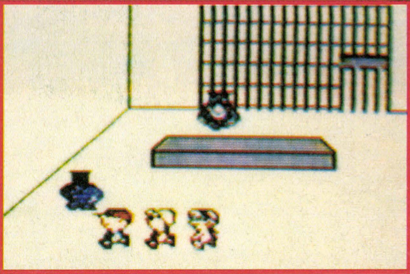
町の中にはデパート・ホテルなどの他に、ライブハウス・警察署が登場

ループで、ブラック・ブラッド団の略なんだって。その団長がテディ。すごくこわそうだけれど、親分肌で、気のいいところもあるらしい。そんなヤツだったら、何か力になってくれるかもしれないね、どこにいるんだろう。「もしかしたら、ライヴハウスなんかにたまってるんじゃないかしら」とアナが言った。カンが鋭いなあ。よし、行ってみよう。

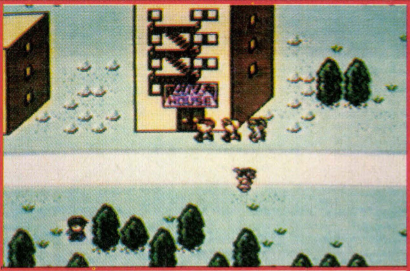
盗族カモメの襲来を退けながら、僕たちはライヴハウスへやって来た。ちゃんとチケットも買ったんだよ。ドアを開けたとたんに、すごい音の洪水だ。暗い中で、みんなが唄ったり踊ったりしている。わあ、楽しそうだな。マスターが近づいて来て、「見慣れない顔だね。よかったら、君たちも何か唄ってみないか？」とすすめてくれた。「どうする？」とふたりに聞くと、「面白そう、唄っちゃおうよ」だって。けっこう、ノリやすいんだから。ちょっと緊張しながら、三人でステージに立つ。珍しいっていうんで、みんなが注目する。わ、プレッシャー！　でも、大好きなフィフティーズのナンバーを唄い出したら、じぶんでものっちゃって、とてもリラックスしてきた。三人の息もピッタリ合ってたしね。みんなもフィフティーズは大好きらしく、ツイストなんか始めちゃって、そりゃあもう、大騒ぎさ。終わった時には、座ってるヤツなん



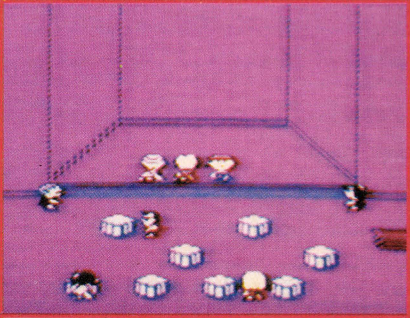
バレンタイン



これは、警察署の中。おまわりさんの一人は武器を横流ししていたりして。

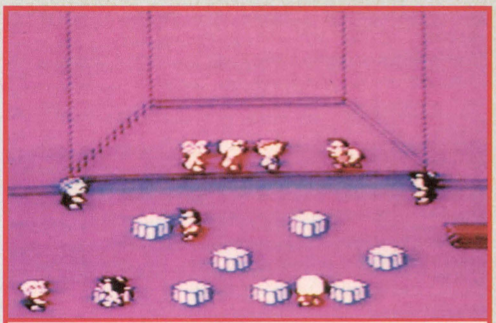


情報を集めると、どうもこの町にはブラブラ団という組織が幅を聞かせているようだ。



ステージに立って歌えるなんて最高！三人声をあわせて。

て、ひとりもいなかった。総立ちで大歓声だ。気分がいいなあ。「サイコー!!」の歓声にひたってると、みんなの中から、ジミー・ディーンばりのひときわカッコいいお兄さんが進み出てきた。リーゼントがビシッと決まってて、たくし上げた黒いTシャツの袖から、日焼けしたたくましい腕が出てる。こわもてのする顔にサングラス。ここだけの話だけど、僕のファッションはいわゆるアメ・カジなんだけど、ときどきこんなのにも憧れちゃうんだよね。だから、あまりのカッコよさに、怖さも忘れて見とれちゃった。さて、僕らの前に立ったお兄さんは、ニヤッと笑って言った。「ごきげんな歌をありがとうよ。サイコーだったぜ、ベイビー♡（これはアナに）ところで、だ。オレの仲間をちょいとかわいがってくれたのは、お前たちかな？」うわあこれが噂のテディか！　ヤバイ、かなり怒ってるぞ。「今度はオレが相手だ。かかって来い！」って、もう見構えてる。またケンカか。でも、テディみたいな人とは、とことんやり合ってからじゃないと親しくなれないんだよ、きっと。だから、僕もひとりで、全力で戦うことにした。思った通り、テディは相当強い。負けそう、でも、がんんばらなくちゃ。アナも見てる。テディがくり出すスゴいパンチにダメージをうけながらも、僕は必死で応戦した。



アレ！　いかつい兄ちゃんがこっちに来るぞ。なんかやばそう。



出たー！　ブラブラ団のボス　テディだ。さあ、僕とテディの無制限一本勝負だ。

僕のジャブには定評がある（？）からね。さすがにテディも少しふらついてきたぞ。今だ！　すかさずコークスクリュー・パーンチ!!　よろめいたテディがパンチを浴びせようとしたところへ、クロスカウンター!!　やったぞ！　テディの巨体がもんどり打って、床へドスン、と倒れた。誰かがカウントしてる。「……、エイティ、ナイン、テーン！」勝ったんだ！　テディは、しばらく倒れたまま動かなかったが、ようやく、うす目をあけて、こう言った。「負けたよ。や

るじゃねえか」(ニヤッとね)これで、みんなはまた大拍手。僕たちとテディが友だちになったってことが、わかったんだね。砂漠の遺跡の地下でサルが言った、「海の見える町では新しい仲間に会えるだろう」っていうのは、ウソじゃなかったようだ。

さて、僕らはテディに、これまでの冒険のことを話して、協 力を頼んだ。するとテディは「それどころか、こっちが頼みたいくらいだぜ。というのも、オレの親父とお袋も、神かくしに会っちまったんだ。あのホーリー・ローリー・マウンテンに黒雲がかかってからというもの、ロクなことがありゃしない。山に謎が隠されてるんだったら、ぜひ一緒に行こうぜ。みんなの敵をとってやる!」と、乗り気だ。よかった、テディが加わってくれれば頼もしいや。だけど、ロイドはちょっとかわいそうだったね。テディに「おい、メガネ。お前、戦いには向いてねえよ。しばらく、ここで休んでな。荷物はオレが持ってやるよ」って言われちゃったんだ。ロイドはたしかに大して強くはない。実をいうと、何度も意識不明になって病 院にかつぎ込まれたことがあるくらいだ。アナもそりゃ同じだけど、PSIを持ってるから、強いときはとことん強い。そこへいくと、ロイドは戦いに向いているとはいえないかもしれない。でも、前よりずっと勇敢になったし、何よりも、ここまでいっしょにやって来た友だちだよ。僕は一 瞬ムカッとして、ロイドのためにテディに言い返そうとした。だけど、テディの目を見てわかったんだ。これはテディなりの優しさなんだってね。ロイドは実際、かなり疲れてる様子だからね、今休んでおかないと後で大変なことになるかもしれない。だから、あんなことを言ったんだ。ぶっきらぼうな言い方しかできないのは、人一倍シャイだからなんだと思う。ロイドにもその気持ちが通じたみたいで、テディに「うん、ありがとう。休ませてもらうよ。どうかがんばってね」と言い。テディに荷物を渡した。メンバー・チェンジってわけだね。

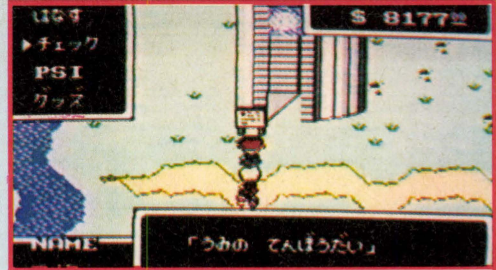


新しい仲間に、テディが入った。弱虫のロイド君は、ここでちょっと休 憩だ。

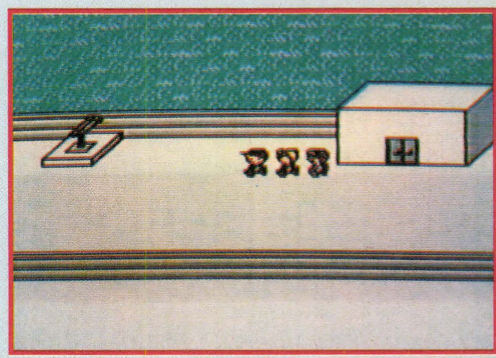
ロイドを残して、僕たちはライヴハウスを出た。まずはデパートで、テディのサバイバルナイフを買い、マジカントで

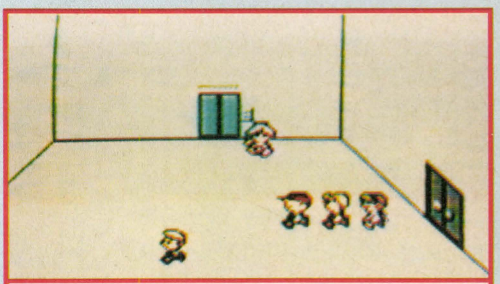
第VIII章

魔封じのコインや女神の腕輪を整え、バレンタインに戻る。さあ、ホーリー・ローリー・マウンテンへ、と思ったんだけど、テディに「まあ待てよ。海の展望台へ行って、ここらの地理を自分の目で確かめといた方がいいと思うぜ」と言われ、三人で展望台へ。雪国に育ったアナなんか、青い海をみて大喜びだ。「遠足じゃないんだぜ」と言いながら、テディもアナには優しい。無邪気なアナの前では、どんな人も素直になれるんだよね。さて、北にはバレンタイン港、東にホーリー・ローリー・マウンテン、ずっと西に砂漠、南に湿地帯が広がっている。うん、だいたいのとこはつかめたぞ。と納得して、展望台をでようとした時だ。事務所で騒がしい声がする。「あの、何かあったんですか？」と尋ねると、「海の方に見える無人島から煙が上がってたんでね、人が住んでるのかもしれないって、驚いているとこさ」という答え。もう一度、屋上からよく海を見ると、あっ、向こうの島で何かが光った。わあ、ロケットがこっちに飛んで来る！　ヒューン、ストン！　ロケットは僕たちの目の前に、きれいに着地した。ということは、これに乗れば、向こうの島まで行けるかもしれない。三人で乗り込むと、思った通り、ロケットは小島めがけて、すごいスピードで飛び出した。ドスン！　僕らを乗せたロケッ

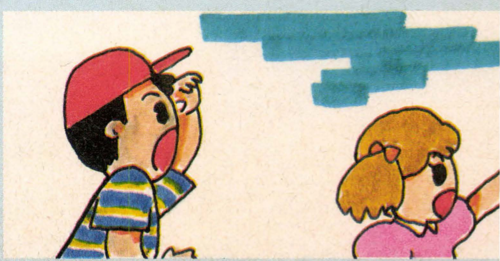


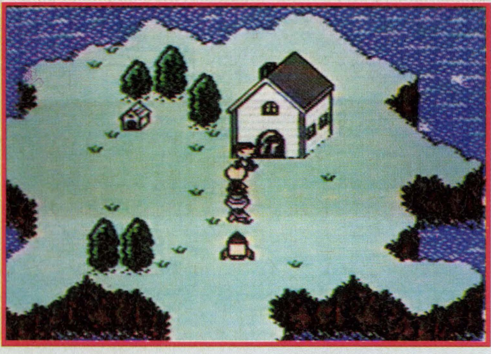
バレンタインの北にある展望台。いったい何が見えるのだろう。

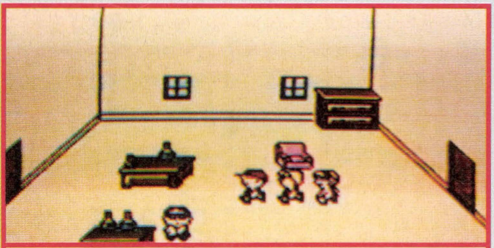




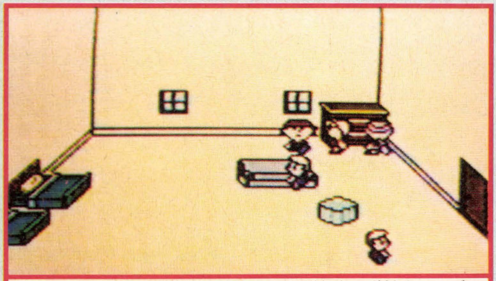
エレベーターで上にあがると、きれいな海が目の前に広がっていた。



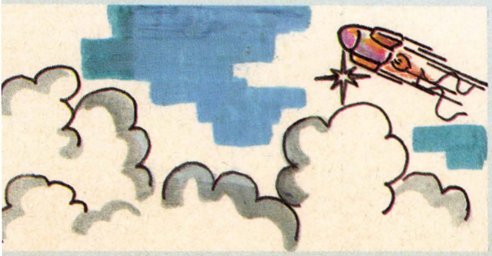




ロケットにのって離れ島を訪れたぼくたちを待っていたのは、いちごどうふのことばかりしか言わない博士たち。



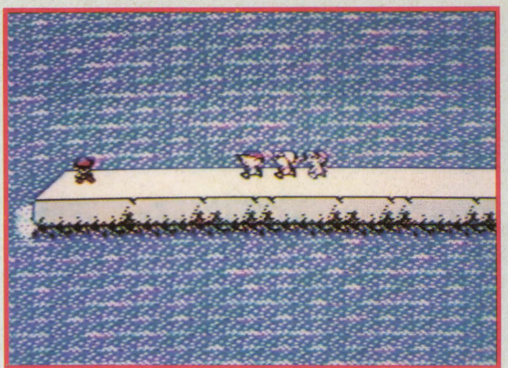
いちごどうふを渡したとたんに博士も助手A，Bも態度がコロッと変わってしまった。



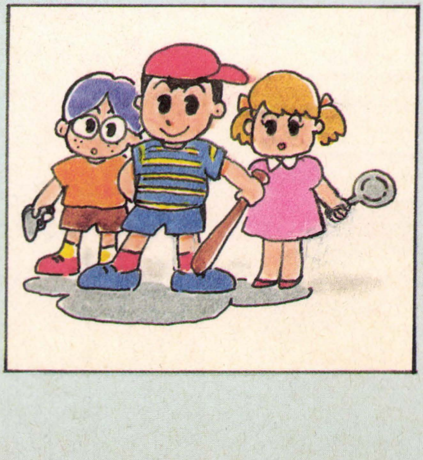
トは、小島の中に建てられた、研究所みたいなものの前に着陸だ。どんな人たちがいるんだろう。好奇心でいっぱいの僕たちは、ノックして中に入った。そこには、あんまり優秀そうじゃない（ゴメンネ）博士や助手が、のんびりとお茶をのんでいた。「やあ、いらっしゃい。君たちもお茶をどうかね」なんて、のどかにすすめられて、ついごちそうになりながら、世間話をしてしまう。「ところで君たち、いちご味の豆腐を食べたことがあるかね？」博士が突然こう言った。そういえば、レインディアのデパートで売ってたけど、おいしいのかな、あんなもの。「いや、わしは一度でいいから、食べてみたいんじゃ。夢にまで見るくらいだ」「でも、こんな田舎じゃ売ってないんですよね」と助手。「あれをくれれば、お礼にいいことを教えてあげるんだけどね。君たちの旅にきっと役立つと思うんじゃが…」そこまで言われれば、持ってきてあげるしかないよね。レインディアまでテレポートして、いちごとうふを買って、とんぼ返りだ。もう、博士の喜んだこと！「いやあ、ありがとう！　お礼の情報というのはな、ホーリー・ローリー・マウンテンの湖に、すっごいロボットが沈んでるらしいんだ。良いロボットだったら、君らの助けになるかもしれんな。まあ、がんばってくれよ。」と言ったきり、ひた

すらいちごとうふを食べ始めた。僕らは小島を後に、またバレンタインの町へ戻った。

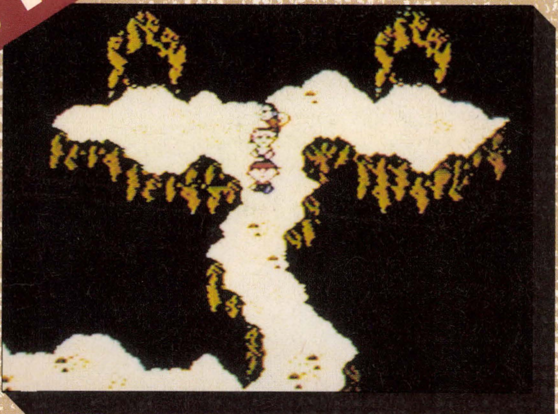
「もう、町でやり残したことはないかしら？」とアナ。そういえば、町の人が「ホーリー・ローリー・マウンテンへ行く前に、港へ行くべきじゃないかな。」と、謎のようなことを言ってたっけ。「よし、港へ行ってみようぜ。」テディの提案で、バレンタイン港へ行く。もう夕方で、港には人がほとんどいない。おや、埠頭でつりをしているおじさんがいるぞ。あの人が何か情報をくれるのかな。「つれますか？」僕たちは、おじさんに話しかけた。すると「つれますか、だって？　当り前よ。このオレさまは世界一のつり師なんだぞ。いいか？　だいたい、つりってもんはな…」と、自慢話が延々と続き、なんと、朝までかかってしまったんだよ。でも、おじさんが一生けんめいしゃべってるのに話の腰を折るのって、気の毒じゃない？　だけど、テディがよくガマンしたよね。意外と気のいいヤツなんだよ。それはそうと、とんだところで時間をくっちゃった。人の言うことも、全部が当てになるわけじゃないってことだ。でも、面白かったからいいや。さあ、いよいよホーリー・ローリー・マウンテンめざして、出発だ!!



防波堤にいるこの人は釣りがとっても好きなんだって。



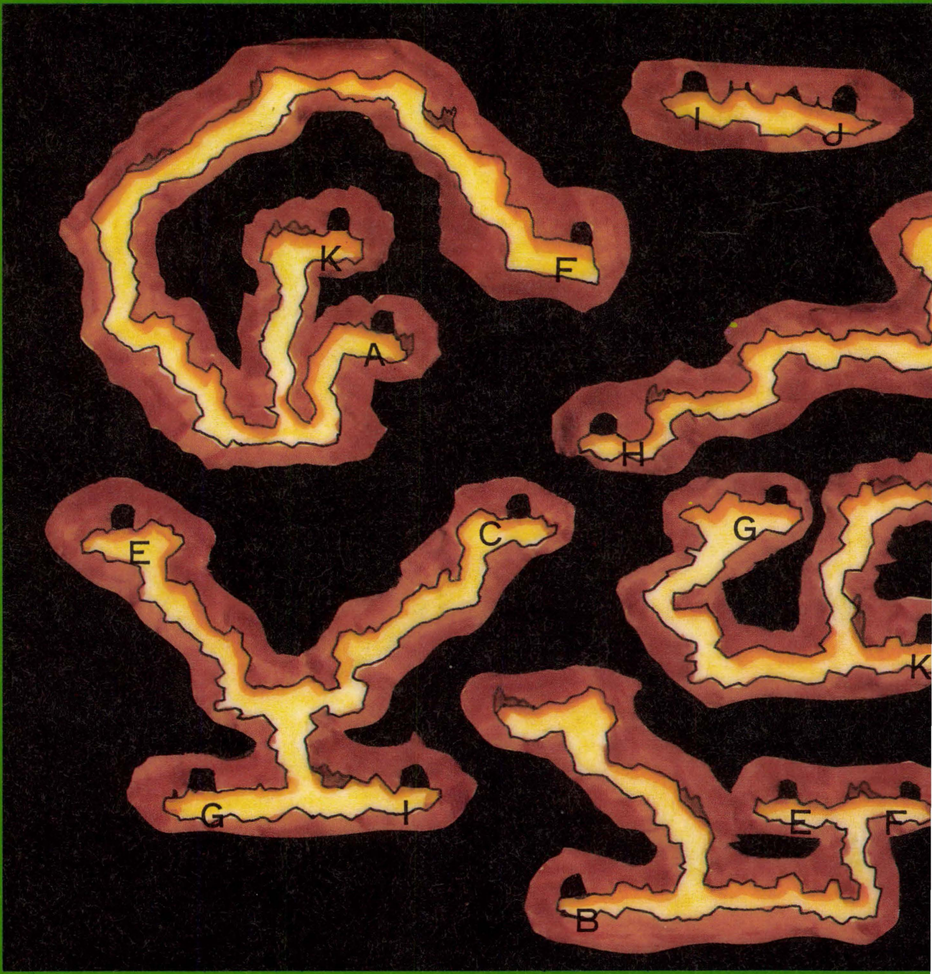
第IX章（だい しょう）



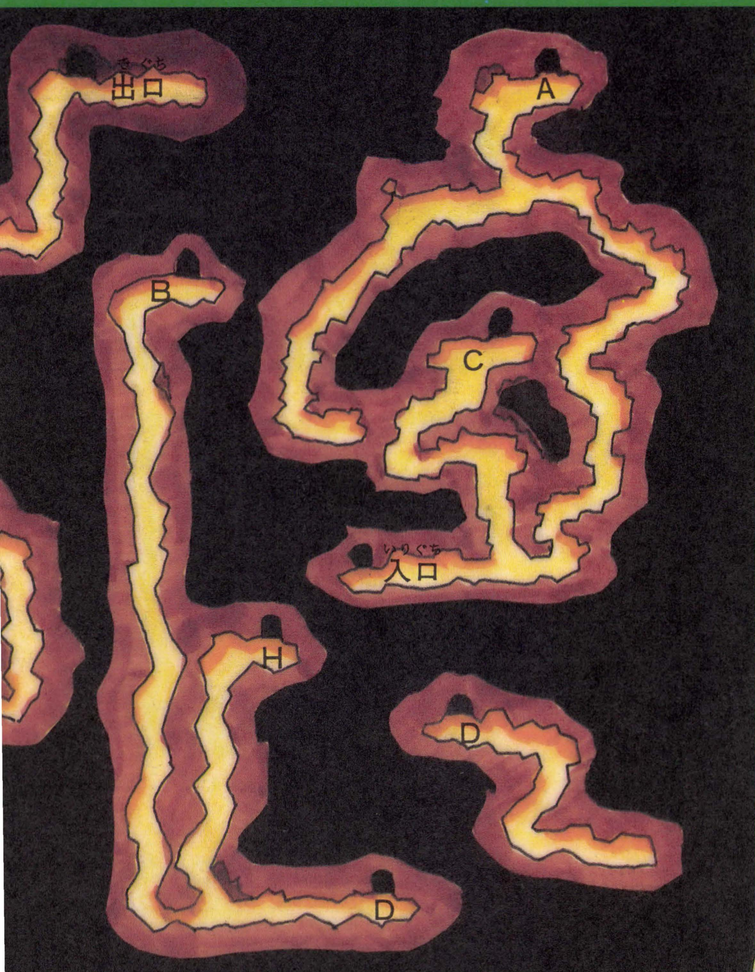
ホーリー・ローリー・マウンテン

MOTHER™

MAP. 17



ホーリー・ローリー・マウンテン



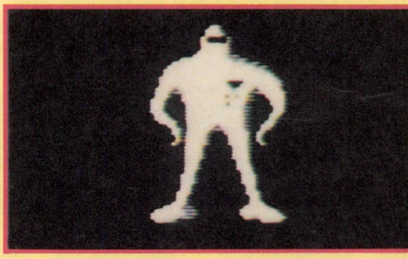
遠くはるかにそびえ立っているという伝説の山、それがホーリー・ローリー・マウンテンだ。この不思議な事件が起ってからというもの、この山にも異変が起こっているんだ。聖なる山なんだから、きっと悪いことなんか起こっていない！ぼくはそう信じているんだけれどね。ゲームもいよいよ大詰め。感動のエンディングはもう間近だよ。さあ気をひきしめて頑張ってね。ぼくも心から応援しているよ!!

第IX章 —— ホーリー・ローリー・マウンテン

バレンタインの東側には、美しい森が広がっている。その向こうにそびえているのが、ホーリー・ローリー・マウンテン。僕たちが森の中に入ったとたんに、いろんな敵が襲いかかってきた。覚えてるかな、動物園に出た、全身が銀色に光るヤツ。あれのもっと大きいの（スターマンというらしい）とか、スパイダーとか、バッファローなど。僕たちの力もずいぶんアップしたけど、それにつれて敵も強いやつが現れてくるから、やっぱり苦戦だ。何とか追っ払ったけど、三人とも傷つき倒れそう。と、木々の間に小さな家が見えた。あそこで休ませてもらおう。

僕たちは運がいい。家の主はお医者さんだったんだ。とても優しい人でね、「おいで、子供たち。傷を治してあげよう」と言って、介抱してくれたよ。助かった。これで、また戦いの場に戻ることができる。

森はずいぶん長く続いたけど、ようやく山のふもとまで来た。おや、洞穴があるぞ。入ってみると、すごい、迷路になっ





ホーリィーマウンテンを登るところにある家の主人は医者だった。

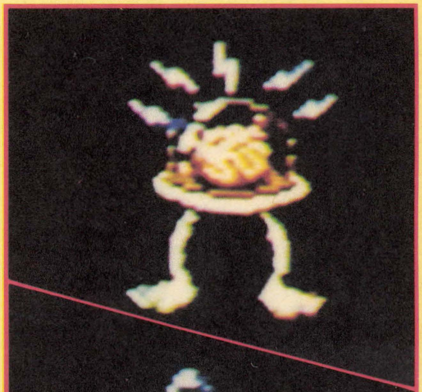


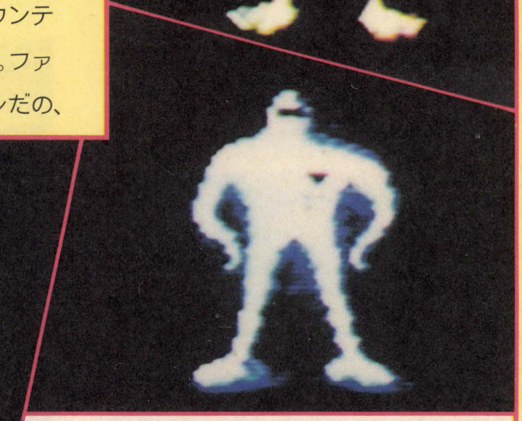
目の前に洞窟が現れた。ここを抜けないとホーリーローリーマウンテンには登れない。

ホーリー・ローリー・マウンテン

てる。自然にできたものみたいなんだけど、偉大だね、自然の力って。もう入り組んじゃってて、大変だ。短気なテディなんか、かんしゃくを起こしそうになってる。アナは、「暗くてこわいわ」と泣き出しそうだし。でも、なぜかこんなほら穴にまでプレゼントの箱が落ちてるんだ。傷薬とか最高のバットなんか、とても助かるよね。刀やボムはテディが喜ぶし、とびきりのフライパンは、アナが持ってると役に立ちそう。だから、けっこう楽しみながら僕たちは進んでいった。だけど、歩いても歩いても真っ暗な闇の中。おまけに、ブレイン（脳みそに手足の生えたお化け）なんかが、ぬっと出てくるしね。さすがに、「出口はまだぁ？」と思ったころ、光が見えた！　抜け出したぞ！

外へ出たら、周りはすっかり山の中だった。ホーリー・ローリー・マウンテンは、かなり高い山だと聞いている。ファイトで登ろう。でもまたスターマンだの、メガボーグ（よろいをきたロボ）だのが出没してきた。だけど、僕らは元気いっぱいだからね。武器も拾っちゃったし。こてんぱんにやっつけてやった。だけど、ガーゴイラ（とかげのお化け）が石の素をふきかけて、アナを石にしちゃった時はあせったな。でも、ヒーリングγで元通りだ。それにしても、高い山だなあ。行けども行けども岩だらけだし、怪しいものも見つからないよ。ほんとに、この山に謎が隠されてるんだろうか。僕たちは、だんだん不安になってきた。「なあ、





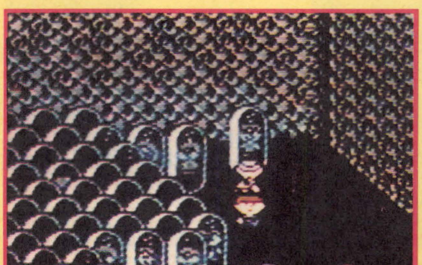


洞窟の中に待ちかまえている敵はとても強い。ブレインにあったら次元スリップで脱出だ。戦うとダメージが大きくなるぞ。

第IX章

オレたち、とんだ無駄足をやってるんじゃねえかな」さすがのテディも、ちょっと弱気になれかけてる。でも、そんな時、岩肌に洞窟が掘られているのが見つかった。しかも、中からかすかに人の声が聞こえてくるじゃないか！　僕たちは、洞窟めがけて突進した。と、その前に立ちふさがる者が！　女性のロボット（スージー）だ！　中に入らせないつもりだな。テディ、アナ、全力でこいつを倒そうぜ！　大事な見張りをしているだけあって、スージーは強い。テディも僕もたじたじだ。相手が女性だと思うと、何かやりにくいのかもしれない。だけど、僕らにはアナがついてるからね。大人しそうでも、いざという時にはスゴいんだ。最後には、とうとうスージーを破壊してしまった！　やったぞ！

洞窟に入った僕らは、信じられないような光景を見てしまった。そこにはカプセルがぎっしり並べられていて、そのひとつひとつに人間が閉じこめられているんだ。こ、これはもしかして、神隠しにあったという人たちじゃないか？　かわいそうに、こんなところに連れ込まれてたのか。アナが「ママ、ママはどこ？」と探す。テディも。すると、カプセルのひとつから弱々しい声がきこえた。「おお、あんたは、スノーマン教会の娘さんじゃないか？　あんたのお母さんは奥の方にいるよ。だが、今我々を助けるのは無理だ。あのマザーシップを何とかしないと…」マザーシップっていうのは、人々を町から連れ去った大きな宇宙船のことだね。それには、この事件の張本人が乗っているはず。何としても、そのマザーシップを見つけて、この人たちを助けてあげなくちゃ。みんな待っててね！　勢いよく洞窟をとび出したものの、どこへ行けばいいんだろう。この山のどこにマザーシップが隠されているのか。何もわ

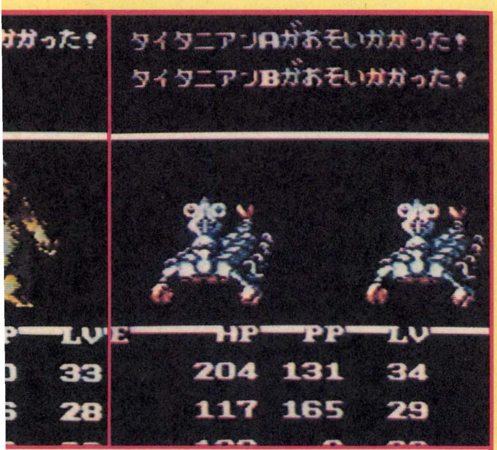


洞窟の中にはカプセルに閉じ込められた人たちが。アナのママもこの中に。



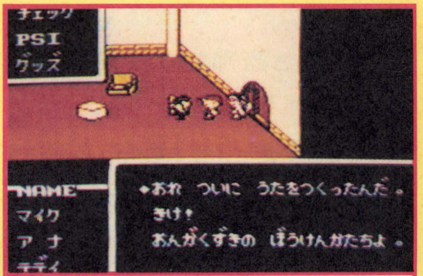
山にいる敵は最強の軍団だ。とくにグリズリーの最

からないまま、むやみに歩き回っているうちに、湖のほとりにやってきた。岩だらけの山にも、こんな美しい湖があったのか。ん？　そういえば、あの博士が、「湖の底に、すごいロボットが沈んでいる」とか言ってたっけ。幸いここにボートも泊めてあるし、こぎ出してみようか。僕たちはボートに乗り込んだ。だけど、エンジンの調子がおかしい。どうしても動かないんだ。あきらめるしかないみたい。湖もダメだし、マザーシップも見つからないし、八方ふさがりだ。どうしよう。三人とも考え込んでしまった。そうだ、いったん山を離れて頭を冷やしたらどうかな。突然、僕は、マジカント国の森で、ギター弾きの男が「すごく強くなったらまたオレに会いに来い」と言ったのを思い出した。何か深い意味があるのかもしれない。

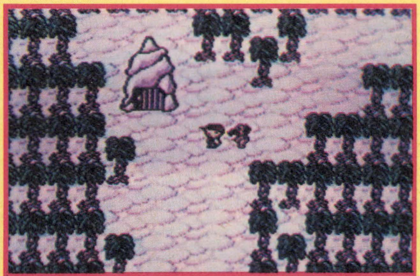


後の一撃をくらうとひとたまりもないぞ。

一時退却、僕たちはマジカント国へとやって来た。いつ来ても、ここは平和でファンタジックな世界だ。森では相変らずネコが地面を泳ぎ、指輪をくれた女の子は変らない笑顔で迎えてくれる。もっとも、ウッドーやベアル（熊）なんていうのがウロウロしてるけど、強くなった僕らの敵じゃないね。さて、ギター弾きの家に着いたぞ。僕を見ると、彼は歓声を上げ、「よう、よく来たな。ちょうどいい。たった今、オレはついに歌をつくったんだ。聴いてくれ、音楽好きの冒険家たちよ！」と、ギターをつまびき唄い出した。それはこんな歌だった。♬キュー



強くなったぼくたちは再びマジカントに帰り、詩人の唄を聴く。


詩人の住む家。しかし、もっと強くなってからでないとだめみたい。

第IX章

ピー人形がなぜ泣くの？　それはカナリアが鳴くからよ。サルが唄えばピアノも唄う。ピアノはお化けがひくのかな。砂漠のサボテン、淋しそう。ひとりでなよなよ唄ってる。ドラゴン倒れて音符が残る。イヴが最後に唄う時、クイーンマリーに時間が戻る♬…これは、僕たちの旅を唄った歌じゃないか。キューピーのオルゴール、かなりやのローラの唄、お化け屋敷のピアノ。ということは、聞き逃したサルやサボテンの唄なども、聞いてくるべきなのかな。そうすれば最後に、クイーンマリーに時間が戻る…って、どういうことかわかんないけど、きっとその時に、僕たちの旅も終わるんだっていう気がする。さあ、聞き逃したメロディーを探しに行こう！

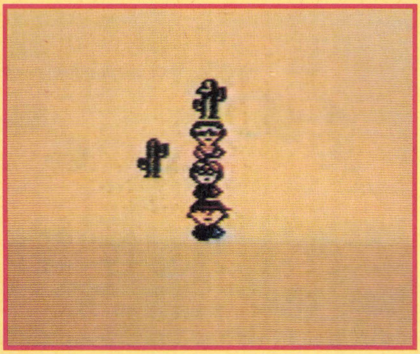
僕たちはギター弾きと別れ、マジカント国からマザーズデイへとテレポートした。もちろん、動物園の唄うサルのオリをめざしてね。それから、イースターの西に広がるアドベント砂漠へ。ここでは、ちょっとしたアクシデントが。例の軍人上がりのおじいさんが昔うめたという地雷をね、見事にふんじゃったんだよ。あっというまに僕らは黒こげ。でもまあ、何とか回復して、あの泉までたどり着いた。テントはそのままだけど、おじいさんは今はいないようだ。地雷を見つけた(?)ってこと、教えてあげようと思ったのにね。水をのんで、さらに砂漠を進んでいくと…あった、サボテンが林立している地帯だ。ひとつひとつ、サボテンを調べていく。唄ってるのなんてないぞ。テレパシーを使ってもダメ。だけど、ついに一つだけ、顔のあるサボテンを発見。テレパシーを使うと、おお、唄っている！とても淋しそうに、切々と。僕たちはそのメロディーを覚えた。

今度は、マジカント国の迷路に眠るドラゴンが相手だ。またもビューンやミラコと戦いながら、迷路を進み、ドラゴンのところへとやって来た。するとどうだ、今ドラゴンは眠りからさめた。でも僕らを見ると、「楽譜が欲しいのか？　弱い者には、この楽譜は渡せないぞ」と言い、



平和に戻った動物園には、あの唄うサルが戻っていた。ぼくは、心和むメロディーを憶えるのだった。







再びドラゴンは眠りについた。ドラゴンに貰った楽譜には、あの心和むメロディーが。

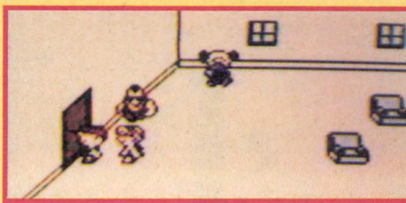
いきなり攻撃をしかけてきたのだ！　だけど、何としてもその楽譜を手に入れなければ！　僕たちの熱意がドラゴンを打ち負かした。戦いに敗れたドラゴンは、意外にあっさりと楽譜を渡してくれた。スポーツマンシップにあふれたドラゴンだね。さてねその古い楽譜を見て、アナがきれいな声で唄ってくれた。よし、このメロディーも覚えたぞ。

　これで、残るは「イヴが最後に唄うとき」というフレーズだけだ。出も、イヴって誰なんだ？　どこにいるんだろう？　頭を使う問題ならロイドが得意なんだけどね。そうだ、もう身体も回復してるだろうし、ロイドを迎えに行こう！　僕たちはバレンタインへととび、ロイドを置いてきたライヴハウスを訪ねた。でも、そこにはもうロイドはいなかった。サンクスギビングに帰っちゃったのかな。でも、サンクスギビングで、小学校やダンカン大工場など、ロイドのいそうなところを探し回ったけど、やっぱりいないんだ。仕方ない、三人でがんばってみよう。と、アナが、いいとこに気がついた。「ねえ、『イヴが最後に唄うとき、クイーン・マリーに時間が戻る』というのなら、イヴに会う時は旅も終わりに近いということよね。だったら、イヴはやっぱり山にいるんじゃないかしら。」テディも「ああ、オレもそう思う。こんなとこでグズグズしてる手はないぜ」と言うので、再び僕らはホーリー・ローリー・マウンテンへと戻ったのだった。

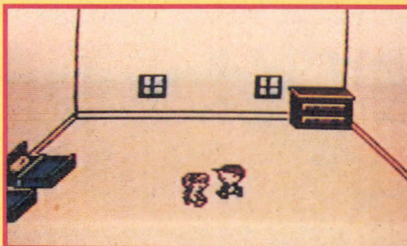
　だけど、戻ったものの、やっぱり手がかりはつかめない。ずい分、上の方まで来たと思うんだけどね。おや、あんなところに小屋がある。アナも疲れているみたいだし、ちょっと休んでいこうか。小屋の中には誰もいない。僕たちは久しぶりに、のんびりと身体を休めた。「オレ、ちょっとションベンしてくるわ」とテディが外へ。アナとふたりきりになるのは初めてだ。何だか緊張してしまう。なぜか2人とも、もじもじして黙りがちだ。

第IX章

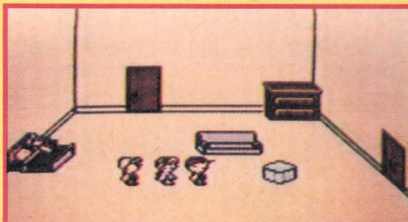
「ね、マイク…」アナが突然、思い切ったように口を開いた。僕の目を真正面から見つめて、「あのねー、私のこと好き？」ああ、そんなに見つめないで、僕は、息が止まりそうだ。「当り前じゃないか。初めて会った時から、僕はアナのことが大好きなんだ」「本当に？　よかった！　だって、私も、マイクのことが…」アナは、真赤になってうつむいてしまった。どうしよう、心臓がドクンドクンと波打って、バクハツしそうだ。ふたりして、ドキドキしながら言葉もなく向かい合っているところへ、テディが戻ってきた。「待たせたな。おい、お前らふたりとも、何で赤くなってんだ？」「い、いや、何でもないよ」「ほんとか？オレのいないスキに悪いことしようとしたんじゃねえだろうな。お兄さんは許さねえよ」テディがおどけてくれたおかげで、僕たちもぎこちなさがとれて、笑い出しちゃった。お互いの気持ちを確かめ合えて、とっても嬉しい。だけど、今は戦いの場だからね。いつまでもぎくしゃくしてはいられない。「よう、そろそろ出発しようぜ！」テディのかけ声で小屋を出ようとした時だ、外ですさまじい物音が。うわあ、出た!!　真赤な巨大ロボR 7038が突入してきた！　こいつはものすごく強い。パワーシールドも効果がない。最初にアナがやられた。続いてテディも。ひとり残った僕も、R 7038が発する強烈なビームにしびれ、意識が遠のいていった…。



洞窟を出た所に病院のような山小屋が。ちょっとここでひと休み。テディも気を配ってくれる。



ボクとアナ、二人は楽しくダンスの最中



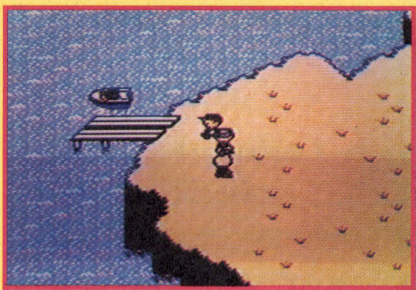
再びロイド君を、仲間に入れ、傷ついたテディ君をのこして旅だった。

気がつくと、僕はベッドに寝かされていた。そして、僕の顔を心配そうにのぞき込んでいるのは、ロイドだったんだ！「ロイド！　どうして？　ここはどこ？」思わず起き上がろうとする僕を押えて、ロイドが言った「ここは、森の小屋だよ。僕は戦車を調達して君たちのあ

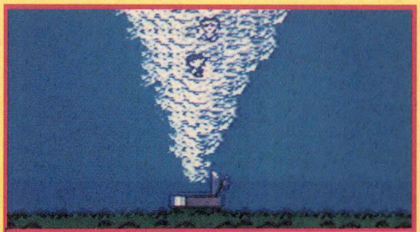
とを追ったんだけど、間に合わなかった。君たち３人がやられて倒れているのを見つけて、このお医者さんの小屋まで運んだんだ。先生が傷を治してくれたよ。アナも大丈夫。ただ、ちょっとテディは重傷で、当分は動けないらしい」戦車で？僕たちのために、そんなにがんばってくれたのか。僕は本当に嬉しかった。ありがとう、ロイド。このことは一生忘れない。

先生のおかげで、僕もアナもみるみる回復した。だけどテディは、いちばんひどくやられたもんで、まだベッドの中だ。でも意外と明るい。「いやあ、力だけじゃダメだってこと、思い知らされたね。ロイド、見直したぜ、ほんと」と笑ってる。それにしても、テディが全快するまでには、かなり時間がかかりそうだ。ロイドが、「弱虫だった僕が、テディに代って勇気をふるう番だ。テディ、僕を行かせてくれるかい？」と言った。テディは例の笑顔で「ああ、お前のことを、戦いに向いていないなんて言って、悪かったな。安心して任せるよ。頼んだぜ」と答える。そうして、ふたりは無言で握手をかわした。カッコいいなあ！

先生に、テディのことを頼んで、僕とアナとロイドは小屋をあとにした。また洞穴の迷路を抜け、山へ。メガボーグやグリズリーに襲われたりもしたけど、どうにか湖までたどり着いた。ロイドだったら、メカに強いからボートを動かせるんじゃないかと思うんだけど、ほらね、ロイドの手にかかると、たちまちボートは僕らを乗せてフルスピードで走り出した。さすがはロイド、どうやってそこへもぐるかが問題だよね。でも、そんな心配はいらなかったんだ。湖の真中あたりまで来たとたん、ボートは大きなうずに巻き込まれて、あっという間に、底へ吸い込まれてしまったんだから。湖底には、何と、基地のような大きな建物が、沈んでいた。すごいロボットというのは、この中にいるんだろうか。僕たちは、恐る



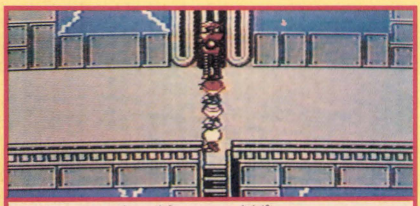
山の中腹を越えたところに、池がありボートが浮かんでいる。壊れたボートだがメカに強いロイド君がいればこんなもの……



渦に巻き込まれてしまったぼくたち。どうすることもできない。

恐る基地の中に足を踏み入れた。広い部屋がいくつもいくつも続いている。誰もいない。ここでは敵も襲って来ない。ほんとに、ここにロボットがいるのかな。いちごどうふに夢中の博士の言葉なんか信じたのがバカだったりして…。でも、最後の部屋で、とうとう見つけた！　女性ロボットだ。どこか優しそうな顔をしているぞ。静止してたんだけど、僕たちの気配を感じたのか、命をふき込まれたように突然しゃべり始めた。「ヨウコソ、マイク。ワタシノ名ハ、イヴ。アナタヲ待ッテイマシタ。ワタシノ父ハジョージ。宇宙ニ連レテイカレ、戻ッテキタ人。アナタヲ守ルノガ、私ノツトメ。連レテイッテ下サイ。」へえー、ひいおじいちゃんが作ったロボットなのか。やっぱり、ひいおじいちゃんは、宇宙に連れて行かれたんだ。そして、何とか逃げて来たんだろうね。だけど、未来にもきっと同じようなことが起こると思って、その悪い宇宙人に立ち向かう勇敢な子孫（もち、僕のこと）のために、このイヴを隠して置いたってわけか。「会えて嬉しいよ、イヴ。いっしょに戦おうね」と言うと、イヴはにっこりして、僕たちを湖岸まで運んでくれた。マザーシップへ、だいぶ近づいたような気がするぞ。

イヴを加えて、さらに山を登り続ける僕たち。おっと、また現れたぞ。ラストボーグやギガボーグだ。エナジーロボもいっしょだ。こいつが、ヤなやつでね。強いロボットにくっついて来て、エネルギーを注入するんだ。だけど、今度は僕たちにはイヴがついてる。イヴって、ほんとにスゴいロボットなんだよ。僕たちが今まで手こずってたロボットでも、あっという間に倒しちゃった。エナジーロボも破壊されて粉々だ。ざまーみろ！　それにしても、こんなロボットを何十年も前に作るなんて、ひいおじいちゃんて、すごい人だったんだね。そうだ、この旅が終わったら、イヴを僕の家に連れて帰ろう。パパもママも、きっと喜んでくれると思う。そして、みんなで仲良く暮らすんだ。楽しいだろうなあ。そんな



ぼくたちの目の前には、巨大ロボットが。どうやらぼくを待っていたらしい。このロボットが離れ島で聞いていたイブだ。

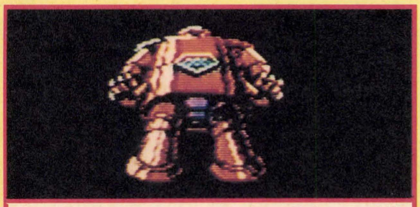


イブを連れて再び頂上をめざす。ひさしぶりの四人、いや三人と一体のパーティーかな？

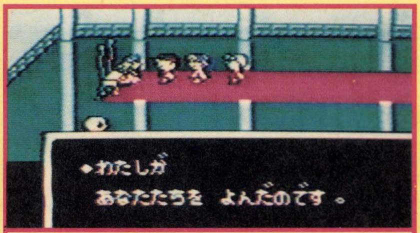
ことを考えながら歩いてると、わあっ!!　また出た！　R 7038だ！　イヴが立ち向かう。僕たちも応戦だ。でもR 7038は、イヴに攻撃を集中させてきた。ほとんど一騎討ち。すさまじいバトルだ。イヴの攻撃はすごいけど、身体が細い分だけ、損かもしれない。何しろ、あっちは戦車みたいにでかいヤツだからね。ダメージに強いんだ。さすがのイヴも、少しぐらついてきた。R 7038が強烈なビームを発してくる！　危ない！　イヴを助けようと、僕らが必死でビームをはね返そうとした時だ。突然、イヴの身体が爆発した！　耳をつんざくような音とともに、イヴの身体はR 7038とともに、四方に砕け散ったのだ。彼女は、R 7038を道連れに自爆することで、僕たちを守ってくれたんだ。命をかけて。アナが泣いた、そしてロイドも、僕も。ごめんよ、イヴ。僕の家に連れて行けなくて。君の犠牲を無駄にはのない。必ず、宇宙人から地球を守り抜くからね！　僕たちは、イヴを残して、再び歩き始めた。怒りと決意を胸に。進め、頂上は近い！

「ここだ！」僕らは、同時に叫んだ。それは、とある洞窟の前だった。四つの大きな岩が入口の前に立ちふさがっている。間違いない、きっとこの中に、マザーシップが！　勇んで駆け出す僕たち。でも、そう甘くはいかない。デーンと居すわった大岩は、びくともしないのだ。「ここまで来たのに」アナのかなしいつぶやき。落ち着くんだ。何か見落としていることがあるはず、そうだ！　あのギター弾きの歌には「イヴが最後に唄うとき」とあったじゃないか。イヴの唄を忘れていたんだ。三人は、イヴのもとへ大急ぎで引き返した。バラバラになって、もう動かないイヴ。でも、その胸の当りから、まさしく彼女の唄が流れてきた。ああ、とても甘くせつないメロディー。

その瞬間、意識がふわっと遠のき、気がつくと、僕たちはマジカント国のクイーン・マリーの前に立っていた。マリーはやさしく言った。「勇気ある子供たちよ。私があなた方をよんだのです。さあ、



ぼくたちの前にたちふさがる。R 7038 X、イブのダメージも激しい。イブの最後が近ずいた。



突然マジカントに呼び戻され、マリーの前に立つぼくたち。

第IX章

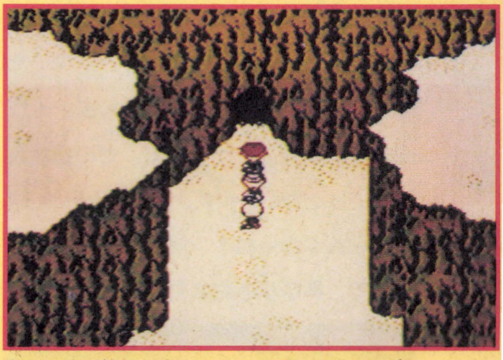
あなたたちが覚えてきた歌をきかせて下さい」僕たちは、クイーン・マリーのために唄う。じっと耳を傾けるマリーの瞳に、涙があふれて来た。そして、うわ言のようにささやき始めた。「そう、そうよ、この歌だった…。ああ、ギーグ…ほんとうの子供のようにかわいがったのに。しっぽをふってた、赤ちゃんだった。いつも、この子守唄をきかせて…でも、もう昔のギーグではないのね？」それから空をあおぎ、「ああ、ジョージ！ 私よ、あなたの妻マリアです。今、目がさめたわ。あなたの待つ天国へ、私も今から参ります」そう言うと、クイーン・マリーの身体は薄らいでゆき、やがて風の中に消えてしまった。そして、マジカント国も、同時に消 滅してしまったんだ！ 何て不思議なんだろう。クイーン・マリーが僕のひいおばあちゃんだったなんて。ロイドが静かな声で言った。「君のひいおばあちゃんは、ギーグという子（？）への愛のため、時間を止めてしまってたんだね。子守歌を思い出し、ギーグに絶望したとき、目ざめて時間を取り戻したんだ。マジカント国とは、マリーの意識が生み出した幻だったんだよ。」

マジカント国が消えると、僕たちはまた洞窟の前にいた。だけど、今はあの大岩があとかたもなく消え失せている。いよいよ、最後の戦いが近いようだ。意を決して、洞窟に足を踏み入れる。と、僕たちを待っていたのか、巨大な宇宙 船がゆっくりと浮上してきた！ まるで「スター・ウォーズ」か「未知との遭遇」の世界だ。これがマザーシップか。そして、ハッチから姿を現したのは、今まで見た



マリーに時が戻った。そして、マリーとぼくのつながりがあきらかに……そして、ギーグとはいったい……

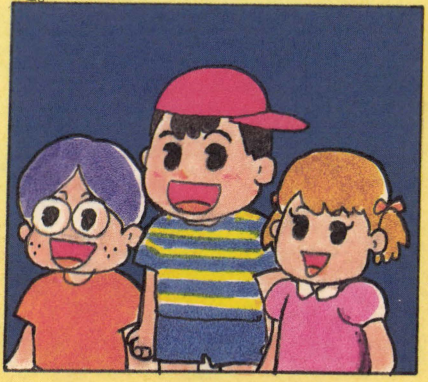

マジカントが消えていく。マリーもすべてはマリアの意識がつくりだしたものだった。



こともない生物。卵のような透明なカプセルに包まれ、しっぽと触角を持った生き物。宇宙人の胎児、といった感じだ。声もなく見守る僕に、そいつはテレパシーを送ってきた。「マイク、よくここまで来れたね、でも、お帰りなさい。醜い地球人たちは、私たちに滅ぼされる運命にあるのだ」冗談じゃない。こんなやつらに地球を滅ぼされてたまるか！　僕らは、そいつをめがけて攻撃した。しかし、全くダメージを受けた様子もなく、語り続ける。「地球人にも、美しい人はいる。そう、幼い私を育ててくれたマリア…。だが、その夫のジョージは私たちの星から大切な情報を盗み出して、はむかおうとした。そして、その子孫がまた、私たちの邪魔をしようとする。許せない！」

そうか、こいつがギーグなのか！　うわっ、攻撃してきた。強い衝撃。でも、攻撃の正体がつかめない。こちらの攻撃は少しも届かないようだ。「無駄だ。その虫けらのような力ではね。早く帰るがいい。だがマイク、あなたひとりなら助けてやってもいい。私と共にマザーシップに乗りなさい」ギーグが言う。だれがそんな事！　仲間を見捨てていくぐらいなら、死んだ方がましだ。「ふん、愚かな子供だ。思い知るがいい！」ギーグの攻撃はさらに強くなる。うっ、このままではやられてしまいそうだ。何とかこいつにダメージを与える方法はないのか？　こいつだって、弱点はあるはず…そうだ、マリアの子守唄だ！　僕は静かに子守唄を口ずさみ始めた。

思った通り、ギーグが初めてひるんだ。「や、やめなさい。その歌を」僕は唄い続ける。「やめないと、ひどいことになるぞ！」ギーグが耳をおさえて叫ぶ。アナも、僕に合せて唄い出した。続いてロイドも。「だまれ！　だまるんだ！」ギーグの怒りの攻撃！　でも、僕たちはひるまずに唄い続けた。三人の歌声が洞窟内にこだまする。「ギャァ〜!!」ギーグは身もだえして、高い悲鳴をあげ、ガクッとくず折れた。勝った、勝ったぞ!!　やがてギーグは顔をあげ、とぎれとぎれに言った。「くそ…こんな唄に私が敗れるなんて…だが、覚えていろ… 必ずまた、帰ってくるから…。」そしてマザーシップに乗り込むと、その大きな宇宙船は空へ、はるかかなたの宇宙へと消えて行ったのだった。



エピローグ——旅の終り

僕たち三人は、遠い宇宙へ消えて行くマザーシップを、長いこと無言で見つめていた。僕らの胸の中には、とても言葉で言い表わせないような歓びや悲しみ、感動がぎっしり詰まっていたんだ。旅は終わった。地球の危機は救われた。ギーグは、また戻ってくると言ったけど、あいつが子守唄に敗れたってことは、愛に負けたってことだ。だから、宇宙人が何度やって来ようと、僕たちは愛の力で戦い、追い払ってやる！

カプセルに閉じ込められていた人々を救け、アナはママと共にスノーマンへ、ロイドはサンクスギビングへ、そして僕はマザーズデイの家へ。テディも怪我が治り、バレンタインへ戻った。これからはまた、それぞれ別の道を歩くことになるだろう。だけど、僕たちの心はいつもつながっている。みんなが、この冒険の中で共に成長したからだ。本当の勇気というものを知り、愛と友情を分かち合った仲間なんだ。今、平和なマザーズデイの家で、すてきな家族に囲まれて暮らしながら、僕は思う。あれ以上の仲間には一生会えないだろうって。だから、みんなにも、こんなにすばらしい冒険が訪れますように。心から、そう祈ってるよ。



アイテムリスト

（モード別）（町別）

MOTHER™

アイテムリスト

略号説明		
	OF＝オフェンス	マ＝マジカント
	DF＝ディフェンス	T＝サンクスギビング
	HP＝ヒットポイント	L＝レインディア
	PP＝サイパワー	S＝スノーマン
		H＝ハロウィーン
	家＝マイホーム	E＝イースター
	M＝マザーズディ	B＝バレンタイン
	Z＝動物園	山＝ホーリー・ローリー・マウンテン

※アイテムリストの『効果』の一部がマニュアルと違うところがありますが、ここでは実戦をもとに作成したものです。

アイテムリストNo.1　武器　「使う」で装備できる

アイテム名	値段	入手場所	使用者	効　果
ボロのバット	80	地下室　Mのデパート	ぼく	OF＋★
ふつうのバット	500	M，Tのデパート	ぼく	OF＋★★
いいバット	1000	T，Lのデパート	ぼく	OF＋★★★
さいこうのバット	……	山に行くダンジョン	ぼく	OF＋★★★★
フライパン	300	Sの店	女の子	OF＋★
いいフライパン	700	Eの店	女の子	OF＋★★
とびきりのフライパン	……	山に行くダンジョン	女の子	OF＋★★★
ショックガン	300	Tのデパート	友達A	OF＋★
エアガン	1400	Eの店	友達A	OF＋★★
ナイフ	580	Bのデパート	友達B	OF＋★
サバイバルナイフ	1200	Bのデパート	友達B	OF＋★★
アシガルソード	……	マの地下大河	友達B	OF＋★★★
KATANA	……	山に行くダンジョン	友達B	OF＋★★★★
スリングショット	120	Mのデパート	全員	OF＋★
ブーメラン	1100	マの城，T，Lのデパート	全員	OF＋★★

アイテムリストNo.2　防具　「使う」で装備できる

アイテム名	値段	入手場所	使用者	効果
やすらぎのコイン	260	マのコインの店	全員	ＤＦ＋★
まもりのコイン	648	マのコインの店	全員	ＤＦ＋★★
まふうじのコイン	1200	マのコインの店	全員	ＤＦ＋★★★
ようせいのうでわ	460	マのうでわの店	全員	ＤＦ＋★
てんしのうでわ	825	マのうでわの店	全員	ＤＦ＋★★
めがみのうでわ	1510	マのうでわの店	全員	ＤＦ＋★★★
しずくのペンダント	700	マのペンダントの店	全員	ＤＦ・火炎系に対しダメージを少なくする ファイアー系
ほのおのペンダント	700	マのペンダントの店	全員	ＤＦ・水系に対してダメージを少なくする フリーザー系
だいちのペンダント	700	マのペンダントの店	全員	ＤＦ・雷系に対してダメージを少なくする サンダー系
フランクリンバッチ		ピッピにもらう、大工場でひろう	全員	ビーム系に対してダメージをはねかえす

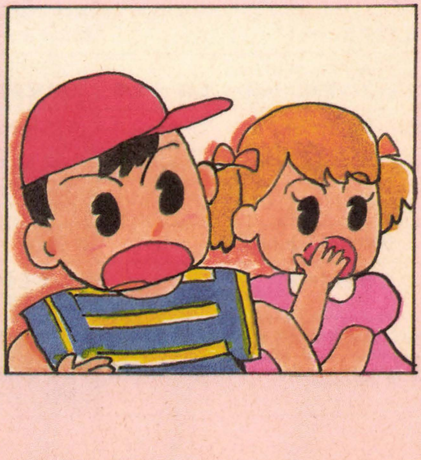
アイテムリストNo.3　回復　マップモード、バトルモードで「使う」や「食べる」でHP、PP等、回復（使用者　全員）

アイテム名	値段	入手場所	効果　備考
オレンジジュース	5	家の妹（最初いくつでもタダ） M,T,L,Bのデパートとバーガー屋	ＨＰ＋★
フライドポテト	15	M,T,L,Bのバーガー屋	ＨＰ＋★★
ハンバーガー	25	M,T,L,Bのバーガー屋	ＨＰ＋★★★
パン	30	M,T,L,Bのデパート/S,Eの店など	ＨＰ＋★★ 「使う」でパンくずになる
マジックハーブ	30	マの城,店,マのあかいくさを泉で使うとこれに変化	ＨＰ＋★★
スポーツドリンク	75	M,T,L,Bのデパート	ＨＰ＋★★★
きずぐすり	194	M,T,L,Bのデパート/ E,Sの店/Ｚの管理事務所/小工場/大工場	ＨＰ完全回復
いちごとうふ	975	マの城/L,Bのデパート	ＨＰ＋★★…Ｂの展望台から行ける研究所で使用
でかぶくろ	……	マ	マジックハーブが30はいっている ……………………戦闘中使用不可
どくけし	20	M,T,L,Bのデパート/小工場	毒を消す
ぜんそくスプレー	148	M,T,L,Bのデパート	ぜんそくを治す （友達Ａに持たせると良い）
うがいぐすり	175	Ｓの店/Ｌの予言者（タダ）,助手（＄10）	かぜを治す
サイパワーストーン	……	マの城/砂漠の遺跡	ＰＰを20前後回復する。 15回くらい使用可

アイテムリストNo.4

特殊武器　バトルモードの時「使う」で効果を発揮する

アイテム名	値段	入手場所	使用者	効　果
ペンシルロケット	……	小工場　大工場	友達A	敵一人
ボム	……	大工場　ボマーから	友達A	敵全員
レーザービーム	……	大工場　スクラッパーから (参考) デスバーボット＆エナジーロビのコンビ	友達A	敵一人
デスビーム	……	イースター、バレンタイン周辺で敵を殺すと入手出来る時がある	友達A	レーザービームより強力
かえんほうしゃき	……	Bのブラブラ団から	友達A	敵全員 2、3回しか使えない
ねばねばマシン	3200	Tの小学校の理科室	友達A	動物系の敵の動きを止める
さっちゅうスプレー	300	M、T、L、Bのデパート	全員	昆虫系の敵に
スーパースプレー	……	大工場	全員	昆虫系の敵に
のみとしらみ	……	のらいぬから　Lの汚い人	全員	動物系の敵のOF、DF共下げる
ロープ	600	T、Bのデパート　小工場等	全員	PSIを使う敵の動きを止める
エンジェルシード	……	だいウッドー（マジカント）	全員	混乱から立直らせる
ふしぎなメガホン	……	マの城	全員	敵のファイトを下げる 失敗すると逆効果
やみのライト	……	マの城	全員	敵を闇で包む
のろいのことば	……	Bの展望台から行ける研究所で、いちごとうふと交換	全員	「きらい」と言う
あいのことば	……	Bの展望台から行ける研究所で、いちごとうふと交換	全員	「すき」と言う



アイテムリストNo.5　その他のアイテム　マップモードで使用

アイテム名	値段	入手場所	使用者	効　果
キャシュカード	……	最初から所持	全員	キャッシュディスペンサーでお金を出し入れ
ちかしつのかぎ	……	犬の首輪	全員	家の地下室に入れる
そうそふのにっき	……	家の地下室	全員	マに行く呪文が書いてある
ちず	……	家の地下室	全員	自分と街など位置の確認
カナリアのひな	85	Mのデパート	全員	歌姫ローラに渡す タダでも入手可
動物園のかぎ	……	Mの町役場の助役から	全員	動物園に入るため
あかいくさ	……	マに生えている	全員	泉につけるとマジックハーブに
きぼうのオカリナ	……	マの城	全員	覚えているメロディだけを奏でる
友情のゆびわ	……	マの女の子	全員	イースターから、バレンタインの道中で体力回復
ふしぎなキャンディ	……	マの泳ぐねこ	友達A	ファイトがＵＰ
ふしぎなリボン	……	マの地面を泳ぐねこ	女の子	フォースがＵＰ
ファイトカプセル	……	マの城　小工場	全員	ファイトがＵＰ
ウィズダムカプセル	……	大工場	全員	かしこさがＵＰ
フィジカルカプセル	……	小工場　大工場	全員	体力がＵＰ
スピードカプセル	……	小工場　大工場　遺跡	全員	スピードがＵＰ
めのうのつりばり	……	マの地下大河	全員	一瞬でマのワープ地点へ
さいしゅうへいき	1048	Ｔの小学校の理科室	全員	「電源を切ってしまえ」と言う
タイムマシン	2775	Ｔの小学校の理科室	先生	友達Ｂが爆発させた時間に戻る
ロケット（ほんもの）	3485	Ｔの小学校の理科室	先生	宇宙空間へ飛びさる
ものさし	22	マの城　Ｔのデパート	全員	「色々な物の長さがわかった」と言う
テレホンカード	50	Ｔのデパート Ｌのアンケートに答える	全員	電話する際使用
つうこうきょかしょう	……	大工場に行く途中に落ちている	全員	大工場に入る際使用 （期限が切れている）
ふしぎなぼうし	……	Ｌの駅	女の子	女の子に渡すと仲間になってくれる
ゆうれいやしきのかぎ	……	Ｈのローズマリーの娘から	全員	ゆうれいやしきに入れる
ちけっとのはんけん	……	砂漠で飛行機に乗る	全員	10枚ためると戦車に乗れる
ライブのチケット	350	Ｂのデパート	全員	ライブハウスに入れる ダフ屋から買うと＄1200
パンくず	……	パンを「つかう」で変化	全員	パンをつかった場所に戻る
いれば		レインディアの町の北西の山中	全員	博士に渡すと、 うがい薬を多くもらえる

アイテムリスト

マザーズデイ

【デパート】

ぜんそくスプレー・傷薬・殺虫スプレー・毒消し・ボロのバット・スリングショット・ふつうのバット・オレンジジュース・パン・スポーツドリンク・カナリアのひな・ピッピからフランクリンバッヂ・ハンバーガ・オレンジジュース・フライドポテト・ハンバーガー

サンクスギビング

【デパート】

ぜんそくスプレー・傷薬・殺虫スプレー・毒消し・ふつうのバット・いいバット・ブーメラン・オレンジジュース・パン・スポーツドリンク・ものさし・テレホンカード・ショックガン・ロープ・ハンバーグ

【管理事務所】

パン・傷薬・ロープ

マジカント

ブーメラン・サイパ・ファイト・赤い草・めのうのつりばり・友情のゆびわ・ロープ・ものさし・いちご・ふしぎなキャンディ・ふしぎなリボン・ふしぎなメガホン・やみのライト

【スィートリトル工場】

毒消し・フィジカル・ファイト・スピードカプセル・傷薬・ナイフ・ハーブロープ・ペンシルロケットはいくらでも

【ダンカン大工場】

ロープ・ボム・ペンシルロケット・ウィズダムフィジカル・スピードカプセル・傷薬・フランクリンバッヂｅｔｃ

【サンクスギビングの小学校理科室】

最終兵器

1048　「電源を切ってしまえ」

タイムマシン

2775　ロイドが爆発させた時に戻る

ねばねばマシン

3200　Ｂモード　ロイドが使えるｖｓ
　　　動物の動きを止める

ロケット（本物）

3485　先生に飛ばされてしまう

レインディア

【デパート】

毒消し・ぜんそくスプレー・傷薬・殺虫スプレー・いいバット・ブーメラ

ン・オレンジジュース・パン・スポーツドリンク・いちごとうふ・ハンバーグあり、アンケートに答えるとテレホンカード・何かあげるとのみとしらみ

【予言者の家】

うがいぐすり・タダと10

【えき】

ふしぎな帽子

スノーマン

【店】

パン・うがい薬・傷薬・フライパン

ハロウィーン

ゆうれいやしきのカギ

イースター

【店】

パン・傷薬・いいフライパン・エアガン

【砂ばく】

飛行機・チケットの半券・10枚以上戦車・サイパワーストーン・スピードカプセル

飛行機　Aコース……5ドル

Bコース……10ドル

Cコース……15ドル

バレンタイン

ハンバーグあり

【デパート】

毒消し・ぜんそくスプレー・傷薬・殺虫スプレー・オレンジジュース・パン・スポーツドリンク・いちごとうふ・ライブのチケット・ナイフ・ロープ・サバイバルナイフ・展望台からロケット・いちごとうふと交換・のろいの言葉・あいの言葉

【山へ行く前の家（湿地帯の所）】

傷薬タダ

【山へ行く前のダンジョン】

さいこうのバット・とびきりのフライパン・KATANAなど

【敵から】

エンジェルシード	→	タイウッド
のみとしらみ	→	のら犬
レーザービーム	→	スクラッパー
マジックハーブ	→	スネーク
スーパースプレー	→	
ロープ	→	ロープ

冬樹社のファミコンゲーム攻

スーパーマリオブラザーズ3シリーズ

1 完全攻略大百科

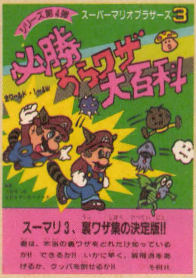
三好竜二＆ＲＰＧオールスターズ・編著



スーパーマリオブラザーズ３攻略シリーズの第２，３弾合本版！　スーマリ３の全ワールド（１－８Ｗ）を徹底的に分析・解剖し、かくれキャラクターやトラップなどを完全に攻略する方法を全面的に公開！　完全攻略本の決定版。　※ 定価780円（46判・144頁）

2 必勝うらワザ大百科

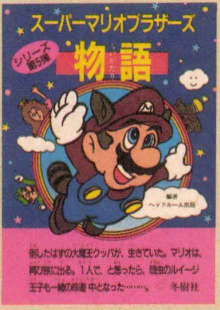
三好竜二＆ＲＰＧオールスターズ・編著



スーマリ３を攻略してしまった人にも、まだまだこのゲームは奥深い！手ごわい敵をやっつける、とっておきのうらワザがあるのだ！　この本は、君のテクニックをより向上させ、より早く、より効率的にゲームを展開していくための必読書なのだ。

定価680円（46判・96頁）

3 スーパーマリオブラザーズ物語



スーパーマリオブラザーズ３の全ワールドを、主人公マリオの活躍を中心にまとめた、痛快活劇風読み物。笑いあり、涙あり、ペーソスありの場面展開に、君は何を読み取るだろうか？　マリオは君だ、君こそスーパーマリオだ！　ゲームの全体像を知ることが出来るばかりか、読み物としてゲームに関係なく楽しめる。　定価530円（46判・136頁）

ご質問はハガキで下の住所までお送りください。
なお，ご質問はこの本の内容に限ります。

〒160　東京都新宿区荒木町23
株式会社冬樹社
MOTHER係

電話でのお問い合せにはお答えできません。

MOTHER
完全攻略マニュアル

印　　刷	1989年10月31日
発　　行	1989年11月10日
著　　者	小田清　藤原和喜
発 行 者	高橋直良
発 行 所	株式会社冬樹社 〒160　東京都新宿区荒木町23 ☎03(225)4731
印 刷 所	株式会社七光社
製 本 所	小高製本工業株式会社

㊙データ

これで完全攻略（かんぜんこうりゃく）
ふくろとじ
重要（じゅうよう）チェックポイント！

MOTHER™

重要（じゅうよう）チェックポイント！

マザーズデイ

マイホーム・マザーズデイの町

1　人形（キューピー）の、お腹からメロディーが。

2　妹からジュースがたくさんもらえる。

3　ピッピを連れ戻した後、ピッピの家でフランクリンバッチ。

4　カラスにはもちものを奪われることがある。

5　もちものに、まだ持つことのできる余裕があると、戦いの後にひろいものをすることがある。

6　曾祖父の日記は読むことができるが、よくわからない。

7　動物（犬など）ＳＰＩ能力で会話ができる。

8　地図を見ると現在地が一目瞭然。

9　デパート最上階でカナリアの子供をお金をはらわずにただでもらえる。

10　記録は、パパに電話をしよう。（公衆電話などを使用）

11　お金はデパートで、キャッシュカードでおろす。

12　入金は、たたかいに勝つと同時にパパが銀行に振り込んでくれる。

13　マザーズデイの東南の隅にいる二人はゾンビ。

14　マザーズデイの東にはサンクスギビングへの橋があるが、渡れない。

15　マザーズデイ近辺のできごとが、すべて終わると動物園東の橋がわたれる。

墓場

1　墓場に行く途中、分れ道の西にはヒーラーの家があり、電話無料。またＰＲ回復などをしてくれ

る。ただし有料。

2　墓場の墓石の地下には棺桶が四つ。左下にピッピがいるが、他の3つをあけて経験値かせぎをする。

3　ピッピを救出したらすぐに町役場にいかず、二人で経験値かせぎをすると楽。とくに動物園のあたりがGOOD（レベル12ぐらいまで）。

4　町役場にピッピを連れて行って動物園の鍵をもらう。

カナリア村

1　白黒の塔の後に壁がない。

2　カナリア「ローラ」に子供を返すとメロディーが。

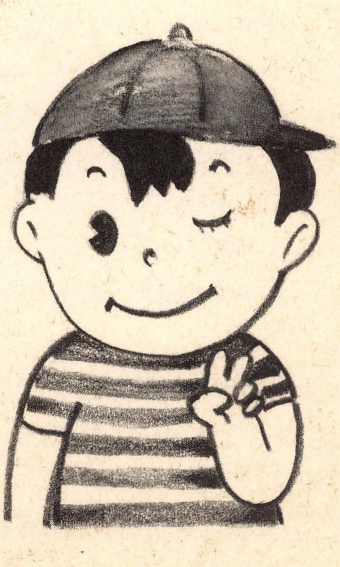
動物園

1　動物園の入り口でサルに鍵を奪われるがそのまま突入。

2　動物園のオリに付いている看板に読めるものあり。

3　動物園では建物の最上階に目指す目的があるが、目的達成までに経験値かせぎがGOOD。

4　平和に戻った動物園には、唄うサルが。



重要(じゅうよう)チェックポイント！

マジカント

1　マジカントの入り口は、動物園の東の橋を渡った洞窟にある。曾祖父の日記・PSIがポイント。

2　マジカントに行く前に、最低でも2710はもっていこう。マジカントに自動支払い機はない。

3　物まねのうまい少年がパパのかわり。

4　キャッシュカードを貸しても大丈夫。

5　マリーの宮殿では、一番奥のプレゼントボックス六個のうち、一つしか手に入らない。ブーメランがBEST。

6　マリーの泉でPSIをつかうと。

7　めのうのつりばりは、必需品

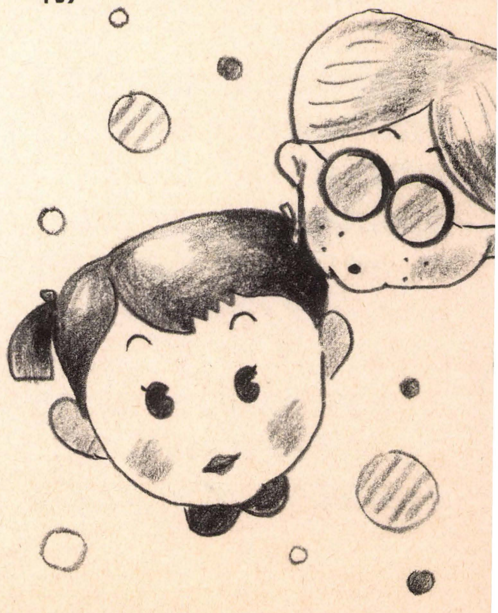
8　おまけビューンのたおした経験値はひとりにたくさん。

9　マジカントからの脱出は、孤独な男との会話にあり。

10　防御の装備を最強にできる町。

11　妹と同じようにアイテムを預かってくれる場所。

12　フライングマンを連れているとダメージを受けないが、大ウッドーの燃えるときには受ける。(新しい仲間の経験値上げの時に便利)



サンクスギビング

1　風邪には注意。

2　ロイドは、ペンシルロケットをもって行くと仲間に。

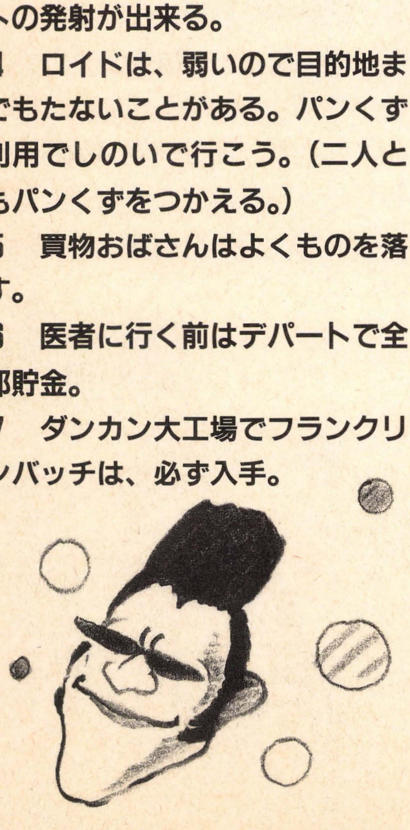
3　ロイドは、メカに強くロケットの発射が出来る。

4　ロイドは、弱いので目的地までもたないことがある。パンくず利用でしのいで行こう。（二人ともパンくずをつかえる。）

5　買物おばさんはよくものを落す。

6　医者に行く前はデパートで全部貯金。

7　ダンカン大工場でフランクリンバッチは、必ず入手。



レインディア

1　線路沿いの西にいるよげんしゃのおじさんはいいものをくれる。

2　ＰＳＩでしか話せない女の子

ハロウィーン

1　ゲームのアシスタントのおねいさんがヒントを３つくれるが、3000ドル必要で、いちどしか話しかけれない。（一度話しかけると消えてしまうから注意）

2　パンくずの使い方に注意。マジカントに行くとパンくずを使用しても場所が変わってしまう。

3　バイオコウモリに石にされないように。（ＰＳＩを使える者が二人いると楽）

4　ホテルのフロントマンには注意。

5　おばけやしきの白ねずみの話。

重要(じゅうよう)チェックポイント！

スノーマン

1　レインディアの駅で帽子をもらったらスノーマンへ行って早めに仲間をふやすことをおすすめします！

2　おとうさんから電話をもらったら自分の名前（プレイヤー）をいれておこう。エンディングで………

3　マジカントでねこからリボンをもらおう。

砂漠

1　砂漠にある遺跡の前には巨大ロボが待ち受けている。戦車を使って突入。

2　ヒコーキのチケットを10枚集めるため、もちものに余裕をもたそう。

3　砂漠の地図を把握するには、戦車で遺跡に行く前にひとまわり。

4　地雷は是非さがしてほしい。

イースター

1　テレポートを覚えることができる町。（無理をしてでも、早めにくると移動が楽になる。）

2　ロイドに新しい武器を装備。

3　湿地帯への橋

4　湿地帯は、強敵もたくさん。途中で懐しい友達と再会し休憩。

※ここで、スノーマンでパパからもらった電話で、名前をただしく入れなかったひとは、もういちど。



バレンタイン

1　ここまできたら、いちどマジカントにもどり、ギター弾きに会いに行こう。

2　ホーリー・ローリー・マウンテンへのみちが北東にあり。

3　離れ島にはいちごどうふが3ついる。(イブの話)

4　唄うサボテンの話し。

5　新しい仲間との一打。

6　メロディーは7つ。



ホーリー・ローリー・マウンテン

1　橋を二つ渡ったところの山小屋の上に、斜めにしか通れない洞窟までの近道あり。

2　洞窟の中には、さいこうのバット、とびきりのフライパン、KATANAこれだけは手にして行きたい。

3　ここから先は、サイパワーストーン、キズグスリ、パンくずは必需品。

4　アナのPP回復には相手にサイコブロックをかけ、サイマグネットで吸収(PSI攻撃を得意とする敵に有効。他のものはしばらくガード)

5　アナとマイクにはフランクリンバッチをもたそう。

6　モーターボートを修理できるのはロイドだけ。



冬樹社